

立川市第3次スポーツ推進計画

令和7（2025）年度～令和11（2029）年度



**令和7（2025）年
立川市**

目 次

第1章	計画策定の基本的な考え方	1
1	スポーツ推進計画の策定経緯等	1
2	計画の位置付け	2
3	計画の期間	2
4	国及び東京都の動向	3
5	スポーツを取り巻く社会状況の変化と課題	6
第2章	第2次スポーツ推進計画の成果と課題	9
1	第2次スポーツ推進計画に関する振り返り	9
2	市民の意識	18
3	課題と方向性	24
第3章	計画の体系	25
1	基本理念	25
2	基本方針	26
3	数値目標	28
4	施策を推進する視点	29
5	基本施策	30
第4章	施策の展開と取組	31
1	基本方針1 誰もがスポーツを楽しむ機会の創出	31
(1)	ライフステージに応じたスポーツ活動の促進	31
(2)	障害者スポーツの普及・促進	33
(3)	多様な人が楽しめるスポーツ活動の促進	34
2	基本方針2 交流と連携によるスポーツ文化の形成	37
(1)	地域スポーツ団体との連携によるスポーツ活動の促進	37
(2)	スポーツ大会を通じた交流機会の促進	38
(3)	ホームタウンチーム等との連携・協働	39
3	基本方針3 スポーツ環境の充実	41
(1)	スポーツ施設の有効活用・利用促進	41
(2)	地域人材・組織の育成と環境づくりの促進	42
(3)	スポーツ情報を活用した興味・関心の喚起	43
4	基本方針4 スポーツ施設の整備・マネジメント	45
(1)	持続可能なスポーツ施設の整備・充実	45
(2)	スポーツ施設の維持管理	45
第5章	計画の推進	47
1	計画の市民等への周知と協働による推進	47
2	計画の進行管理	47
3	教育委員会や庁内各課との連携・協力	47
4	立川市スポーツ推進審議会への進捗報告・意見聴取	47

第6章	資料編	48
1	用語解説	49
2	策定組織の開催経過	51
3	立川市民のスポーツに関する意識調査結果	52
4	小中学生向けスポーツに関する意識調査結果	77
5	スポーツ施設の利用状況（体育館・屋外）	86
6	スポーツ事業の実績	92
7	立川市スポーツ推進審議会条例	96
8	立川市スポーツ推進審議会委員名簿	97
9	立川市スポーツ推進委員協議会組織図	98
10	立川市スポーツ推進委員規則	99
11	立川市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱	100

「スポーツ」とは

スポーツ基本法(平成 23 年法律第 78 号)の前文では、「スポーツ」は次のように定義されています。

心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、
自律心その他の精神の涵養等のために
個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動

人はスポーツをすることによって、楽しさや喜びなどを覚えたりするほか、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進などさまざまな効果が期待できます。

そのため、本計画においても、スポーツとは、ルールに基づいて勝敗や記録を競うものだけではなく、余暇時間や仕事時間等を問わず健康を目的とする身体活動、さらには遊びや楽しみを目的とした身体活動（相応のエネルギー消費を伴うもの）まで、そのすべてを幅広く含むものとしています。

また、スポーツには、自ら行う「する」スポーツ、スポーツ観戦などの「みる」スポーツ、ボランティアとしてスポーツ大会の運営に関わるなどの「ささえる」スポーツの側面があります。

第1章

計画策定の基本的な考え方

1 スポーツ推進計画の策定経緯等

平成7(1995)年6月に立川市スポーツ振興審議会から21世紀を見据えた本市のスポーツ振興方針における答申をいただき、これを踏まえ、平成9(1997)年2月に庁内策定委員会を設置し、本計画の礎が築られました。

◆ スポーツ振興計画（平成12(2000)年度～平成16(2004)年度）

【計画の趣旨】

「心と体の健康づくり」…生活様式の変化に伴うストレスや運動不足の対応
「生きがいづくり」…能力が十分に発揮でき、自己実現が図れ、心の豊かさにつながる
「コミュニティづくり」…人間的な豊かなふれあいを醸成する

◆ 第2次スポーツ振興計画（平成17(2005)年度～平成21(2009)年度）

【計画の趣旨】

市民一人ひとりが自らの希望に応じたスポーツの機会を享受できる条件を整備するとともに、「だれでも」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」生涯スポーツのまちづくりを目標に進める。

◆ 第3次スポーツ振興計画（平成22(2010)年度～平成26(2014)年度）

【計画の趣旨】

平成20(2008)年度の立川市スポーツ振興審議会の答申を尊重するとともに、市民意向調査結果などを参考に、子どもや障害者、高齢者まで、また体力の違いに応じ、すべての人が身近にスポーツに親しむことができるよう、「生涯スポーツのまち」づくりを実現する。

◆ スポーツ推進計画（平成27(2015)年度～平成31(2019)年度）

【計画の趣旨】

市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことができるまち立川を基本理念に、「市民のライフステージに応じたスポーツの推進」「交流と連携による地域スポーツの推進」「スポーツ環境の充実」を基本方針に掲げ、各種取組を推進することにより、スポーツ実施率70%の取組目標を実現する。

※ 平成23(2011)年6月に「スポーツ振興法」を全面改定した「スポーツ基本法」が制定されたことを受け、東京都はスポーツ振興計画を見直した際に、「スポーツ推進計画」と名称を変更しました。本市においても、東京都の例に倣い、「スポーツ推進計画」としました。

◆ 第2次スポーツ推進計画（令和2(2020)年度～令和6(2024)年度）

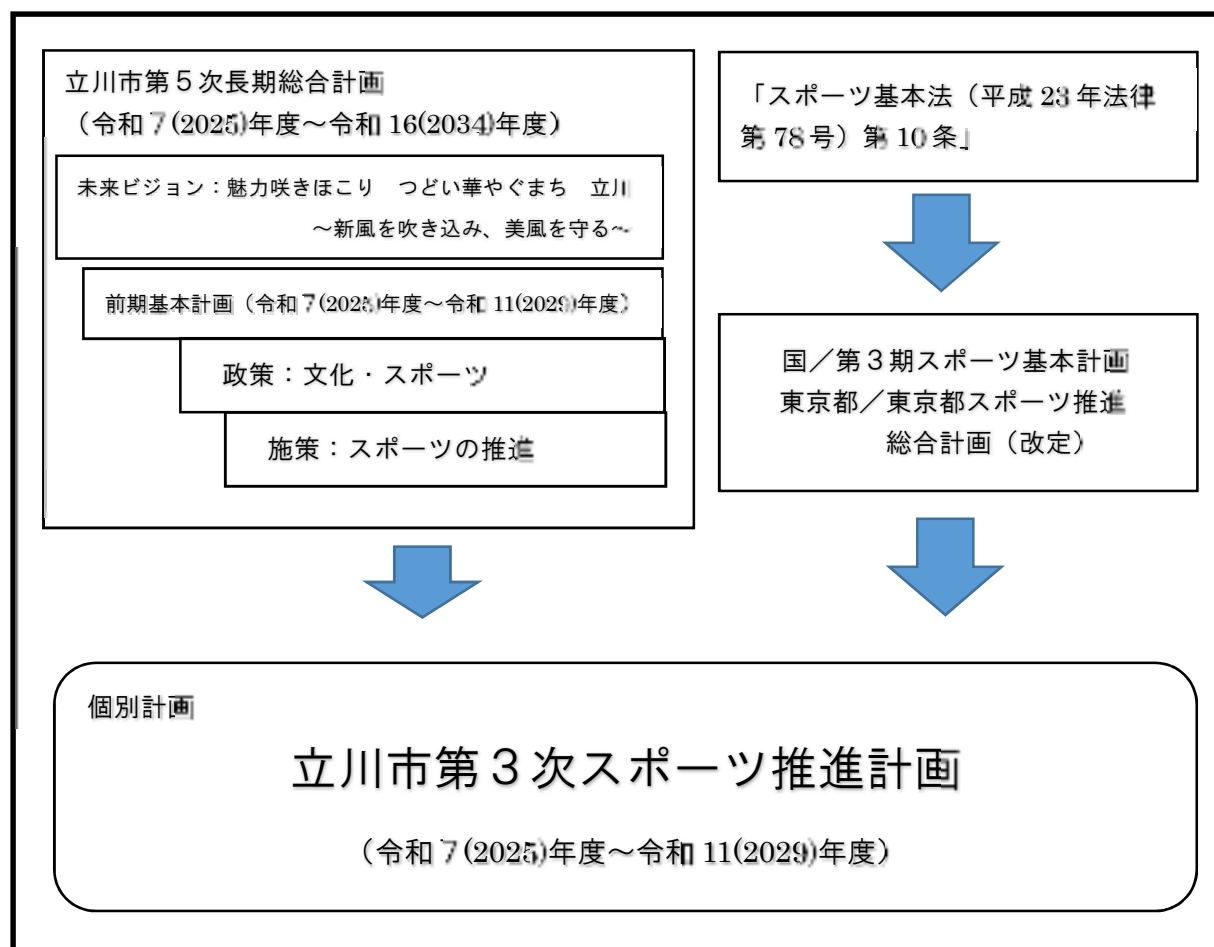
【計画の趣旨】

前計画の基本理念及び基本方針を踏襲し、各種取組を推進することにより、スポーツ実施率70%の取組目標を実現する。

2 計画の位置付け

本市では、令和7(2025)年3月に第5次長期総合計画（令和7(2025)年度～令和16(2034)年度まで）を策定し、まちづくりの未来ビジョン「魅力咲きほこり つどい華やぐまち 立川」を実現するため、令和7(2025)年度から令和11(2029)年度までの5年間の計画期間とする前期基本計画を策定し、スポーツ分野の個別計画としてスポーツ推進計画を策定しました。

第3次スポーツ推進計画は、国の「第3期スポーツ基本計画」（令和4(2022)年3月策定）を参酌するとともに、東京都の「東京都スポーツ推進総合計画」の改定に向けた議論も参考に策定しました。



3 計画の期間

第5次長期総合計画前期基本計画の計画期間と整合を図り、令和7(2025)年度を初年度とする5年間の計画期間とします。

4 国及び東京都の動向

(1) 国の動向

◆ スポーツ立国戦略

文部科学省では、平成 22(2010)年 8 月に「スポーツ立国戦略」を策定し、わが国の「新たなスポーツ文化の確立」を目指し、「人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」、「連携・協働の推進」を基本的な考え方として、おおむね 10 年間で実施すべき 5 つの重点戦略を定め、その体制整備のあり方などを示しています。

【重点戦略】

- ① ライフステージに応じたスポーツ機会の創造
- ② 世界で競い合うトップアスリート※の育成・強化
- ③ スポーツ界の連携・協働による「好循環」の創出
- ④ スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上
- ⑤ 社会全体でスポーツを支える基盤の整備

◆ スポーツ基本法

「スポーツ立国戦略」を基に、「スポーツ基本法」が平成 23(2011)年 6 月に制定されました。スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であることの考えに立った新しい時代におけるスポーツの基本理念を提示し、国、地方公共団体、スポーツ団体をはじめとする関係者の連携と協働によって、その基本理念の実現を図ることを具体的に規定しています。

◆ スポーツ基本計画

平成 24(2012)年 3 月に「スポーツ基本計画」が策定され、今後 10 年間を見通したスポーツ推進の基本方針と、今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策を定め、一体的な推進を図ることとしています。

【今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策】

- ① 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
- ② 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- ③ 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
- ④ 国際競争力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備
- ⑤ オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進
- ⑥ ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上
- ⑦ スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進

◆ 第 2 期スポーツ基本計画

平成 27(2015)年 10 月にスポーツ庁が発足し、これまで複数の省庁で行われていたスポーツ関連業務や権限が一元化されました。また、平成 29(2017)年 4 月に策定された「第 2 期スポーツ基本計画」は、令和 3 (2021)年度までの 5 年間を計画期間とし、スポーツ参画人口を拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことが基本方針とされています。

【第2期スポーツ基本計画の4つの指針】

- ① スポーツで「人生」が変わる！
- ② スポーツで「社会」を変える！
- ③ スポーツで「世界」とつながる！
- ④ スポーツで「未来」を創る！

【数値目標】

スポーツ実施率 65%（週1回以上スポーツを実施する成人の割合）

◆ 第3期スポーツ基本計画

令和4(2022)年3月に、令和4年(2022)から令和8年度(2026)を計画期間とする「第3期スポーツ基本計画」を策定し、第2期スポーツ基本計画の中長期的な4つの指針を踏襲しつつ、新たな視点として、①社会の変化や状況に応じて柔軟に対応するというスポーツを「つくる／はぐくむ」という視点、②さまざまな立場・背景・特性を有した人・組織が「あつまり、ともに、つながる」ことで課題に取り組む視点、③性別や年齢、障害の有無、経済的な事情、地域事情等に関わらず、「誰もがアクセスできる」スポーツ環境や社会の実現を目指す視点を加え、スポーツそのものが有する価値や、スポーツを通じた地域活性化等に寄与する価値を高めるための取り組む方向性が示されています。

(2) 東京都の動向

◆ 東京都スポーツ推進計画

スポーツ基本法の制定を受け、「東京都スポーツ振興基本計画」（平成20(2008)年7月）を見直し、平成25(2013)年3月に「東京都スポーツ推進計画」が平成32(2020)年度までの新たな指針として策定されました。

【基本理念】

スポーツの力をすべての人に

【目標】

スポーツ実施率 70%（週1回以上スポーツを実施する成人の割合）

【戦略】

- ① スポーツに触れて楽しむ機会の創出
- ② スポーツをしたくなるまちづくり
- ③ ライフステージに応じたスポーツ活動の支援
- ④ 世界を目指すアスリートの育成国際交流、観光、都市づくり政策等との連動

◆ 東京都障害者スポーツ振興計画

全国初となる行政計画「東京都障害者スポーツ振興計画」を平成24(2012)年3月に策定し、「東京都スポーツ推進計画」と相互に連動させて、障害の有無に関わらず、誰でも身近な地域でスポーツを楽しめる環境の整備を重点的に進めることとしています。

◆ 東京都スポーツ推進総合計画

平成30(2018)年3月には、上記の2つの計画が統合された「東京都スポーツ推進総合計画」が策定されました。統合の理由としては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019の開催決定や、都民の障害者スポーツへの関心の高まりなど、東京都のスポーツを取り巻く環境の変化に対応し、新たな施策を効果的に展開するとともに、スポーツ振興全般について、障害のある人に配慮した視点を持って施策を普遍的に展開していくためとされています。

【基本理念】

スポーツの力で東京の未来を創る

【数値目標】

都民のスポーツ実施率 70%（週1回以上スポーツを実施する成人の割合）

【計画期間】

平成30(2018)年度から令和6(2024)年度まで

【主な内容】

「スポーツ都市東京」の実現に向け、3つの政策目標を設定

政策目標1 スポーツを通じた健康長寿の達成

政策目標2 スポーツを通じた共生社会の実現

政策目標3 スポーツを通じた地域・経済の活性化

◆ 東京都スポーツ推進総合計画（改定） ※中間まとめ素案から抜粋

東京都は、平成30(2018)年3月に策定された東京都スポーツ推進総合計画の改定作業を行っています。この計画期間では、新型コロナウイルスとの闘いの中、東京2020大会開催を実現し、次期計画期間は、こうした経験を東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック※やその先の第39回ねりんピックの成功と、さらなるスポーツ推進につなげていくとしています。

【基本理念】

「誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、一人ひとりのウェルビーイングを高め、社会を変革する」

<将来のビジョン>

基本理念の下、将来目指す「スポーツフィールド・東京」の姿をビジョンとして設定します。

ビジョンⅠ 子供の頃から好きなスポーツに出会い、楽しみ、成長し、健康・幸福に生きている

ビジョンⅡ スポーツを通じた新たなつながりと相互理解が、技術の進展に伴い生み出されている

ビジョンⅢ 世界中のアスリートや観客でにぎわい、世界で最も魅力的で選ばれる都市に

ビジョンⅣ 安全・安心・信頼の下、いつまでもスポーツを楽しめる社会が実現

<政策の柱>

1 健康・幸福 「スポーツで輝く」

生涯を通じて、自らに合ったスポーツを楽しみ、健康・幸福に生きる

2 共生社会 「スポーツでつながる」

スポーツを楽しむことを通じて、互いにつながり、相互理解が進む

3 地域・経済活性化 「スポーツでにぎわう」

世界の人々が交わり、スポーツを楽しむことで、東京が活性化する

4 スポーツの持続可能性 「スポーツを支える」

安全・安心・信頼の地盤をつくり、スポーツの持続可能性を高める

【計画期間】

令和7(2025)年度から令和12(2030)年度まで

5 スポーツを取り巻く社会状況の変化と課題

(1) 人口減少、少子高齢化の進展

令和 5 (2023) 年 9 月に本市が行った将来人口推計によると、本市の人口は、令和 10 (2028) 年の 186,390 人でピークを迎える。令和 11 (2029) 年からは減少を続け、42 年後の令和 47 (2065) 年には 159,150 人と、令和 5 (2023) 年より 26,333 人減少すると見込まれています。

年齢階層別に見ると、14 歳以下の人口は令和 5 (2023) 年の 21,481 人から減少を続け、令和 47 (2045) 年には 15,029 人となると予測される。15 歳～64 歳人口は令和 5 (2023) 年の 118,062 人から増加し、令和 9 (2027) 年には 119,028 人でピークを迎える。その後は減少し令和 47 (2065) 年には 84,533 人になると予測される。65 歳以上の人口は令和 5 (2023) 年の 45,940 人から増加し、令和 36 (2054) 年に 59,724 人でピークを迎え、令和 47 (2065) 年に 59,588 人になると予測されます。

65 歳以上の人口構成比は令和 5 (2023) 年の 24.8%から増加し、令和 36 (2054) 年には 35.0%、令和 47 (2065) 年には 37.4%になると予測されます。

このような中、高齢者の健康増進や地域の生きがいづくりの観点からも高齢者スポーツ推進の重要性が高まっています。

高齢者が健康で生きがいに満ちた生活を送るためには、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である「健康寿命※」を延ばしていくことが重要です。健康寿命を延ばし、平均寿命との差をできるだけ短くしていくためには、スポーツが果たす役割は益々大きくなってきています。

＜本市の高齢化率(65 歳以上の人口の割合)の推移＞ (％)

	令和 5 (2023) 年	令和 6 (2024) 年	令和 7 (2025) 年	令和 8 (2026) 年	令和 9 (2027) 年	令和 10 (2028) 年	令和 11 (2029) 年
65 歳以上	24.8	24.8	24.7	25.0	25.1	25.3	25.5

(出典)実績値(令和 7 (2025) 年まで)……立川市「住民基本台帳」各年1月1日時点
推計値(令 8 (2026) 年～令和 11 (2029) 年)……「立川市第5次長期総合計画」
基本計画策定のための将来人口推計調査令和5(2023)年9月推計)」

(2) 各世代の体力の変化

スポーツ庁が実施している「体力・運動能力調査結果」の合計点を、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 30 年と比較すると下表のとおりとなります。

コロナ禍を経て、20 代から 50 代までの世代、60 代から 70 代までの世代については、概ねコロナ禍以前の水準で推移する一方で、11 歳、13 歳、16 歳の合計点はコロナ禍前の合計点の水準から男女ともに低下しています。

新型コロナウイルス感染症拡大による外出制限の影響もあると考えられますが、授業以外の運動時間の減少や、スクリーンタイム※の増加、肥満である児童・生徒の増加、朝食を食べない児童の増加が指摘されています。

子どもを取り巻く状況としては、外遊びの減少に見られるように、日常生活の中で体を自然に動かす機会が少なくなっている影響も考えられます。運動を伴う子どもの(外)遊びは、「身体能力」「知性」「社会性」を育てていく上でとても重要です。

子どもの成長に欠かせないこれらの能力をバランスよく育むため、子どもたちの体力向上は喫緊の課題であり、運動やスポーツを楽しめる環境づくりに向けた取り組みが、生涯にわたる主体的な運動やスポーツに取り組む姿勢を持つことにつながるものと思われます。

<新体力テストの合計点(男子)>

	11 歳	13 歳	16 歳	25~29 歳	35~39 歳	45~49 歳	55~59 歳	65~69 歳	75~79 歳
平成 30 年	62.4	45.5	55.3	41.3	37.4	33.8	29.7	41.7	35.5
令和 5 年	60.9	43.7	53.4	41.0	37.9	32.8	29.1	41.9	35.9

(出典)「令和5年度体力・運動能力調査結果」(令和6(2024)年 10 月、スポーツ庁)をもとに作成

<新体力テストの合計点(女子)>

	11 歳	13 歳	16 歳	25~29 歳	35~39 歳	45~49 歳	55~59 歳	65~69 歳	75~79 歳
平成 30 年	63.3	53.9	52.6	38.8	35.6	34.0	30.4	42.4	35.8
令和 5 年	60.9	49.9	51.3	38.6	35.1	32.9	29.9	41.5	35.9

(出典)「令和5年度体力・運動能力調査結果」(令和6(2024)年 10 月、スポーツ庁)をもとに作成

(3) 地域コミュニティの変化

少子高齢化や高齢単身者世帯の増加、都市化やライフスタイルの多様化などによる地域のつながりの希薄化が、近年大きな社会問題となっています。

一方で、防災面の取組や支援が必要な住民への対応など、地域コミュニティに求められる役割は年々大きくなってきていますが、自治会への加入率の低下や地域活動への参加者の減少が進んでいます。

このため、住民の主体的なスポーツ活動を通じて、地域の子どものスポーツ活動の場の提供や、世代間交流による青少年の健全育成、地域住民の健康維持・増進など、スポーツが地域の人と人を結び付け、スポーツを通じた地域コミュニティの再生の様々な取組が、地域の課題解決の一助となることが期待されます。

(4) 共生社会の広がり

スポーツ基本法は、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならないと規定しています(第2条第5項)。

また、本市では、平成 30(2018)年 4 月から「立川市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」を施行し、障害の有無に関わらず誰もが暮らしやすいまちをつくるために、保健・医療や教育、文化、スポーツなどの分野において合理的配慮の提供等を規定し、さまざまな取り組みを進めているところです。

その一方で、障害者スポーツを障害者のためのスポーツであると考えている人が少なくないことや、障害者がスポーツを楽しめる施設が不足していること、障害者の週 1 回以上のスポーツ実施率が成人全般の実施率を大きく下回っていること、障害者スポーツそのものの指導者不足、特別支援学校卒業後の地域でのスポーツ参加が困難となっていることが、障害者スポーツを推進していく上での課題となっています。

さらに、障害、性別、年齢などの違いを認め合い、一人ひとりが互いを尊重する社会の実現に向け、スポーツが果たす役割や取組も進めていくことが求められています。

(5) DX※など急速な技術革新

第3期スポーツ基本計画では、スポーツにおけるDX推進の政策目標として、「スポーツ界においてDXを導入することで、様々なスポーツに関する知見や機会を国民・社会に広く提供することを可能とし、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の実効性を高めます。」とあります。コロナ禍においては、リモートでスポーツ教室を開催する等の実例があり、DXを活かして地域で孤立している人や、健康上の理由で外出が困難な人たちも含め、多様な主体がそれぞれ平等にスポーツにつながるきっかけづくりも創出できます。

DXなどの急速な技術革新は、スポーツがもつ新たな価値の創造につながることも期待され、DXを取り入れた取り組みが求められてきます。

(6) スポーツによる健康増進、健康寿命の延伸

スポーツと健康の関係については、様々な調査・研究や科学的な知見も蓄積されてきており、第3期スポーツ基本計画でも、政策目標として、「地域住民の多様な健康状態やニーズに応じて、関係省庁と連携しつつ、スポーツを通じた健康増進により健康長寿社会の実現を目指す。」とあります。基礎自治体としても、地域住民の健康増進と健康寿命の延伸は、これからの少子高齢化における重要な課題であり、スポーツがその課題解決に資する役割が期待されます。地域の保健・医療や教育などの様々な資源と連携を取りながら、スポーツが持つ力によって、社会課題の解決に寄与する取り組みが求められています。

(7) 気候の変化

近年は温室効果ガスの増加などにより、地球全体の気温が上昇しています。日本においても、最高気温が35度以上の猛暑日や、最低気温が25度以上の熱帯夜の日数は増加し、スポーツを実施するにあたっては、熱中症のリスクが高まっています。

また、雨の降り方も変化し、短時間で強い雨の発生頻度も増加しています。

そのような気候の変化もあり、安全なスポーツ環境の整備や運用の変更が求められています。

第2章

第2次スポーツ推進計画の成果と課題

1 第2次スポーツ推進計画に関する振り返り

第2次スポーツ推進計画は、令和2(2020)年度を初年度とする5年間の計画で、本市におけるスポーツ推進の目標達成に向け、3つの基本方針に基づき16の取組項目を掲げ、体系的に取り組んできました。

41項目にわたる取組事項は新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限の影響もあり、一部には課題もでています。これらの成果や課題の概略を3つの基本方針ごとに整理すると、以下のとおりです。

基本方針1 市民のライフステージに応じたスポーツの推進

【主な取組】

<子どものスポーツの推進>

- ・ 泉・柴崎両市民体育館で水泳、体操、各種ダンス等の教室を開催し、子どもたちがスポーツの楽しさを体感し、継続してスポーツを楽しめる機会をつくりました。
- ・ 小中学生を対象に、地区体育会では「なわとび検定会」、立川市スポーツ協会（以下「スポーツ協会」）では小学生クラブ交流大会やソフトテニス教室、ジュニア体力競技力向上事業をそれぞれ実施しました。
- ・ 小学生姿勢教室を実施し、親子で良い姿勢の大切さや、良い姿勢を保つための体操などを学ぶ機会をつくりました。



小学生姿勢教室の様子

<成人や子育て世代のスポーツの推進>

- ・ 泉・柴崎両市民体育館の指定管理者によるヨガ・エアロビクス・バドミントン等を開催しています。また、立川シティハーフマラソンの種目に対応する親子向けマラソンイベントなども実施しました。
- ・ 幅広い年齢層でスポーツを楽しんでもらえる「市民あるけあるけ運動」や「体力年齢測定会」、「ラジオ体操・みんなの体操会」、「ラジオ体操講習会」を実施しました。



体力年齢測定会の様子

<高齢者のスポーツの推進>

- ・コロナ禍で集団行動が難しかったため一人でもできる消火器ウォークマップを12地区で作成し、距離認定を行いました。新型コロナウイルス感染症の収束後は、「市民あるけあるけ運動」も再開し、高齢者の体力づくりの機会をつくりました。
- ・市民体育館においてストレッチ教室等のプログラムを提供するとともに、「体力アップ体操教室」を年2回実施しました。



市民あるけあるけ運動(多摩動物公園ウォーク)の様子

<障害者のスポーツの推進>

- ・泉市民体育館において「ハンディ水泳教室」を実施し、また、泉・柴崎両市民体育館においてボッチャ※、バドミントン、ヨガなどの障害のある人もない人も共に参加できる「チャレンジスポーツ教室」を開催することで、身近な場所で継続してスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めました。
- ・来館が困難な障害者が参加できるよう、障害者施設への訪問教室を開催しました。コロナ禍においては、リモートによる教室を実施しました。
- ・指定管理者が商業施設を訪問し、「ボッチャ体験会」を実施しました。
- ・ボッチャボール4セットやランプ等を市立小中学校や地区体育会、関係団体・機関に貸し出しを行い、障害者スポーツの普及に努めました。
- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー※として、広域自治体連携事業として「市町村ボッチャ大会」を実施し、障害のある人もない人も一緒に参加しています。



貸出用のボッチャセット



市町村ボッチャ大会の様子

[成果と課題]

<子どものスポーツの推進>

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、立川市をホームタウンとするプロチームの活動を通して、子どもたちが様々なスポーツ体験やアスリートと触れ合う機会が得られました。
- 地域での子どものスポーツ活動の推進については、身近な場所で気軽にスポーツに取り組めるよう、地区体育会等と連携した活動が課題となっています。

<成人や子育て世代のスポーツの推進>

- ・ヨガ・エアロビクス・水泳などの屋内スポーツ教室を泉・柴崎両市民体育館で実施し、平日の夜間にヨガ教室を開催するなど、利用者のニーズに応じた教室を開催しました。
- 一方で、スポーツ実施率が低い20代から40代をターゲットにした隙間時間にできる

スポーツへの興味関心につながる情報発信が必要となっています。

<高齢者のスポーツの推進>

- ・ コロナ禍においても消火器ウォークマップを作成し運動機会を確保したことや、市民体育館での軽体操やストレッチ教室を継続して実施する等、高齢者が各種教室に参加する環境を提供したことにより体力の保持・増進や健康づくりにつながりました。一方で、活発な高齢者から、あまり外出を望まない高齢者まで、医療・介護との連携を含め、「する」スポーツの参加を促す取組が課題となっています。

<障害者のスポーツの推進>

- ・ パラリンピック開催を契機として、地域で障害者スポーツの裾野を広げ、障害のある人もない人も共に参加できる環境づくりを進めてきました。障害者施設への訪問教室や商業施設での体験会等、スポーツ施設に来なくても体験できる機会の提供や、ボッチャやモルック※など地域での大会や体験会を通じて、身近な場所で障害者スポーツに接する機会が増え、障害に対する理解促進につながりました。障害のある人もない人も共にスポーツを楽しむことができ、より気軽に参加できる環境づくりが課題となっています。

基本方針２ 交流と連携による地域スポーツの推進

[主な取組]

<地域スポーツクラブ※の支援>

- ・ 東京都から地域スポーツクラブの認証を受けている市内の 12 地区体育会に地域スポーツ教室を委託し、身近な学校施設等を活用して、誰もがスポーツに親しみ、気軽に取り組むことができるよう「なわとび検定」のほか、モルックなどを実施しました。



地域スポーツ教室(ボッチャ)の様子

<地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進>

- ・ スポーツ協会と連携し、「立川市市民体育大会」を実施しました。コロナ禍には種目数を減らす等の影響はありましたが、各地区において代表選手の選考を兼ねて、地区の町民運動会や各種スポーツ大会を開催しました。また、地区対抗の競技会や中央大会への出場選手を発掘するなど、市民の競技力の向上を図っています。
- ・ スポーツ協会や各種競技団体、地区体育会が実施する事業への補助を行い、活動を支援しました。



市民体育大会開会式の様子

<地域におけるスポーツの推進>

- ・ 子ども会や青少年健全育成地区委員会などの地域団体が実施するスポーツ・レクリエーション事業に対し、ボッチャ等の物品の貸し出しを行いました。
- ・ 令和4年度から市民運動習慣化事業をモデル事業として地区体育会で実施し、身近な地域でスポーツに取り組める環境づくりを行いました。

<ニュースポーツによるスポーツの推進>

- ・ソフトバレーボール大会に代わる新たなニュースポーツとしてゴールドドッチを進めてきましたが、コロナ禍の影響もあり、運動強度の低いモルックが広がっています。
- ・「泉市民体育館まつり」において、ミニテニスや手のひらバレー等のニュースポーツ体験会を設置し、市民がニュースポーツに触れる機会を提供することができました。



泉市民体育館まつりの様子

<立川シティハーフマラソンの推進>

- ・立川シティハーフマラソンは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020 大会及び 2021 大会が中止となりました。2022 大会から再開し、エントリー数は、9,000 人前後で推移しています。「する」スポーツだけでなく、学生トップランナーが参加する日本学生ハーフマラソン選手権大会を併催（2024 大会まで）することもあり、大会当日は観戦や応援に来られる方で国営昭和記念公園入園者数も多く、「みる」スポーツにも大いに貢献しています。また、多くの企業から協賛をいただいていることや、市内の関係団体、企業、学校、自治会、そして一般ボランティアなどによる「さきえる」スポーツの場にもなっています。大会当日の会場は、様々な企業・団体の協力により活気のあるイベントとなっています。



立川シティハーフマラソンの様子

<プロスポーツチーム*等との連携によるスポーツの推進>

- ・立川市をホームタウンとするプロスポーツチームと、スポーツによる地域活性化に関する連携を推進するとともに、地域社会の発展及び振興を図ることを目的に相互協力協定を締結しました。
- ・「東京ヴェルディ」、「アルバルク東京」、「立川ダイス」、「立川アスレティックFC」の主催試合に市民を観戦招待する応援 DAY が実施されています。
- ・市内プロスポーツチームが連携して立川市を盛り上げることを目的に、立川商工会議所が中心となって「立川プロスポーツ連絡会」を構成し、立川駅でのスポチャレやスポーツイベントへの出店等、連携した取り組みを実施しました。



立川市ヴェルディ応援 DAY の様子

[成果と課題]

<地域スポーツクラブの支援>

- ・市内 12 地区の地区体育会は地域スポーツクラブとして登録するほか、地域の特性に合わせた事業を実施し、子どもから高齢者まで生涯スポーツの推進に取り組んでいます。一方で役員の固定化が懸念され、担い手や世代交代が課題となっています。

<地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進>

- ・立川市市民体育大会は、地域でのスポーツイベントの中核として継続していますが、コロナ禍の影響もあり、参加者数が減少しています。
地域コミュニティに参加していない市民が増え、地域のネットワークを活用して新たな参加者を増やしていくことや、主管競技団体の運営が困難となっており、スタッフの人材確保が課題となっています。

<地域におけるスポーツの推進>

- ・地域におけるスポーツの推進については、コロナ禍の影響もあり、計画どおりの事業を行うことができませんでした。地区体育会を中心とした地域スポーツの推進に係る支援が課題となっています。

<ニュースポーツによるスポーツの推進>

- ・より幅広い層に親しまれるよう、モルック等の体力や年齢などに関わらず一緒に行える種目を推進することが期待されるようになっていきます。競技を行うだけでなく、ニュースポーツを通じた住民同士の交流や地域活性化につなげる取り組みが課題となっています。

<立川シティハーフマラソンの推進>

- ・立川シティハーフマラソンは、市内の事業所や学校、市民等によるボランティア協力が大会の運営に欠かせない要素となっており、「ささえる」スポーツを具現化する取り組みとなっています。また、庁内各課に依頼し、主要部署の担当やボランティアの取りまとめをしてもらうことで、市職員の連携や連帯が生まれています。一方で、安定した大会運営とするため、地域団体等とさらなる連携強化とボランティアの育成、魅力的な参加賞の検討、財政基盤の充実などが課題となっています。

<プロスポーツチーム等との連携によるスポーツの推進>

- ・市とプロスポーツチームとの連携協定の締結により、市内の小中学校での体験教室などが実施され、トップレベルの選手等による指導に触れることができたほか、市の各種イベントに選手等が出演することにより、プロスポーツチーム等の認知度の向上につながりました。スポーツ振興課と庁内各課が連携した取組や、「立川プロスポーツ連絡会」を中心とした認知度向上の取組は立川市独自の特徴的な取組であり、さらなる連携強化により立川市のスポーツ振興の新たな展開につながることが期待されます。

基本方針3 スポーツ環境の充実

〔主な取組〕

<既存スポーツ施設等の整備・充実>

- ・令和4(2022)年度に練成館中規模改修工事を行い、空調設備を導入しました。
- ・立川公園野球場ネットフェンス改修、泉町野球場ネットフェンス改修を行いました。
- ・令和5(2023)年度に立川公園陸上競技場のスタンドを解体しました。
- ・立川公園陸上競技場、見影橋公園陸上競技場において、個人利用ができるよう開放し、ボール遊びができる場所となっています。



改修した泉町野球場ネットフェンス



個人開放中の見影橋公園陸上競技場

<学校施設の有効活用>

- ・小学校の校庭や体育館を「遊び場」として開放し、あわせてスポーツ団体に小中学校の校庭や体育館を学校教育に支障のない範囲で開放しました。計画期間中は、小中学校の大規模・中規模改修が順次実施されていて、体育館や校庭を使用できない期間が発生しています。
- ・老朽化が進む校庭の夜間照明塔について、今後の計画的な更新に向け、令和6(2024)年度に腐食度調査を実施しました。



遊び場開放の様子

<指導者の育成・確保>

- ・地域スポーツの推進を担う指導者育成の充実を図って、「運動指導者育成プログラム」講座をスポーツ協会との協力事業から委託事業に変更しました。
- ・スポーツ推進委員*の資質向上を図るため、内部研修を実施したほか、東京都スポーツ推進委員協議会による広域地区別研修会(第8ブロック)や課題別研修会、初級障害者スポーツ指導員養成講習会、実務研修などに参加しました。
- ・平成27(2015)年度の特別巡回をきっかけに始まった、「ラジオ体操・みんなの体操指導者講習会」を、健康推進課、スポーツ振興課等、庁内各課が協力して実施し、地域で

のスポーツイベントにおいて正しいラジオ体操の普及を行うラジオ体操指導員の資格取得に取り組みました。

- ・コロナ禍で運動習慣が低減した市民への健康体操プログラムとして、令和4年度より市民運動習慣化支援事業をモデル地区で実施しました。



ラジオ体操・みんなの体操指導者講習会の様子



広域地区別研修会（第8ブロック）の様子

<情報の提供>

- ・広報たちかわや市ホームページ、市民体育館指定管理者のホームページを活用して、立川市市民体育大会の各種目の開催や各種スポーツイベント・教室の開催情報を市民に提供しました。また、きらりたちかわ等、生涯学習推進センターで発行する情報誌にスポーツ教室等の開催予定を掲載したほか、市内の施設にチラシを配布し市民などへの周知に努めました。

プロスポーツチームやトップアスリートが市長へ表敬訪問する様子についても、庁内各課と連携し、市ホームページや公式動画チャンネル等を活用した情報発信を行いました。

<健康づくり事業の推進>

- ・泉・柴崎両市民体育館で水中ウォーキングやみんなでストレッチ、アクアビクスなどの健康づくりのための教室を引き続き実施しました。また、健康推進課では立川健康ポイント事業やラフ&タフ体操教室等、生涯学習推進センターでは各種体操教室、福祉総務課ではシルバー大学でのスポーツ教室等、庁内各課においてスポーツによる健康づくり事業を実施しました。

<オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進>

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受け、大会の1年延期、無観客開催など過去に例をみない大会となりました。そのような中でも、聖火リレーにおける点火セレモニーや採火式の実施、映像やオンラインを活用した立川市にゆかりのある選手の応援など、賑わいの創出に取り組みました。
- ・各学校でオリンピック教育の推進として、オリンピックを招いた交流や講演会、実技指導などを行ったほか、東京女子体育大学に依頼しオリンピックを派遣していただきました。また、パラリンピック教育を推進し、パラリンピアンとの交流や障害者スポーツ、車いすの体験等を行いました。
- ・「アスリートスポーツ教室」や「泉市民体育館まつり」、「ニュースポーツ体験会」を開催し、スポーツへの関心を高めるとともに、誰もが気軽にスポーツに取り組める環境を用意し、スポーツ実施率の向上につなげました。



オリパラデザインの装飾を施した立川駅南口の様子



東京 2020 オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチ展示



横断幕としてオリパラ関連イベントで掲出したモザイクアート

〔成果と課題〕

<既存スポーツ施設等の整備・充実>

- ・ 泉・柴崎両市民体育館に指定管理者制度を導入したことにより利用者数は増加したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大による市民の行動様式の変化により、コロナ禍前の利用者数まで戻っていません。また、体育施設全体の老朽化が進んでおり、安全で安定的な施設管理運営を維持していくためには、施設や設備の計画的な修繕・更新が課題となっています。
- ・ 令和5（2023）年3月に、令和16(2034)年度までの市内体育施設の存廃及び維持管理を含めた方向性を示す「立川市体育施設のあり方」を策定しました。
- ・ 立川公園陸上競技場の冬季閉鎖期間の撤廃や、庭球場のナイター利用の拡大等、運用の見直しを行いました。
- ・ 近年、厳しさを増している猛暑時の熱中症対策の充実が求められています。

<学校施設の有効活用>

- ・ 学校体育施設の利用希望団体が多いことから、空きのない状態が常態化しており、年度途中での新規利用団体の登録が難しく、結果として利用団体が固定化しています。また、小中学校の中規模改修等が順次実施されており、体育館や校庭の使用ができない期間が発生した際の代替施設の調整も困難となっています。

<指導者の育成・確保>

- ・ 専門的な知識及び技術を持つ指導者を確保・育成していくため、スポーツ協会が実施する講座への支援を継続していく必要があります。また、育成された指導者が中学校部活動の地域連携・地域移行への取り組みに合わせ、地域で活躍するしくみづくりを関係

機関と協議していく必要があります。

<情報の提供>

- ・市ホームページや広報たちかわ等、市が運営する広報媒体を有効に活用して、広く市民へ情報提供することができました。また、新規のイベントや多数の参加者が見込まれるイベントは積極的にプレスリリースしました。今後は、情報提供する対象に応じてSNS等の媒体も活用し、多くの市民に適時・適切にスポーツに係る情報が届くような工夫が必要です。

<健康づくり事業の推進>

- ・市民一人ひとりが健康づくりを進めていくためには、日ごろから運動やスポーツを継続的に取り組む習慣と、それを支える市の体制や環境整備が必要です。また、目的や対象が異なるものの、庁内各課で健康づくり事業が行われていることから、庁内各課で連携し協力体制を構築していくことが課題となっています。

<オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進>

- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に、オリンピックやパラリンピアンとの交流やスポーツの振興を通して、市域における気運醸成につながりました。また、パリオリンピック・パラリンピックでも、立川市にゆかりのある選手の活躍もあり、トップアスリートへの応援などを通じて、スポーツへの関心や障害者スポーツへの理解を深めるきっかけをつくることができました。今後は、これまでの取り組みを持続的に行い、市民のスポーツへの関心や、共生社会の推進につなげていくことが課題となります。

2 市民の意識

(1) 調査概要

ア 市民向け調査

対象	配布数	有効回答数 (うち電子回答数)	回答率
18 歳以上の 立川市民	1247	386 (169)	30.9%

イ 子ども向け調査

対象	配布数	回収数 (全て電子回答)	回答率
立川市立の 小学5年生、 中学2年生	330	241	73.0%

(2) 調査時期

ア 市民向け調査

令和6年3月5日（火）から3月31日（日）まで

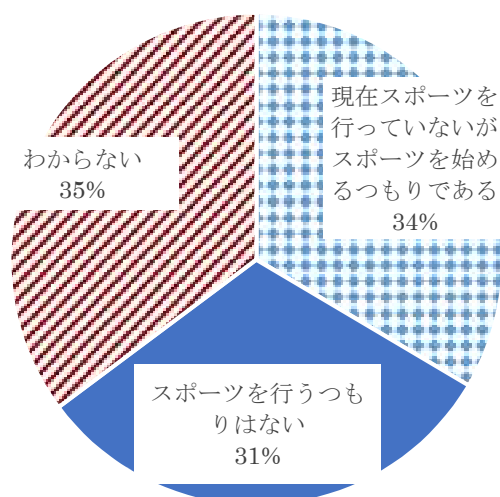
イ 子ども向け調査

令和6年6月6日（木）から6月14日（金）まで

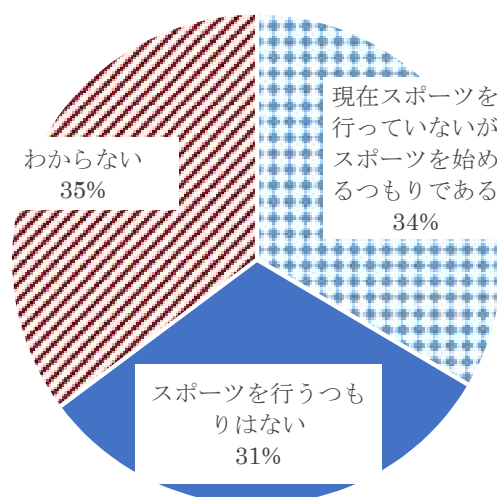
(3) 市民向け調査の結果

ア スポーツの実施状況

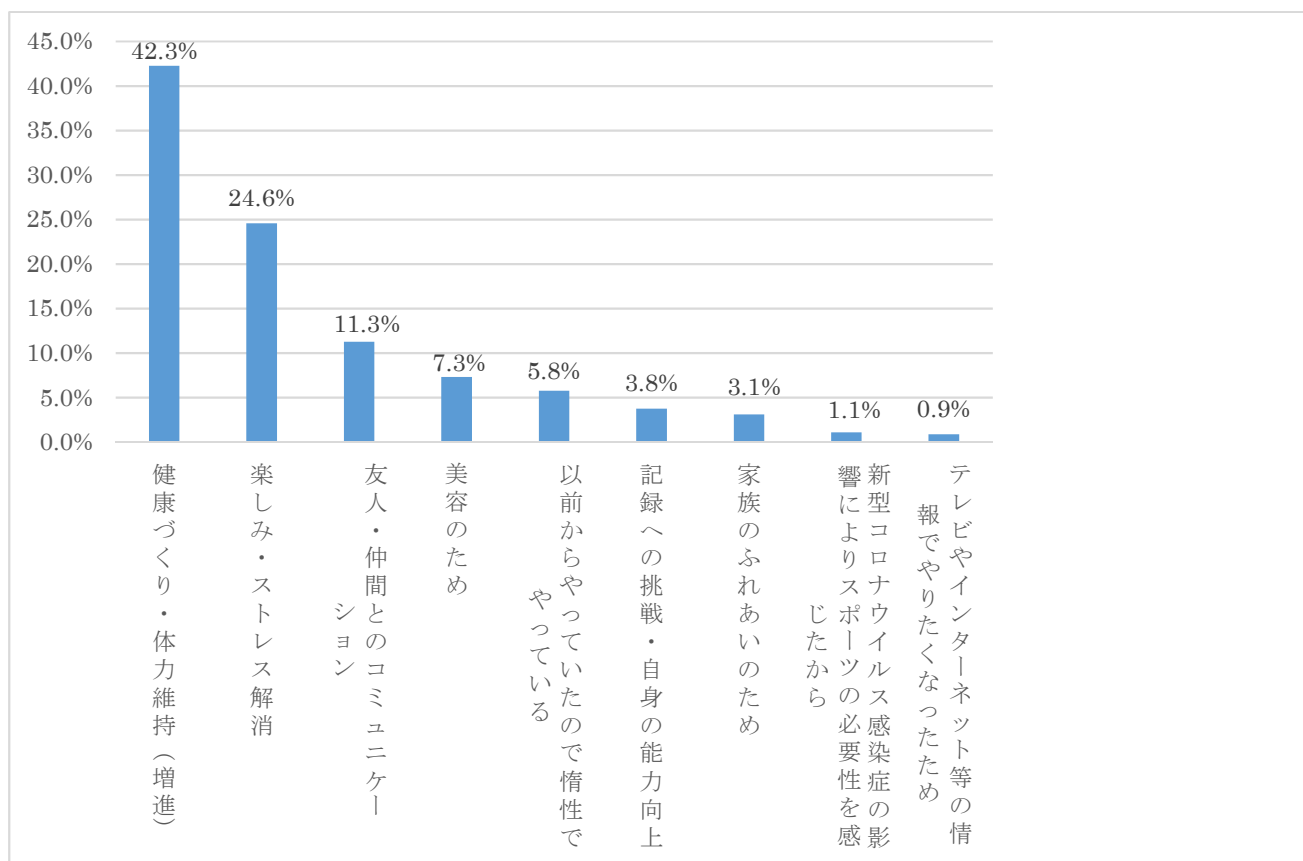
スポーツ未実施者 今後の意向



スポーツ未実施者 今後の意向

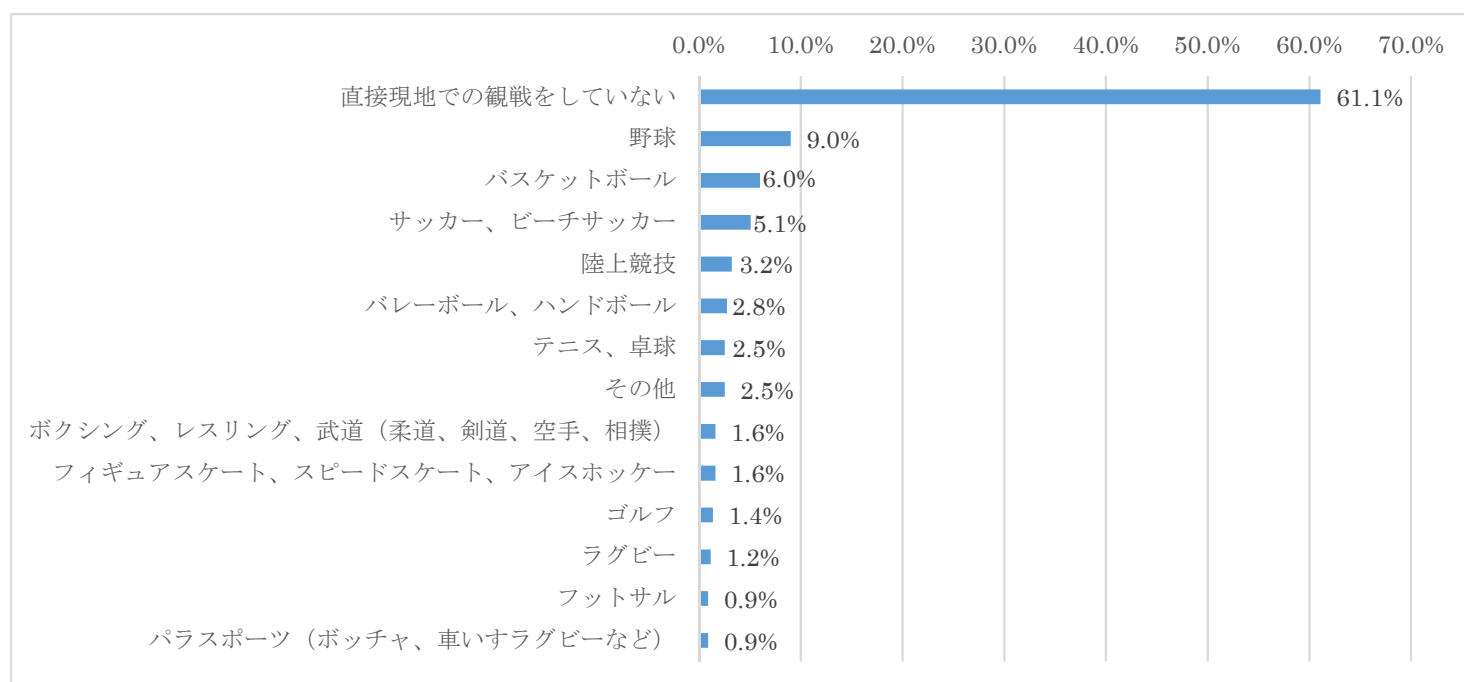


Q 一年間に週一以上スポーツした人 実施した理由(複数回答)(n=231)

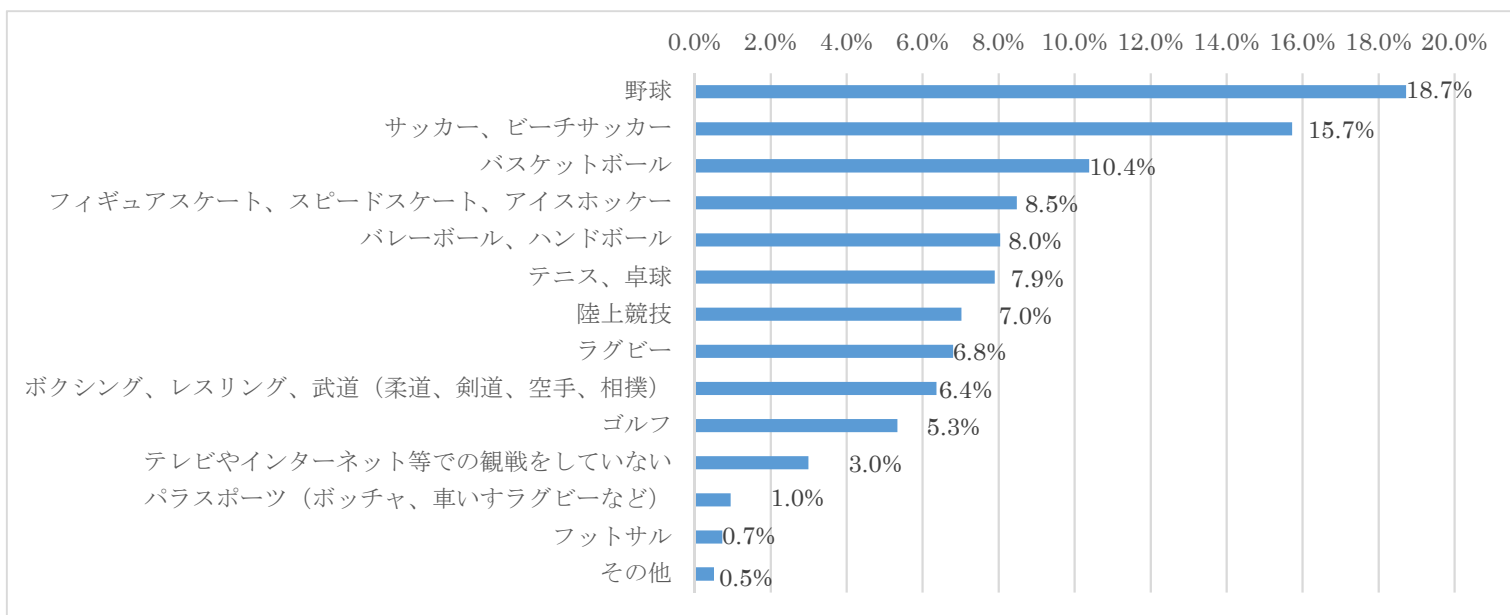


イ スポーツの観戦状況

Q この一年間にどんなスポーツを直接現地で観戦したか(複数回答)(n=379)

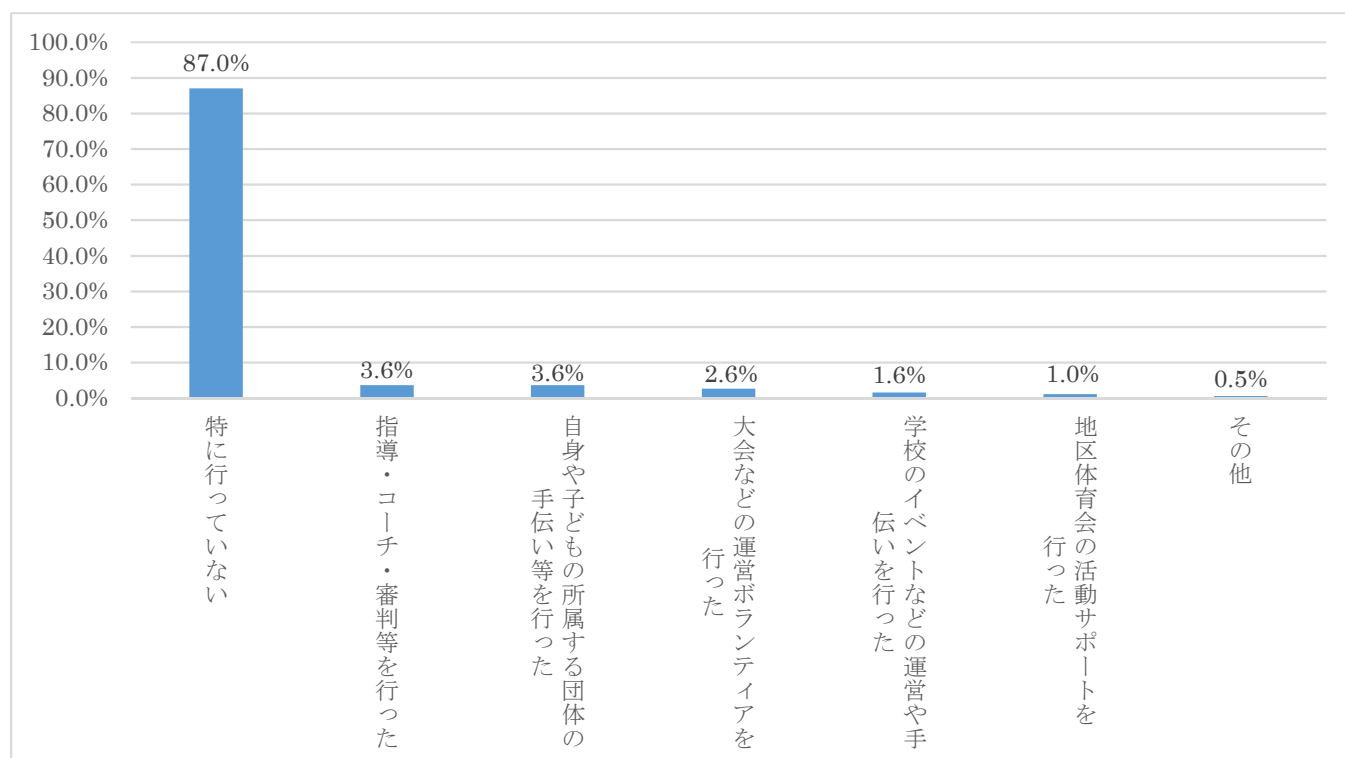


Q この一年間でテレビ、インターネット等で観戦したか(複数回答)(n=379)



ウ スポーツに関するボランティア活動を行った経験

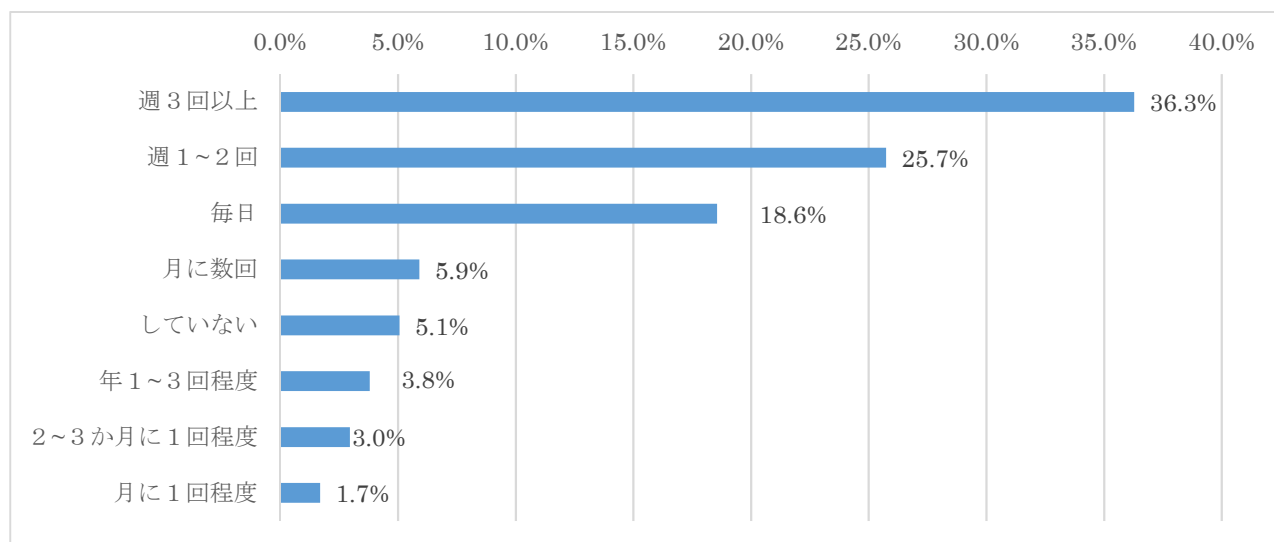
Q この1年間スポーツを支える活動をおこなったか(複数回答)(n=379)



(4) 子ども向け調査の結果 (n=237)

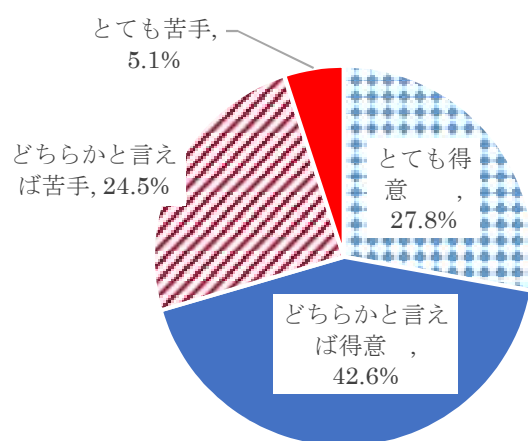
ア スポーツの実施頻度

Q あなたは昨年、学校の授業や行事以外でどれくらいスポーツをしたか

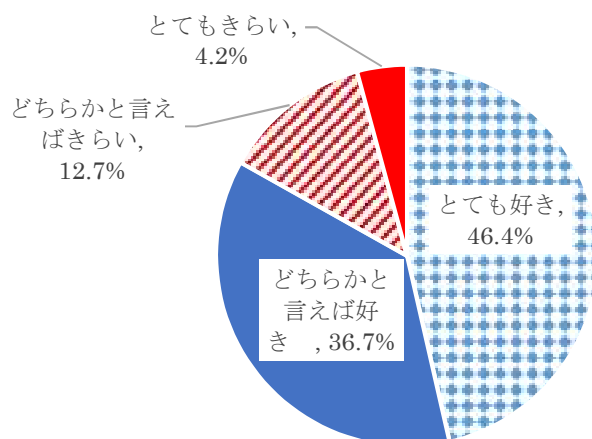


イ 体を動かすことの得意不得意・好き嫌い

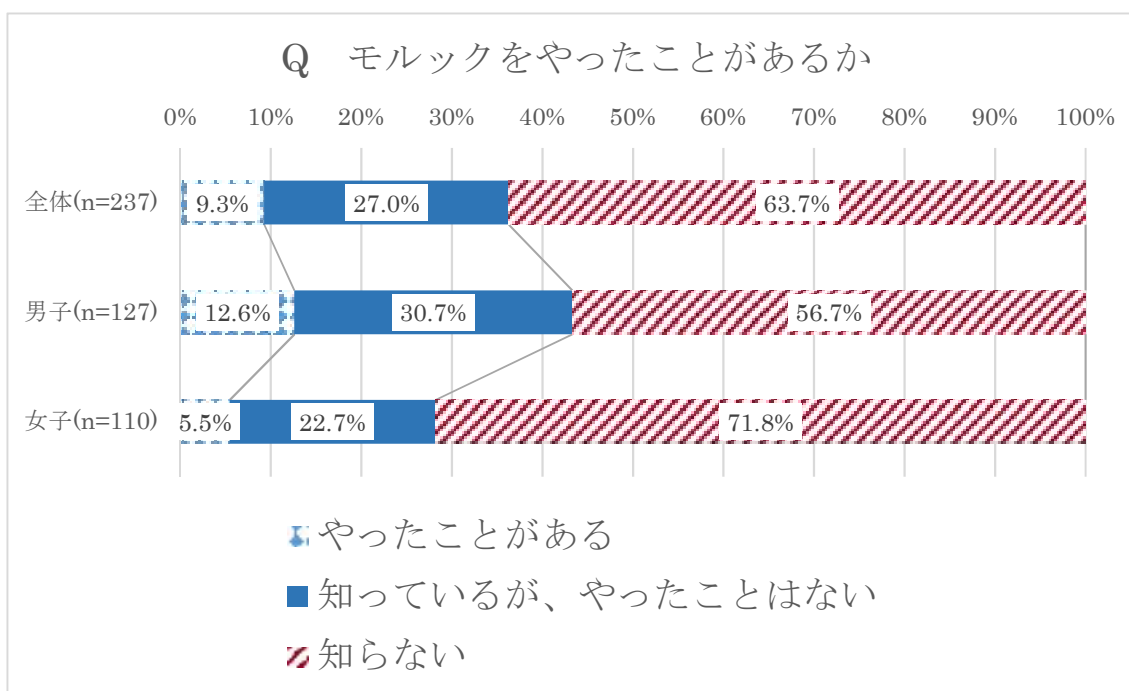
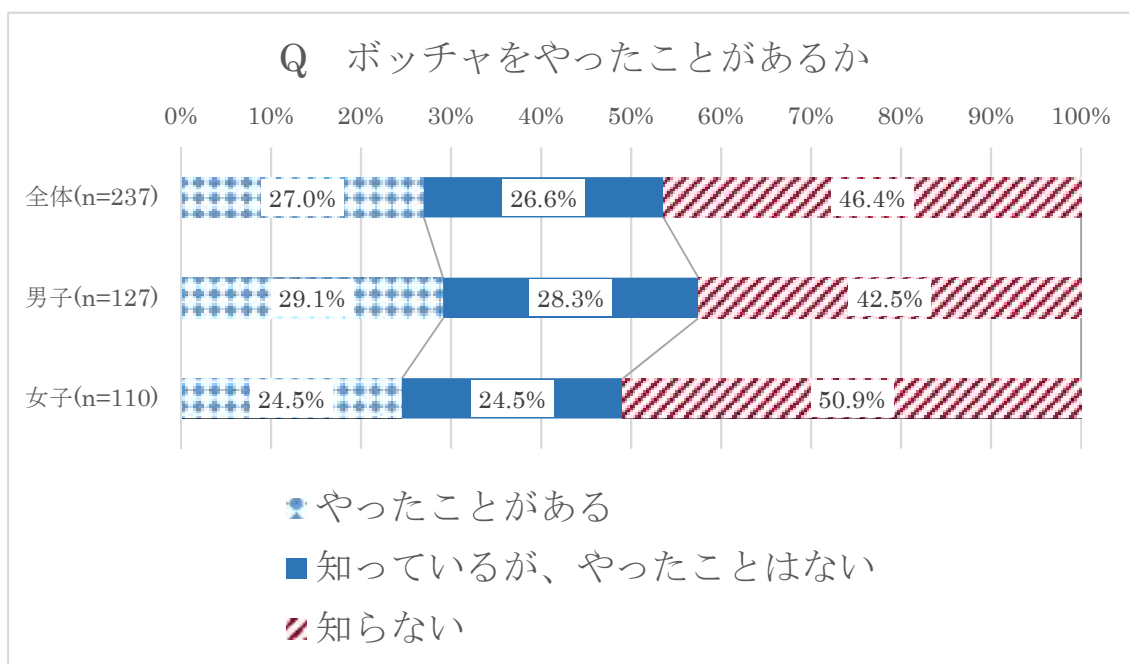
Q 体を動かすのは得意か



Q 体を動かすのは好きか

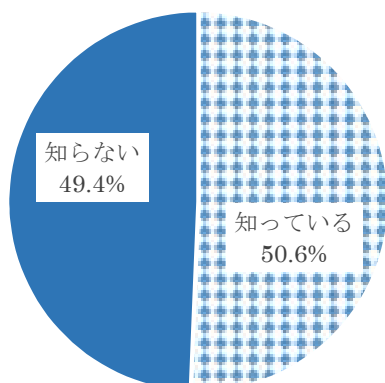


ウ ニュースポーツの経験有無

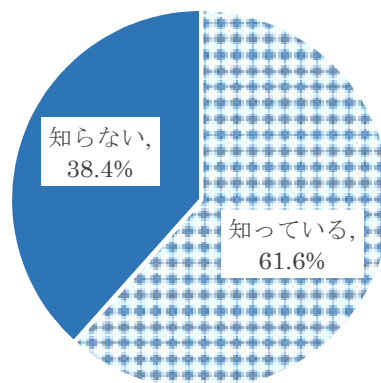


エ 立川のプロスポーツチームの認知度について

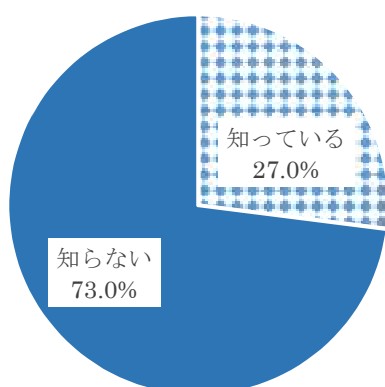
アルバルク東京を知っているか



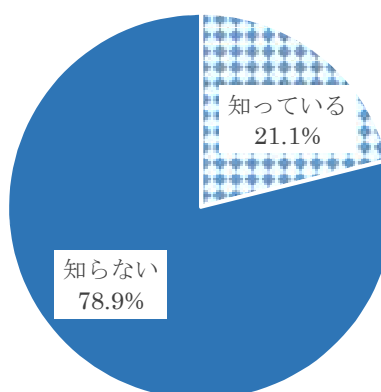
立川ダイスを知っているか



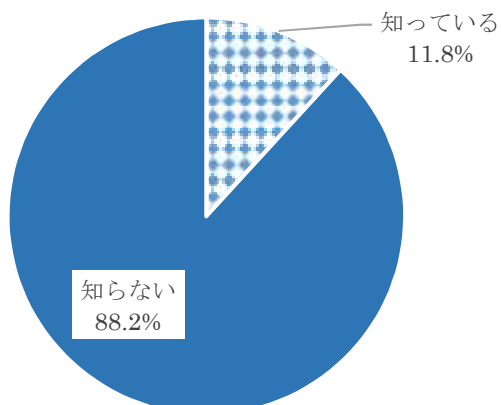
東京ヴェルディを知っているか



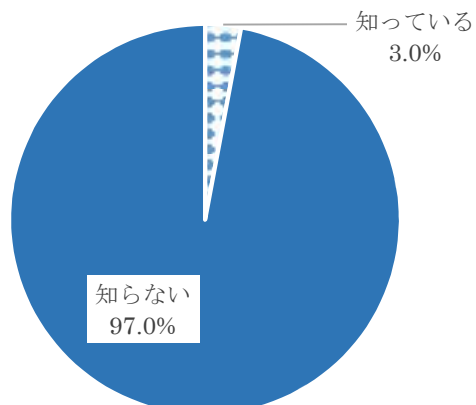
立川アスレティックFCを知っているか



東京ヴェルディ（ビーチサッカー）を知っているか



石川ボクシングジム立川を知っているか



3 課題と方向性

(課題)

これまでの、市民で構成されたチームなどを対象とする施策が多く見られましたが、身近な場所で、隙間時間にできるスポーツなど、気軽に取り組める環境づくりが課題となっているほか、年齢や体力、習熟度に関わらず誰もが一緒にできる機会の創出が求められています。

障害者スポーツの推進、ライフステージに応じた事業に加え、年齢や体力、障害の有無などに関わらず、誰もが一緒にできる種目や、スポーツに取り組むきっかけとなる体験型事業などにも注力していきます。また、目的や対象が異なっても、庁内各部署で実施されている健康づくり事業などと連携・協力し、スポーツへの関わりを増やしていきます。

(課題)

立川をホームタウンとして活動しているプロスポーツチームが複数あり、トップアスリートを間近に「みる」ことや交流することができる環境が整っています。

また、立川商工会議所を中心に各チームが連携して組織している「立川プロスポーツ連絡会」は、立川市独自の特徴的な取り組みとなっています。

シティプロモーションにとどまらず、同じチームを応援することで来街者や市民同士の交流の活発化、シビックプライドの醸成等につなげていきます。

(課題)

スポーツ施設の老朽化が進んでおり、計画的な修繕や更新が必要となっています。

安全に利用いただけるよう、計画的な修繕や更新等、維持管理に努めるとともに、施設の適正配置や市民ニーズに応じた施設について検討していきます。

(課題)

地区体育会では、地域特性に合わせて子どもから高齢者まで生涯スポーツに取り組んでいます。役員の固定化等が課題となっています。

多様な主体と連携し、身近な場所でスポーツに取り組む機会を提供するほか、地域のネットワークを活用した新たな参加者の増加や、住民同士の交流にも取り組みます。

(課題)

多様化するスポーツニーズへの対応が求められる一方で、近年の夏の猛暑の中でのスポーツ活動には危険が伴うため、熱中症対策が喫緊の課題となっています。

スポーツ活動における熱中症対策等について、競技者、指導者等に周知啓発し、未然防止に努めていきます。

(課題)

学校部活動の地域連携・地域移行に対応するためには、気軽に楽しめるスポーツの推進や、多様なスポーツ指導者の発掘・育成など、指導者の確保が課題となっています。

各競技や教員などを対象とした指導者講座を継続して実施するほか、競技団体等の事業を支援し、スポーツ環境の充実を図っていきます。

(課題)

市民の情報収集方法が多様化しています。

情報の内容や提供対象に合わせて、SNS等の媒体を活用していきます。

1 基本理念

**誰もがスポーツでワクワク！
みんなの“わ”が広がって笑顔あふれるまち立川**

○基本理念には、次のような意味を込めています。

年齢、性別、障害の有無、体力、スポーツ経験などにかかわらず、誰でもスポーツを「する」「みる」「ささえる」を通じて“ワ”クワクすることができて、スポーツを通じてみんながつながり（“輪”）、親しくなり（“和”）、話せる（“話”）ことで、お互いに“わ”らい（笑）あうことができるまち たちか“わ”を目指します。

2 基本方針

本計画では、国の計画で示された新たな方向性「つくる／はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」も踏まえ、下記の基本方針に基づき各種事業に取り組みます

基本方針1

誰もがスポーツを楽しむ機会の創出

- 勝敗や記録を競うものだけでなく、余暇時間や仕事時間等を問わず楽しみながら健康につながるスポーツ活動の普及・啓発を推進します。
- 年齢や性別、障害の有無に関わらず、誰もが楽しみながらスポーツに取り組めるよう、スポーツ協会やスポーツ推進委員等と連携してスポーツを楽しむ機会の創出に取り組みます。

基本方針2

交流と連携によるスポーツ文化の形成

- 市内の多岐にわたる関係団体との連携関係や、これまで築き上げてきた市が有するスポーツ資源を未来に引き継ぐためのしくみづくりに取り組みます。
- 立川をホームタウンとするプロスポーツチームとの連携や、立川シティハーフマラソン大会等を通じて、多様な交流機会を創出し、スポーツを通じたシビックプライド®の醸成に取り組みます。

基本方針3

スポーツ環境の充実

- 多様化するスポーツニーズをとらえ、より多くの市民がスポーツに親しみ、楽しむことができるスポーツ施設の有効活用・利用促進に取り組めます。
- 市内の各スポーツ団体や地域の多様な人材がスポーツを通じて地域に貢献し、活躍できる環境づくりに取り組めます。

基本方針4

スポーツ施設の整備・マネジメント

- スポーツ施設の今後のあり方や方向性を示した「体育施設のあり方」に基づき、安全で使いやすいスポーツ施設の整備に取り組めます。
- スポーツ施設の老朽化を見据え、施設の適正規模や配置、機能の集約化等の課題について多角的に検討するとともに、市民のスポーツニーズに応じたスポーツ施設環境の向上に取り組めます。

3 数値目標

本計画の達成状況を把握するため目標年度を令和11(2029)年度に定め、計画全体にかかわる取組目標及び各基本方針にかかわる取組目標を設定します。

基本方針1 誰もがスポーツを楽しむ機会の創出

成果指標	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
週1回以上スポーツを行っている市民の割合(成人)	53.2%	60.0%
体を動かすのが好きな児童・生徒の割合	83.1%	90.0%

基本方針2 交流と連携によるスポーツ文化の形成

成果指標	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
プロスポーツチームやスポーツ関係団体等との連携事業数	54事業	65事業
立川市をホームタウンとして活動するプロスポーツチームの認知度(児童・生徒)	29.2%	40.0%

基本方針3 スポーツ環境の充実

成果指標	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
市スポーツ施設利用者数(屋内／屋外)	811,603人	1,000,000人
指導者講習会等への参加者数	7人	15人

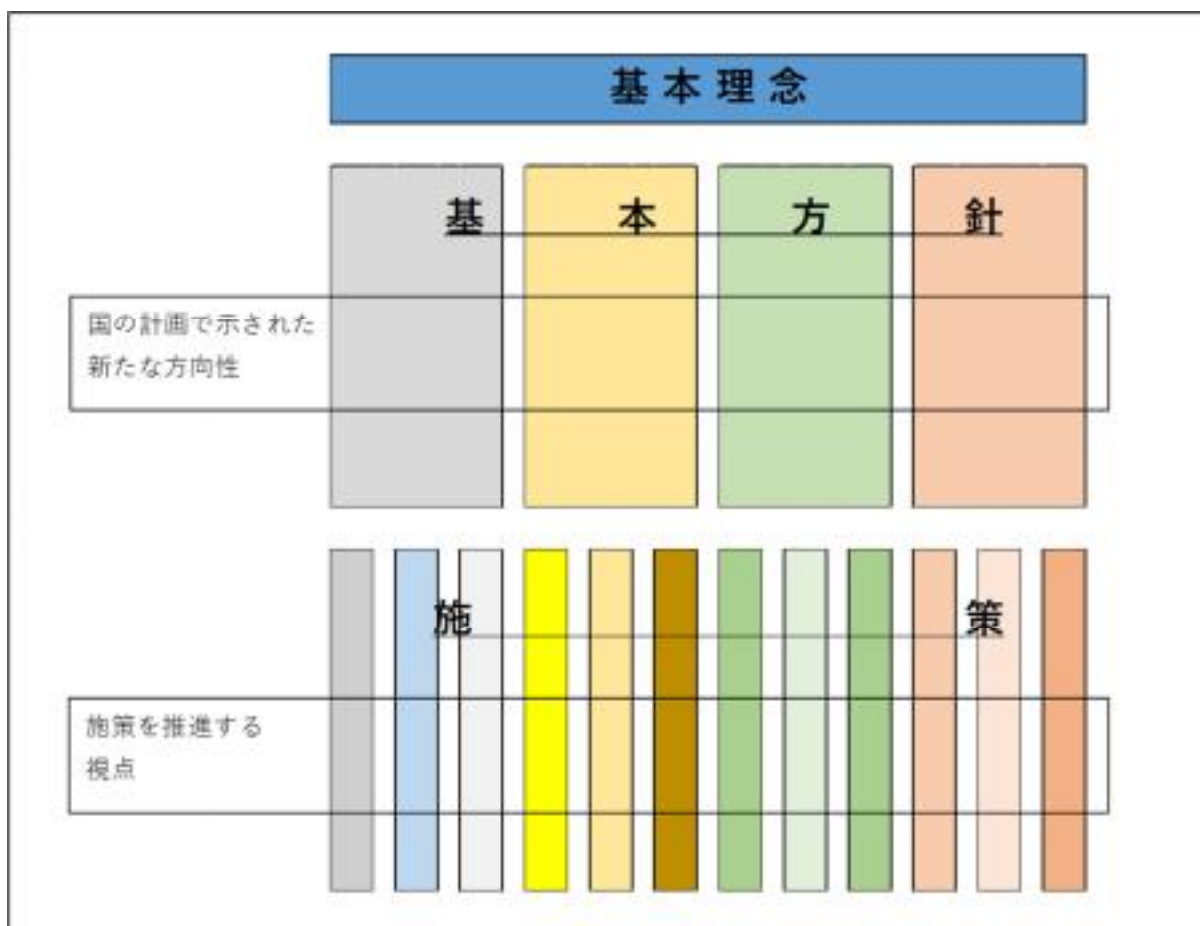
基本方針4 スポーツ施設の整備・マネジメント

成果指標	現状値 (R6年度)	目標値 (R11年度)
スポーツ施設の中長期的な維持管理・整備計画の策定施設数	(新規)	26施設
照明のLED化を実施した屋外スポーツ施設数	1施設	5施設

4 施策を推進する視点

目標達成に向けて、基本理念と下記の視点を取入れ各施策・事業に取り組みます

- (1) いつでも、どこでも、いつまでも、誰とでもスポーツを楽しむ「する」視点
市民一人ひとりが主体的にスポーツに取り組む環境を整備し、「する」スポーツを振興することで、健康寿命の延伸や、地域コミュニティの活性化を図ります。
- (2) スポーツに触れるきっかけ、楽しみや喜びを感じてもらう「みる」視点
「みる」スポーツの魅力を広く市民に伝え、地域の活性化やシビックプライドの醸成を図ります。
- (3) 一人一人ができることをできる範囲でスポーツにかかわる「ささえる」視点
スポーツ活動を支えるボランティアや指導者の育成、施設の整備を通じて、持続可能なスポーツ環境を構築します。
- (4) くらしの中にスポーツがあふれ、心が「ワクワク」する視点
日常生活の中でスポーツが自然に溶け込み、心がときめき、ワクワクする機会を増やすことで、心身の健康と幸福感を向上させます。



5 基本施策

基本理念

誰もがスポーツでワクワク！

みんなの“わ”が広がり笑顔あふれるまち立川

「基本方針1」

誰もがスポーツを楽しむ機会の創出

施策

ライフステージに応じたスポーツ活動の促進

障害者スポーツの普及・促進

多様な人が楽しめるスポーツ活動の促進

「基本方針2」

交流と連携によるスポーツ文化の形成

施策

地域スポーツ団体との連携によるスポーツ活動の促進

スポーツ大会を通じた交流機会の促進

ホームタウンチーム等との連携・協働

「基本方針3」

スポーツ環境の充実

施策

スポーツ施設の有効活用・利用促進

地域人材・組織育成の環境づくりの促進

スポーツ情報を活用した興味・関心の喚起

「基本方針4」

スポーツ施設の整備・マネジメント

施策

持続可能なスポーツ施設の整備・充実

スポーツ施設の維持管理

第4章

施策の展開と取組

基本方針1

誰もがスポーツを楽しむ機会の創出

全ての市民が年齢や性別、障害の有無に関わらず、生涯にわたって日常的にスポーツを楽しむことができ、体力の維持や健やかな心身を育むことができる機会を創出します。

勝敗や記録を競うスポーツだけではなく、個々の体力や年齢、興味、関心に応じて、スポーツを始めるきっかけとなる施策を展開し、スポーツで多くの人が楽しみワクワクする機会の創出に取り組んでいきます。

(1) ライフステージに応じたスポーツ活動の促進

年代別に対象を絞ったイベントや、個々の状況に応じて参加しやすい事業、親子で参加するプログラム等、子どもから高齢者まで、世代ごとの特徴・課題に応じた、市民が生涯にわたってスポーツを楽しむために、体力、年齢、関心の変化などに対応した親しみやすい事業展開を図ります。

<具体的な取組>

①泉市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

柴崎市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

指定管理者の特徴を活かし、各世代のライフスタイルに合わせたスポーツ教室等を泉・柴崎両体育館で実施します。

種目は、水泳、体操、バスケットボール、チアダンス、フットサル※等、子どもから高齢者まで楽しみながら継続できるプログラムを展開します。



バスケットボール教室の様子



高齢者ストレッチ教室の様子

②スポーツ普及促進事業（イベント等の実施） 【担当：スポーツ振興課】

子ども、親子、高齢者など対象に合わせ、楽しみながら参加できるスポーツ教室や体験会等を実施します。

また、「泉市民体育館まつり」等のイベントを通じて、普段スポーツに馴染みがない市民に多様なスポーツを体験できる機会を提供します。

地区体育会でも地域住民の運動習慣化に向けた取り組みを行い、身近な地域で体を動かすことができる機会を創出します。



体力アップ体操教室の様子



泉市民体育館まつりの様子

③スポーツ普及促進事業（スポーツ推進委員協議会） 【担当：スポーツ振興課】

スポーツ推進委員協議会では、市民がスポーツに関わる機会を創出するため、様々なスポーツ事業を企画・運営しています。誰もが参加しやすいウォーキングや、運動強度が低いモルック等、体験会やスポーツイベントを市と連携して開催し、市民のスポーツへの興味や関心を高めていきます。



市民あるけあるけ運動(玉川上水・青梅線ウォーク)の様子



立川市ニュースポーツ大会(モルック)の様子

④学校開放事業 【担当：スポーツ振興課】

土曜日・日曜日の小学校の校庭等を子どもたちがボールを使って遊べる場として提供しています。子どもたちが安全に体を動かすことができる機会を創出するためのしくみについて検討していきます。

また、学校教育に支障のない範囲で、小中学校の校庭と体育館をスポーツ団体に定期利用として開放しています。地域の身近なスポーツの場として、有効に活用するとともに、貸出しのルールを整理していきます。



学校開放の様子

⑤スポーツを通じた健康づくり【担当：子ども育成課・福祉総務課・高齢政策課・健康推進課・生涯学習推進センター】

市内では、子ども向け、成人向け、高齢者向け、介護予防など、スポーツ振興課以外で

も体を動かす様々な健康づくり事業が展開されています。

福祉会館や地域包括支援センター等、身近な場所で体を動かすことができる機会を提供するとともに、健康づくりを目的としたウォーキングマップ等も活用しながら、庁内各課と連携し運動機会の創出に取り組みます。（地域学習館講座、社会参加と生きがいづくり促進、一般介護予防事業、高齢者対象事業（寿教室）、地区子ども会事業支援、地域参加型機能訓練（ラフ&タフ体操教室）等）

（２）障害者スポーツの普及・促進

近年はパラリンピックやデフリンピックの開催を通して、障害者スポーツがメディアに取り上げられることが多くなり、立川市ゆかりの選手の活躍等、認知度も向上しています。

引き続き、障害者スポーツへの興味関心を喚起する機会を創出するとともに、障害者が参加しやすい施設運営や事業の実施と、障害者スポーツの理解・啓発を進めます。

<具体的な取組>

①泉市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

柴崎市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

指定管理者と連携し、障害者が参加できる継続した教室を泉・柴崎両体育館で開催するとともに、運営をささえるボランティアを募集する等、障害者スポーツの理解促進を目指します。



ハンディ水泳教室の様子

②スポーツ普及促進事業（イベント等の実施） 【担当：スポーツ振興課】

障害者施設への訪問等、障害者が楽しんで体を動かす機会を提供するほか、イベント等を通じて障害者スポーツの紹介や体験会を開催し、障害者スポーツの理解・啓発に努めます。

また、市内の福祉施設や障害者団体とも連携し、障害のある人もない人も一緒にできるスポーツ機会の創出に取り組みます。



東京ヴェルディ障害者スポーツ体験教室の様子

③スポーツ普及促進事業（スポーツ推進委員協議会） 【担当：スポーツ振興課】

スポーツ推進委員協議会では、障害者スポーツについての研修を重ねており、障害者スポーツイベントの運営についてのノウハウも学んでいます。障害の有無に関わらず誰もが楽しめるイベント開催を市と連携して行うことで、障害者スポーツへの興味関心につなげます。



障害者スポーツ研修会の様子

④障害者スポーツ大会を活かした普及・促進 【担当：障害福祉課】

市内の障害者団体などと連携して障害者スポーツ大会を開催し、障害のある人もない人も障害者スポーツに触れる機会の創出と、理解促進につなげます。



障害者スポーツ大会の様子

（３）多様な人が楽しめるスポーツ活動の促進

対象を限定した事業展開だけではなく、年齢や性別、障害の有無、スポーツ習熟度等にかかわらず、誰もが「一緒に」できるという視点を加え、さらなるスポーツ振興につなげます。

ニュースポーツやユニバーサルスポーツ※の導入、e スポーツ※の活用などを通じ、誰もが「一緒に」楽しむことができる環境づくりを促進し、共生社会の実現につなげていきます。

<具体的な取組>

①泉市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

柴崎市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

屋外スポーツ施設運営一般 【担当：スポーツ振興課】

市のスポーツ施設で、個人利用の中でもニュースポーツやユニバーサルスポーツを楽しめる環境の提供を検討します。

町民運動会やイベント等を通じて、誰もが一緒に楽しむことができる多様なスポーツについて情報発信し、一人でも多くの市民に触れていただくきっかけづくりに取り組みます。



アクアフェスティバルの様子

②スポーツ普及促進事業（イベント等の実施） 【担当：スポーツ振興課】

スポーツをするきっかけにつながる様々な競技を体験できるイベントの中で、年齢や性別、障害の有無に関わらず、誰もが一緒に行えるニュースポーツやユニバーサルスポーツの体験会など、気軽にスポーツに参加できる場を提供します。

また、スポーツを通じて多様な人々がつながるきっかけづくりに取り組みます。



泉市民体育館まつりの様子

③スポーツ普及促進事業（スポーツ推進委員協議会） 【担当：スポーツ振興課】

スポーツ推進委員協議会では、ウォーキングイベント、ボッチャ大会、モルック大会等の企画運営を行い、市民がスポーツを楽しむ環境づくりのノウハウを積み重ねています。

これまでのノウハウを生かし、誰もが一緒にスポーツを楽しめる機会を創出するとともに、スポーツを通じた多様な人々のつながりづくりを、市と連携しながら取り組みます。



市民あるけあるけ運動(ファミリーウォーク)の様子

④学校開放事業 【担当：スポーツ振興課】

教育活動に影響のない範囲で、小中学校の校庭・体育館を定期的な活動の場として提供しており、ニュースポーツやユニバーサルスポーツ利用についても周知していきます。

⑤庁内各課事業とスポーツ振興課との連携【担当：健康推進課 他】

たちかわ健康ポイント事業や、ウォーキングマップの作成等体を動かすきっかけづくりになるとともに、地域活性化にもつながる施策を庁内各課で展開しています。

健康を目的とした事業と連携することにより、より多くの市民が体を動かす機会創出につなげていきます。

数値目標【誰もがスポーツを楽しむ機会の創出】

成果指標	調査手法	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
週1回以上スポーツを行っている市民の割合(成人)	市政に関するアンケート	53.2%	60.0%
体を動かすのが好きな児童・生徒の割合	小中学生へのアンケート調査(LoGoフォームにて毎年実施)	83.1%	90.0%

基本方針2

交流と連携によるスポーツ文化の形成

スポーツには、市民の参加・交流の機会拡充などにより、地域コミュニティの醸成や地域の活性化などの効果が期待されています。市民のスポーツ活動の中心的組織となっているスポーツ協会や、市内12地区で活動している地区体育会等の地域の様々な資源を生かし、それぞれの主体がネットワークでつながりながら、スポーツを通じた地域での交流が深まるまちを目指します。

また、立川シティハーフマラソンの魅力を高めるとともに、立川市をホームタウンとするプロスポーツチームや、オリンピック・パラリンピック・デフリンピックなどの国際大会に出場する立川市にゆかりのあるトップアスリートの応援など、シビックプライドの醸成や愛着を高める取り組みを推進します。

(1) 地域スポーツ団体との連携によるスポーツ活動の促進

身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりを進めるため、地域スポーツクラブとして登録している地区体育会や、各地域から選出されたスポーツ推進委員と連携し、市民のスポーツ参加・交流を促進します。

競技団体との連携では、スポーツを楽しむ市民のスポーツ継続へのモチベーションアップ、競技力向上につなげるため、場の提供や広域の大会などへの選手派遣などを実施します。

<具体的な取組>

① スポーツ交流・連携事業（地域スポーツ教室） 【担当：スポーツ振興課】

地区体育会と連携し、スポーツ活動の促進や世代間交流が図られるよう、「なわとび検定」や地域の特性に合わせたスポーツ教室を実施します。

また、地区体育会の活動を持続的なものとするため、地区体育会間のネットワークや、情報交換を通じて、地域のスポーツを通じた交流促進を支援します。



地域スポーツ教室(なわとび検定)の様子



地域スポーツ教室(ソフトバレー)の様子

②スポーツ交流・連携事業（交流・連携・選手派遣） 【担当：スポーツ振興課】

スポーツ協会や競技団体と連携し、競技スポーツに取り組む市民の目標となる東京都スポーツ大会や市町村総合スポーツ大会などの広域大会への出場を支援します。

（２）スポーツ大会を通じた交流機会の促進

「する」「みる」「ささえる」を具現化するイベントとして立川シティハーフマラソンを開催し、多様な市民の交流機会を促進します。

また、市民の競技スポーツ活動に対して、各種スポーツ大会の開催を通じて、練習の成果を発表する場や、多様な市民の交流の場づくりを提供します。

<具体的な取組>

① スポーツ交流・連携事業（立川シティハーフマラソン） 【担当：スポーツ振興課】

スポーツ協会、立川商工会議所などと協力して大会運営するほか、市内の団体や企業・学校にもボランティアなどのご協力をいただき、スポーツの３大要素である「する」「みる」「ささえる」を包含した大会を開催します。

また、大会を通じて地域経済の活性化につながる取り組みや、まちの魅力を高める取り組みも進めています。



立川シティハーフマラソンの様子

② スポーツ交流・連携事業（交流・連携・選手派遣） 【担当：スポーツ振興課】

スポーツ協会と連携し、地域スポーツの中核イベントである市民体育大会やスポレクフェスタ等を継続して開催します。

また、広い年齢層から新たな参加者を集められるよう、スポーツ協会と連携した情報発信を検討します。



立川スポレクフェスタ開会式の様子

(3) ホームタウンチーム等との連携・協働

立川プロスポーツ連絡会との連携のほか、連絡会に加盟する各チームとも協定締結等による連携・協働によるスポーツの振興を進めます。

また、立川市にゆかりのアスリートや、東京女子体育大学との協力により多様なスポーツに触れる機会の拡充を図り、スポーツを通じた地域活性化につなげていきます。

<具体的な取組>

① スポーツ交流・連携事業（交流・連携・選手派遣） 【担当：スポーツ振興課】

立川市のスポーツ振興に向けて、立川プロスポーツ連絡会の行う様々なイベントに協力するほか、連絡会に加盟する各チーム・団体とも個別に連携を進めます。プロスポーツ以外でもオリンピックを契機に始まった日本近代五種※協会との協力のほか、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学との包括連携協定に基づいた連携事業などを推進します。



立川プロスポーツ連絡会 スポチャレの様子



近代3種※日本選手権大会の様子

② スポーツ交流・連携事業（世界陸上・デフリンピック気運醸成）

【担当：スポーツ振興課】

東京 2025 世界陸上及び東京 2025 デフリンピックの開催に向けて、立川市ゆかりのアスリートとの交流や連携により、気運醸成の取組とともに、スポーツを楽しむ機会の創出や、互いの違いを認め、尊重し合う地域社会づくりに向けて取り組みます。

また、大会後も、積み重ねてきた関係者や関係団体とのネットワークを活かし、共生社会の実現に向けた継続した取り組みにつなげていきます。

③ スポーツ交流・連携事業（その他）【担当：スポーツ振興課】

スポーツを通じたまちづくりを進めていく中で、他自治体との連携や、民間企業等との多様な主体と交流・連携し、それぞれの強みを生かすことで、新たな価値を市民に提供し、連携したそれぞれの主体の価値を高める取り組みにつなげていきます。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた様々な取り組みの中で形成された関係団体等のネットワークをさらに深化させるとともに、他自治体との連携事業や、民間企業等との連携事業等をトライアル的に取り組みます。

また、スポーツ関係団体のみならず、民間企業や福祉団体等、多様な主体がスポーツを通してつながり、地域の活性化につながるネットワークづくりに取り組みます。

④ シティプロモーション事業【担当：広報プロモーション課、スポーツ振興課】

市内で行われるスポーツイベントやプロスポーツチームの活動等を地域の貴重な資源として、シティプロモーションにつなげるため庁内外と連携した取り組みを検討します。

また、連携協定を締結しているプロスポーツチームや立川市にゆかりのあるアスリート等に協力をいただきながら、SNS等を活用して立川市の魅力を広く情報発信するなど、市民が地域への関心を高めるきっかけづくりとなる取り組みを検討します。

数値目標【交流と連携によるスポーツ文化の形成】

成果指標	調査手法	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
プロスポーツチームやスポーツ関係団体等との連携事業数	事業実績報告	54事業	65事業
立川市をホームタウンとして活動するプロスポーツチームの認知度 (児童・生徒)	小中学生へのアンケート調査(LoGo フォームにて毎年 実施)	29.2%	40.0%

基本方針3

スポーツ環境の充実

多様化するスポーツニーズをとらえ、より多くの市民がスポーツを楽しむことができるよう、ソフト面でのスポーツ施設の有効活用・利用促進に取り組むとともに、スポーツにアクセスするために有効な情報を収集し、庁内各課と連携してスポーツへの興味・関心を喚起します。

また、スポーツを日常的に楽しむための指導者の育成や、中学校部活動の地域連携・地域移行への対応等が求められている中で、市内の各スポーツ団体や地域の多様な人材がスポーツを通じて地域に貢献し、活躍できる環境づくりを進めます。

(1) スポーツ施設の有効活用・利用促進

ニュースポーツや障害者スポーツの普及により、今後ますます多様化するスポーツニーズをとらえ、新たな利用者や団体が気軽にスポーツ施設を利用できるよう取り組むとともに、既存の利用者や団体からのニーズに応じて、利用期間や利用時間を見直すことで、スポーツ施設の有効活用に取り組みます。また、施設予約方法の見直しや、料金支払いのキャッシュレス化を進めることで、施設の利用促進と利用者の利便性向上に取り組めます。

<具体的な取組>

①泉市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

柴崎市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

体育室・プール・ジム等、目的に応じて利用できる施設として、大会利用のほか、個人開放、各種教室事業等を通じて、多様な方が利用できる環境を提供します。また、プロスポーツの会場として「みる」スポーツの場も提供します。

市内のスポーツ振興の拠点としての機能を充実し、地域との連携を含めた取り組みを検討します。



泉市民体育館



柴崎市民体育館



立川アスレティックFC 試合会場の様子

② 屋外スポーツ施設運営一般 【担当：スポーツ振興課】

施設の一部を競技だけでなくボール遊びなどにも提供します。多くの施設を専用でなく多目的で利用できるようにするほか、冬季やナイターの利用でもニーズの多様化に対応し、予約や料金面を含め市民が利用しやすい施設運営を進めていきます。

また、猛暑による熱中症への危険がさらに高まっていることから、屋外体育施設の利用者や利用団体に対して利用中止や熱中症への備えを周知するとともに、屋外体育施設改修時には必要な対策を検討します。



屋外スポーツ施設利用(モルック)の様子

③ その他の取組 【担当：スポーツ振興課】

市内には、昭和記念公園や民間のスポーツ施設等身体を動かし、市民がスポーツを「する」ことができる施設が多くあります。また、市内の公園や学習等供用施設においてもストレッチ体操等のスポーツが行われています。

市内でスポーツができる施設の情報を集約し発信するとともに、ニュースポーツやアーバンスポーツ※の広がりがある中で、施設の利用ルール等も発信し、来街者や地域住民との共存に取り組みます。

(2) 地域人材・組織の育成と環境づくりの促進

スポーツを日常的に楽しむための指導者の育成や、中学校部活動の地域連携・地域移行への対応等が求められており、現在実施している各種指導者育成に関する事業を継続し、地域スポーツの推進を担う指導者を育成・確保します。

また、庁内各課と連携し、競技スポーツに限らず、幅広い年齢層の方が気軽に取り組める運動に対応する指導者の育成・確保も継続して取り組みます。

<具体的な取組>

① スポーツ団体・自主グループ育成 【担当：スポーツ振興課】

部活動の地域連携・地域移行を見据えたトライアル事業を競技団体等と調整して実施し、課題を検証していきます。

あわせて、各競技の指導者や教員を対象にした、ハラスメント対応等に係る座学や実践演習を含めた指導員講習会等を実施し、指導者育成に取り組みます。

また、子どもたちのスポーツ環境の向上や、地域スポーツを推進する人材が活躍できるしくみについて、スポーツ協会や地区体育会などの諸団体の意見を伺いながら検討します。

競技団体等が組織力を高める取り組みや、継続的な活動につながる事業へ補助金を交

付する等して、競技団体等の活動を支援します。



指導員講習会の様子

(3) スポーツ情報を活用した興味・関心の喚起

市が実施する事業だけではなく、市内で開催されているスポーツイベントやプロスポーツチームの情報、全国大会や国際的な競技大会に参加した本市ゆかりのアスリート等の情報を収集し、スポーツへの興味・関心を喚起できるように、庁内各課と連携して、効果的に情報発信します。

<具体的な取組>

① スポーツ団体・自主グループ育成 【担当：スポーツ振興課】

市の広報紙やホームページに加え、SNS、掲示板、駅前ビジョン、小中学校へのチラシの配布など、様々な媒体を利用してイベント等の情報提供を行うほか、スポーツ協会の広報紙発行事業に補助金を交付し、市民に身近なスポーツ情報を提供します。

② その他の取組

連携協定を締結しているプロスポーツチームや立川市にゆかりのあるアスリート、全国大会で活躍するアマチュアチーム等の情報収集をし、広く情報発信をすることで、地域で頑張るチームやアスリートを応援する気運を高めるきっかけづくりに取り組みます。

また、スポーツにあまり接点のない市民が興味をもつきっかけづくりとして、市にゆかりのアスリートと連携した行政情報の発信や、文化芸術のほかスポーツ以外の分野と連携した情報発信等についても検討します。



スポーツ情報の周知広報スペースの様子

数値目標【スポーツ環境の充実】

成果指標	調査手法	現状値 (R5年度)	目標値 (R11 年度)
市スポーツ施設利用者数(屋内／屋外)	事業実績報告	811,603 人	1,000,000 人
指導者講習会等への参加者数	事業実績報告	7人	15人

基本方針4

スポーツ施設の整備・マネジメント

市内のスポーツ施設は多くの施設で老朽化が進んでおり、市民が安全に利用できるような施設環境整備を計画的に実施していく必要があります。その中で、令和5（2023）年3月に今後ますます進む施設老朽化や人口減少等を踏まえ、令和16（2034）年度までの施設の存廃及び維持管理を含めた方向性を示した「立川市体育施設のあり方」を策定しました。この「立川市体育施設のあり方」に基づきスポーツ施設の整備・マネジメントに取り組みます。

（1）持続可能なスポーツ施設の整備・充実

スポーツ施設の老朽化を見据え、施設の適正規模や配置、機能の集約化等の課題について多角的に検討するとともに、市民のニーズに応じたスポーツ施設の環境向上に取り組めます。

<具体的な取組>

① スポーツ施設の整備・マネジメント 【担当：スポーツ振興課】

本市の有するスポーツ施設は、経年による老朽化が進んでおり、施設の機能についての整理や、適正規模・配置の検討が必要です。

財源の確保等に課題のある立川公園陸上競技場の改修については、新たな市民ニーズや運営方法等も模索し、継続して検討します。

今後、市内各スポーツ施設の再編・多目的化の検討のため、各スポーツ施設について現状を評価するとともに、スポーツ施設の中長期的な維持管理や、基本的な方針と整備手法等の検討を進めます。



改修を検討している立川公園陸上競技場

（2）スポーツ施設の維持管理

令和6（2024）年に策定した「屋外体育施設個別管理計画」に基づき、安全で使いやすいスポーツ施設の維持管理に取り組めます。

<具体的な取組>

① スポーツ施設の整備・マネジメント 【担当：スポーツ振興課】

令和6（2024）年に策定した「屋外体育施設個別管理計画」に基づき、スポーツ施設を計画的に維持管理するとともに、屋外体育施設の照明LED化の対応を行う等、利用者が気持ちよく利用できる施設の維持に努めます。

また、安全性の確保について課題がある場合には、優先的に改修工事を検討し、安心してスポーツが楽しめる環境を整備していきます。



砂川中央地区北野球場



LED 化を検討している屋外スポーツ施設

数値目標【スポーツ環境の充実】

成果指標	調査手法	現状値 (R5年度)	目標値 (R11 年度)
スポーツ施設の中長期的な維持 管理・整備計画の策定施設数	事業実績報告	(新規)	26 施設
照明の LED 化を実施した屋外ス ポーツ施設数	事業実績報告	1施設	5施設

本計画に掲げた基本理念の実現や取組目標の達成、取組事項の効率的・効果的な推進を図るため、以下のとおり取り組んでいきます。

1 計画の市民等への周知と協働による推進

本計画の内容を市民や企業・関係団体などへ周知するため、市ホームページやSNSなど、さまざまな媒体を活用して広く発信していきます。また、市は市民や関係団体などさまざまな主体との連携・協働により、計画を推進していきます。

2 計画の進行管理

本計画に掲げた取組事項等を着実に推進していくため、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)のサイクルにより、本計画の進行管理を適切に行っていきます。

また、本計画全体の取組目標として掲げた市民のスポーツ実施率や、各基本方針の数値目標の状況を把握するため、市民のスポーツに関する意識や実態について調査を実施します。

調査の結果は、立川市スポーツ推進審議会に報告するとともに、市ホームページなどで公開します。

3 教育委員会や庁内各課との連携・協力

本市は平成27(2015)年度からスポーツに関する事務を教育委員会から市長部局に移管しましたが、学校に関するスポーツは教育委員会が所管しています。

児童・生徒が学校を通して行うスポーツには、将来健康的で豊かな生活を送るための習慣を身に付けるための重要な意味があります。このため、引き続き教育委員会と連携します。

また、健康づくりや高齢者、障害者などの関係部署と連携・協力し、計画に掲げた取組を着実に推進します。

4 立川市スポーツ推進審議会への進捗報告・意見聴取

本計画の取組事項の進捗状況等を立川市スポーツ推進審議会に報告し、学識経験者や医師、関係団体、市民公募などの委員の立場から計画の進捗状況を審議し、その結果を踏まえ、より効率的・効果的に取組が実施できるようにします。

資料編

1 用語解説

用語		記載箇所	解説
あ 行	アーバンスポーツ	42 ページ	広い場所を必要としない、個人が気軽に始められるなどの理由で、都市住民が参加しやすいスポーツの総称。スケートボード、BMX、パルクールなど。
	e スポーツ	34 ページ	「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦を競技として捉える際の名称。

か 行	近代五種	39 ページ	一人の選手が一日の間に、フェンシングランキングラウンド、水泳、フェンシングボーンスラウンド、馬術、レーザーラン(射撃、ラン)の5種類を実施し、万能性を競う複合競技である。オリンピック競技大会の正式種目。※ロサンゼルス 2028 オリンピックからは、パリ 2024 オリンピックまで行われていた馬術競技に替わる新たな種目としてオブスタクルが採用される。
	近代3種	39 ページ	水泳とレーザーラン(ランニングと射撃を交互に行う)の3種目のこと。
	健康寿命	6ページ	平均寿命のうち、健康で自立した生活を送ることができる年数のこと。

さ 行	シビックプライド	26 ページ	地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、地域社会に貢献する意識のこと。
	スクリーンタイム	6ページ	平日一日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間のこと。
	スポーツ推進委員	14 ページ	スポーツ基本法第 32 条に基づき市が委嘱している、地域のスポーツ推進を担う非常勤の公務員のこと。

た 行	地域スポーツクラブ	11 ページ	地域住民が主体的に運営し、子どもから高齢者、障害者を含め、誰もが身近にスポーツに親しむことができる場のこと。
	DX(ディーエックス)	8ページ	Digital Transformation の略称。AI、IoT、ビッグデータ等のデジタル技術を社会に浸透させることで、人々の生活やビジネスをより良いものへと変革すること。
	デフリンピック	5ページ	4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会。
	トップアスリート	3ページ	その競技で最高水準の実力を認められているスポーツ選手のこと。

用語		記載箇所	解説
ま 行	モルック	11 ページ	フィンランド発祥の木製の棒とピンを使って得点を競うスポーツ。

は 行	フットサル	31 ページ	基本的には室内で行われ、サッカーに似た競技である。5人のチーム戦で、コート大きさは縦 40m×横 20m、試合は 20 分ハーフで行われる。
	プロスポーツチーム	12 ページ	プロフェッショナルスポーツチームの略称。金銭の報酬を得ているプロフェッショナル選手やその指導者等で構成されたスポーツ組織のこと。本市においては平成 30(2018)年に「立川プロスポーツ連絡会」が立ち上がり、本計画策定時現在において本市をホームタウンとする次の8団体によって構成されている。 ①バスケットボールチーム「立川ダイス」 ②バスケットボールチーム「アルバルク東京」 ③ビーチサッカーチーム「東京ヴェルディビーチサッカー」 ④フットサルチーム「立川アスレティックFC」 ⑤ボクシングジム「石川ボクシングジム立川」 ⑥日本競輪選手会東京支部「たちかわ競輪」 ⑦サッカーチーム「東京ヴェルディ」 ⑧ハンドボールチーム「ジークスター東京」
	ボッチャ	10 ページ	ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げる、転がす、他のボールに当てるなどをして、いかに近づけるかを競う。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具(ランプ)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できる。パラリンピック競技大会の正式種目である。

ら 行	レガシー	10 ページ	オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等を契機として社会に生み出される持続的な効果のこと。
--------	------	--------	---

や 行	ユニバーサルスポーツ	34 ページ	年齢や障害の有無、国籍などに関わらず、様々な人々が一緒に楽しめるスポーツの総称。
--------	------------	--------	--

2 策定組織の開催経過

本計画の策定にあたり、庁内の策定委員会やスポーツ推進審議会、教育委員会定例会にて協議を行いました。策定までの経過は以下のとおりです。

◆ 立川市スポーツ推進審議会

- ・第1回＜令和6年7月8日（月）＞ 計画策定について現在までの経緯やスケジュール確認
- ・第2回＜令和6年10月21日（月）＞ 現計画の課題及び次期計画の基本目標検討
- ・第3回＜令和6年1月21日（火）＞ 素案の検討（まとめ）

◆ 立川市スポーツ推進計画策定委員会

- ・第1回＜令和6年6月24日（月）＞ 現在までの経緯、進め方やスケジュール確認
- ・第2回＜令和6年10月15日（火）＞ 審議会の進捗報告、骨子案の検討及びまとめ
- ・第3回＜令和7年1月17日（金）＞ 素案の検討（まとめ）

◆ 立川市スポーツ推進計画策定委員会幹事会

- ・第1回＜令和6年8月26日（月）＞ 現在までの経緯、進め方やスケジュール確認
- ・第2回＜令和6年10月7日（月）＞ 審議会からの意見報告、次期計画の方向性検討
- ・第3回＜令和7年1月10日（金）＞ 計画の体系、校正、取組内容検討

◆ 立川市教育委員会定例会

- ・第1回＜令和7年2月10日（月）＞ 素案の協議

◆ 市民参加

- ・立川市民のスポーツに関する意識調査 ＜令和6年3月5日～3月31日＞
- ・分野別個別計画素案E X P O（市民説明会） ＜令和7年4月5日（土）＞
第3次スポーツ推進計画素案について、市民の皆さんに説明をさせていただき、市民意見公募（パブリックコメント）として、ご意見をいただく機会を創出しました。
- ・市民意見公募（パブリックコメント） ＜令和7年4月1日～4月21日＞
第3次スポーツ推進計画計画素案に対して、市民意見公募（パブリックコメント）を実施し、1人から1件のご意見をいただきました。

3 立川市民のスポーツに関する意識調査結果

調査目的と実施概要

(1) 調査の目的

スポーツ基本法第10条の規定に基づく「第3次スポーツ推進計画」を策定するにあたり、市内在住の対象者に対してアンケート調査を行うことにより、スポーツの実施状況やスポーツの環境整備などへの要望・意見を把握し、計画策定の基礎資料とする。

(2) 調査方法

郵送法(郵送による調査票の配布・回収)

(3) 調査期間

市民向け調査：令和6年3月5日～3月31日

(4) 調査対象・抽出方法

本市18歳以上の市民から、以下の年齢で無作為抽出

	対象者	人数
①	18歳～29歳	250
②	30歳代	200
③	40歳代	200
④	50歳代	200
⑤	60歳代	200
⑥	70歳以上	200
	合 計	1,250

(5) 回収率

	対象者	回答人数	回答率
①	18歳～29歳	41	16.4%
②	30歳代	50	25.0%
③	40歳代	53	26.5%
④	50歳代	71	35.5%
⑤	60歳代	92	46.0%
⑥	70歳以上	72	36.0%
	合 計	379	30.3%

(6) 主な調査内容

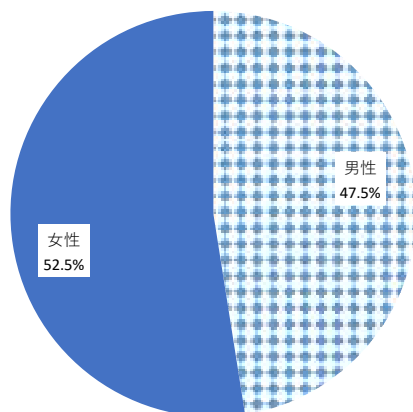
調査項目
■ 回答者の基本属性
■ 自身の体力・運動状況についての意識
■ スポーツ実施状況
■ 市内のスポーツ環境について
■ スポーツに関する情報について
■ スポーツ観戦状況
■ 障害者スポーツについて
■ プロスポーツチームについて
■ 自由意見

立川市民のスポーツに 関する意識調査結果

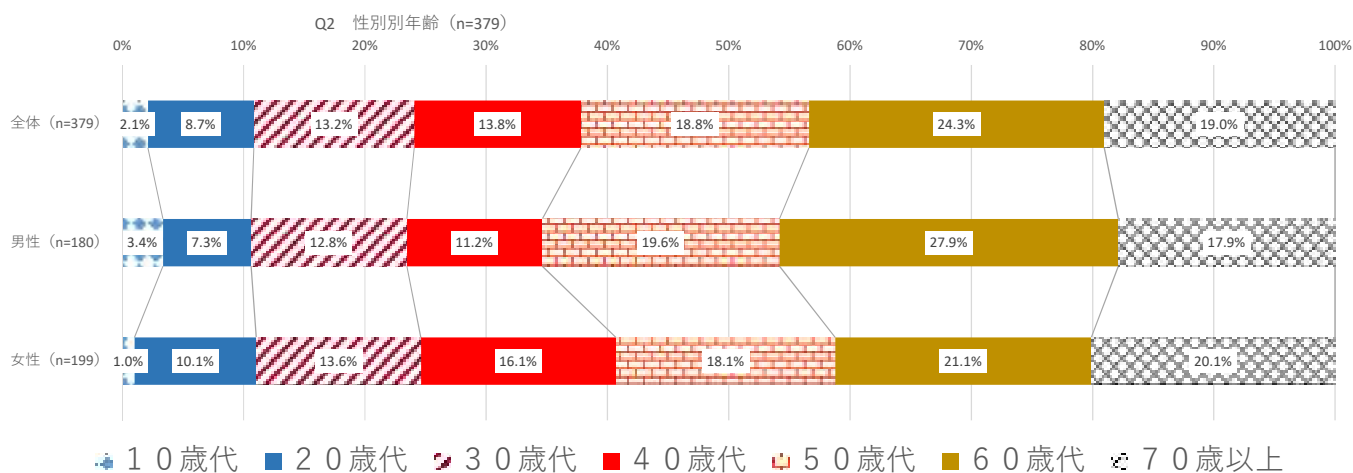
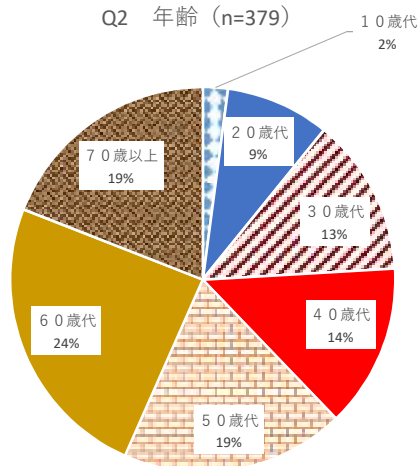
1 回答者の基本属性

年齢と性別

Q1 性別 (n=379) (外回答しない7件、その他0件以降除く)

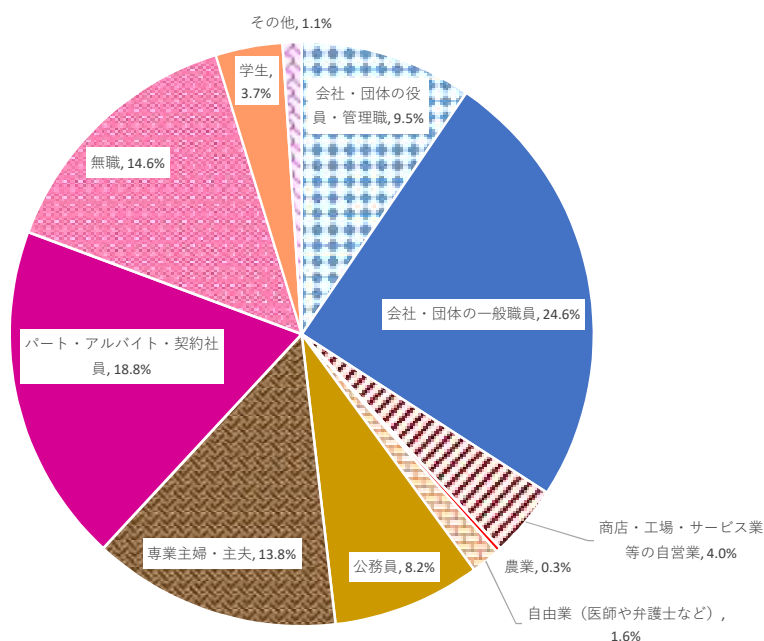


Q2 年齢 (n=379)

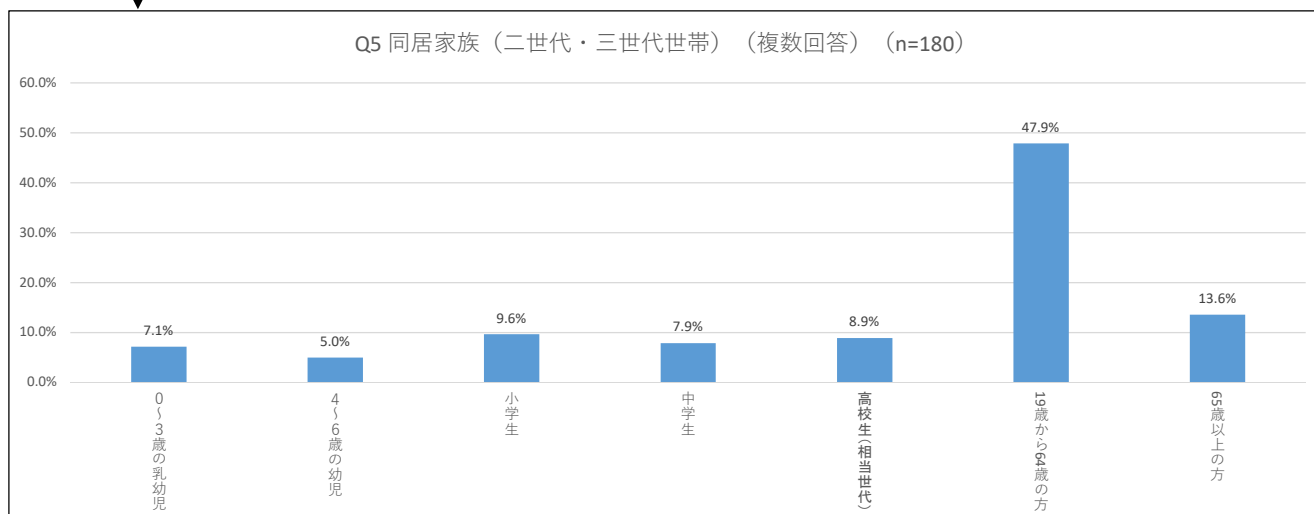
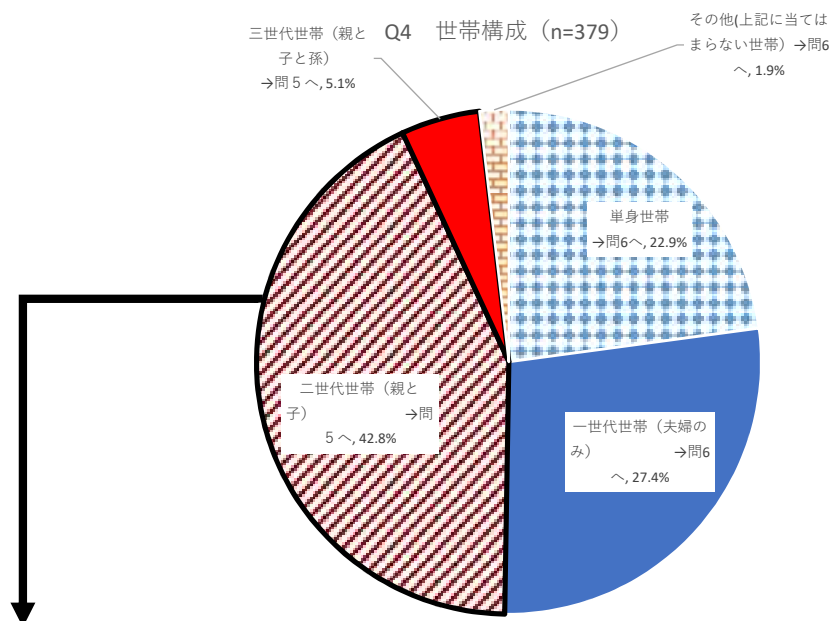


職業

Q3 職業 (n=379)

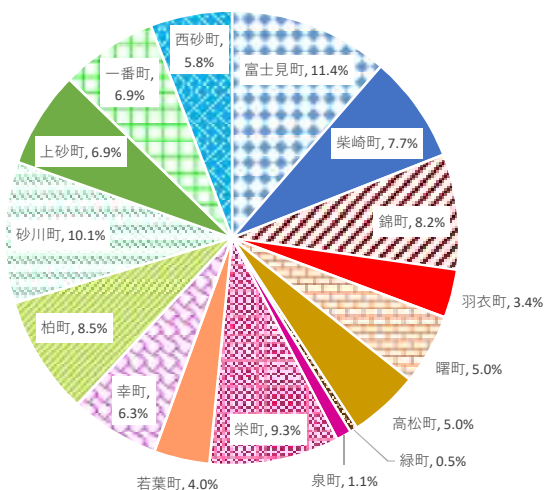


職業



居住地区

Q6 居住地区 (n=379)



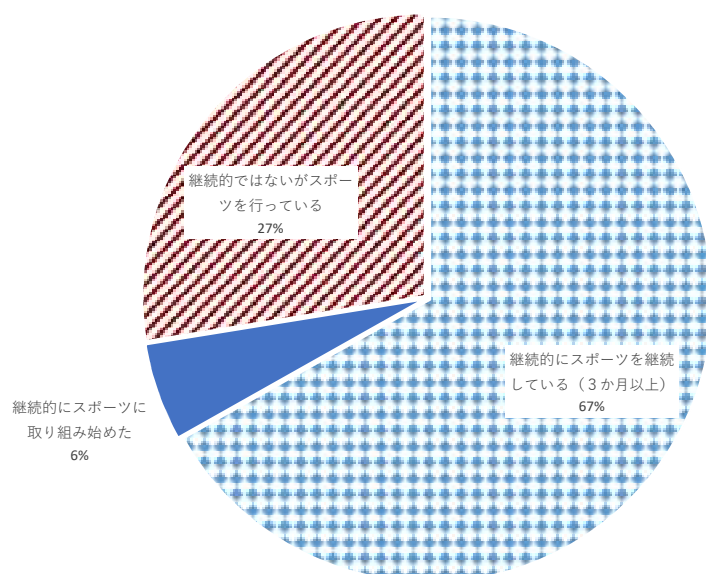
2 スポーツに対する意識や実施頻度

実施状況と意向

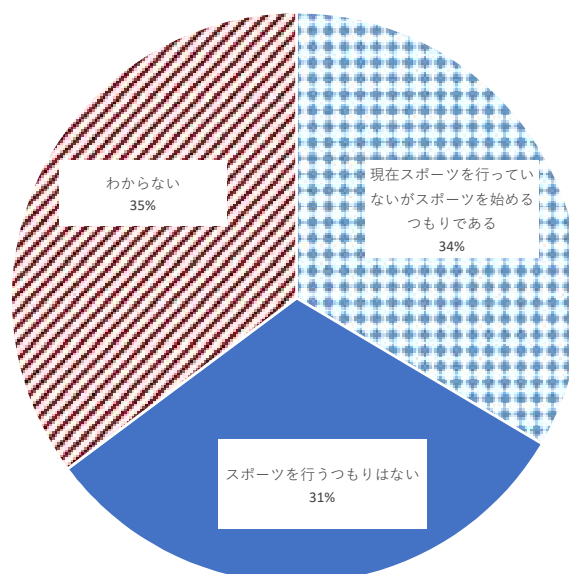
Q7 スポーツの実施状況（n=379）

回答	件数
継続的にスポーツを継続している（3か月以上）	131
継続的にスポーツに取り組み始めた	11
継続的ではないがスポーツを行っている	54
現在スポーツを行っていないがスポーツを始めるつもりである	60
スポーツを行うつもりはない	56
わからない	63

Q7 スポーツ実施者の内訳

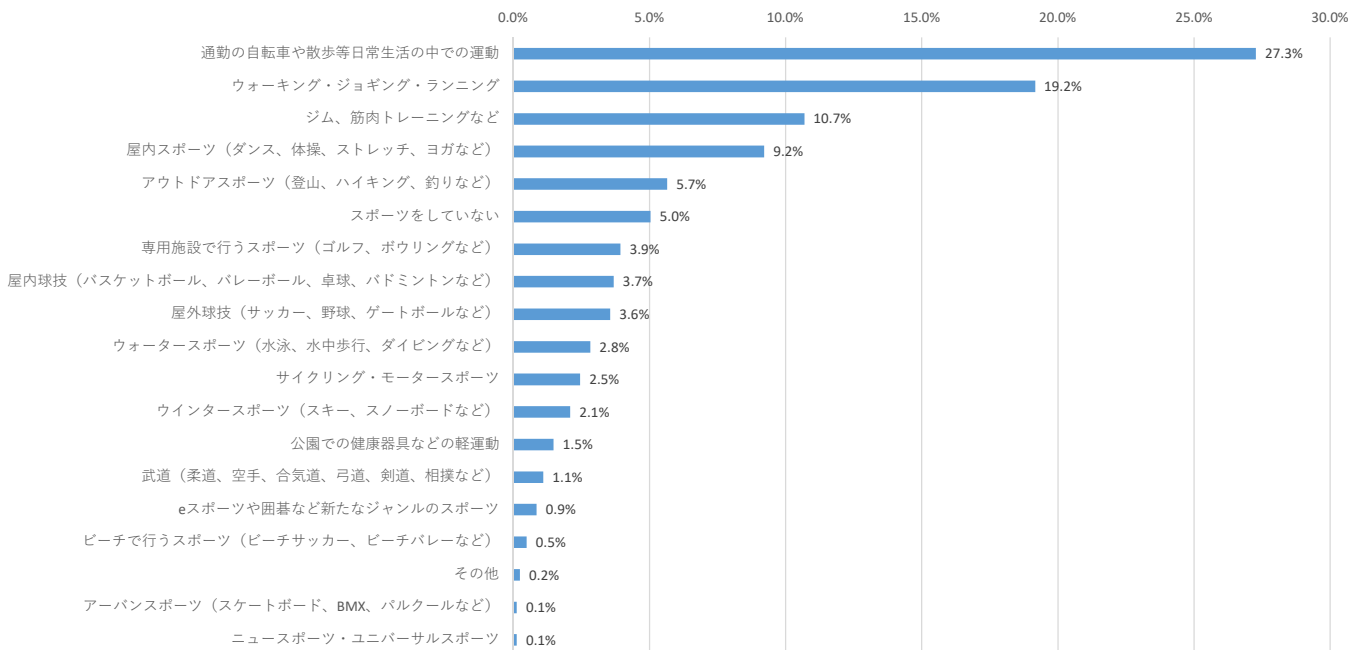


Q7 スポーツ未実施者 今後の意向



実施したスポーツの種類（過去1年）

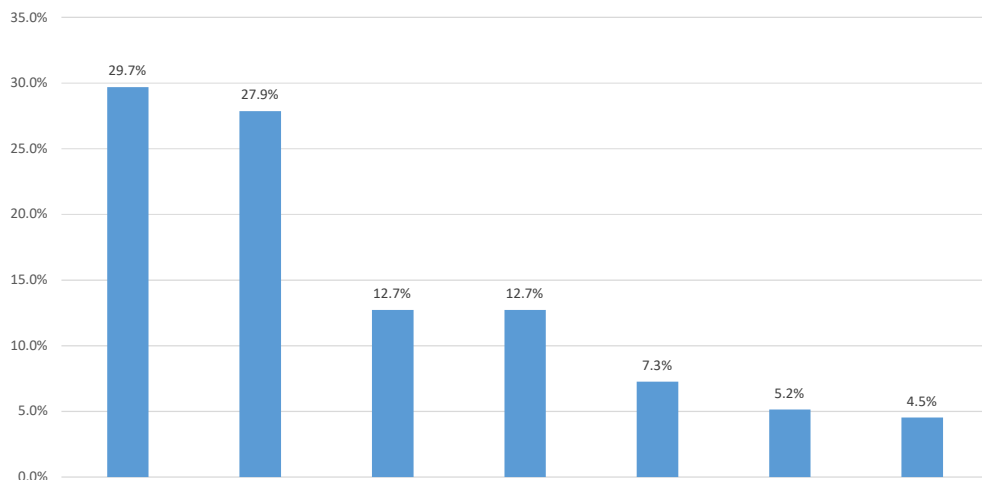
Q8 実施したスポーツの種目・種類（過去1年間）（n=379）



	全体	男性	女性	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n=	(379)	(180)	(199)	(8)	(33)	(50)	(53)	(71)	(92)	(72)
通勤の自転車や散歩等日常生活の中での運動	27.3%	26.4%	28.1%	12.9%	21.6%	29.2%	30.3%	31.7%	31.1%	21.1%
ウォーキング・ジョギング・ランニング	19.2%	20.2%	18.2%	16.1%	15.7%	15.0%	18.0%	20.9%	24.6%	18.8%
ジム、筋肉トレーニングなど	10.7%	12.2%	9.2%	19.4%	15.7%	16.7%	9.8%	10.1%	7.8%	4.5%
屋内スポーツ（ダンス、体操、ストレッチ、ヨガなど）	9.2%	2.7%	15.5%	3.2%	5.9%	8.3%	11.5%	9.4%	7.8%	13.5%
アウトドアスポーツ（登山、ハイキング、釣りなど）	5.7%	6.0%	5.3%	0.0%	5.9%	5.0%	1.6%	6.5%	8.4%	6.8%
スポーツをしていない	5.0%	3.2%	6.8%	0.0%	2.0%	2.5%	2.5%	4.3%	5.4%	13.5%
専用施設で行うスポーツ（ゴルフ、ボウリングなど）	3.9%	4.7%	3.1%	6.5%	4.9%	3.3%	4.1%	3.6%	2.4%	5.3%
屋内球技（バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントンなど）	3.7%	4.5%	2.9%	16.1%	6.9%	3.3%	2.5%	2.9%	1.2%	3.8%
屋外球技（サッカー、野球、ゲートボールなど）	3.6%	3.7%	3.4%	9.7%	5.9%	3.3%	3.3%	1.4%	1.8%	5.3%
ウォータースポーツ（水泳、水中歩行、ダイビングなど）	2.8%	3.0%	2.7%	3.2%	2.9%	4.2%	2.5%	0.0%	4.8%	2.3%
サイクリング・モータースポーツ	2.5%	4.0%	1.0%	0.0%	2.9%	2.5%	4.1%	3.6%	1.2%	1.5%
ウィンタースポーツ（スキー、スノーボードなど）	2.1%	3.0%	1.2%	3.2%	2.9%	1.7%	4.1%	2.2%	1.8%	0.0%
公園での健康器具などの軽運動	1.5%	2.0%	1.0%	3.2%	1.0%	3.3%	1.6%	0.7%	0.6%	1.5%
武道（柔道、空手、合気道、弓道、剣道、相撲など）	1.1%	1.7%	0.5%	6.5%	2.0%	1.7%	0.8%	1.4%	0.0%	0.0%
eスポーツや囲碁など新たなジャンルのスポーツ	0.9%	0.7%	1.0%	0.0%	2.0%	0.0%	1.6%	1.4%	0.0%	0.8%
ビーチで行うスポーツ（ビーチサッカー、ビーチバレーなど）	0.5%	1.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%
その他	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.8%
アーバンスポーツ（スケートボード、BMX、パルクールなど）	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
ニュースポーツ・ユニバーサルスポーツ	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%

スポーツ実施の頻度（過去1年）

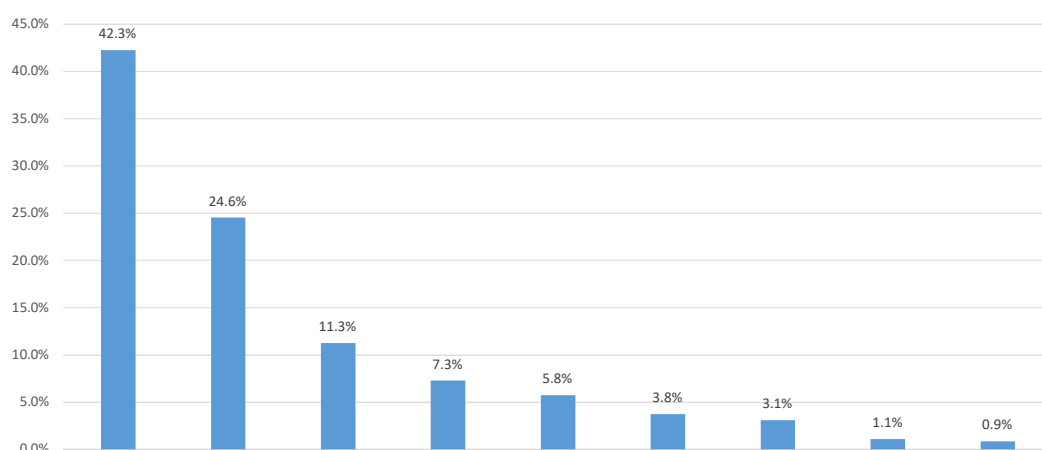
Q9 Q8でスポーツした人 1年間のスポーツ頻度（n=330）



n=			週1～2回	週3回以上	毎日	月に2～3回	2～3か月に1回程度	月1回程度	年1～2回程度未満
性別	全体	(330)	29.7%	27.9%	12.7%	12.7%	7.3%	5.2%	4.5%
	男性	(161)	25.5%	28.0%	13.0%	15.5%	6.8%	6.8%	4.3%
	女性	(169)	33.7%	27.8%	12.4%	10.1%	7.7%	3.6%	4.7%
年齢	10歳代	(8)	12.5%	25.0%	25.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%
	20歳代	(31)	29.0%	16.1%	9.7%	16.1%	12.9%	9.7%	6.5%
	30歳代	(47)	42.6%	25.5%	8.5%	6.4%	12.8%	4.3%	0.0%
	40歳代	(50)	30.0%	20.0%	10.0%	16.0%	8.0%	4.0%	12.0%
	50歳代	(63)	25.4%	31.7%	11.1%	14.3%	4.8%	6.3%	6.3%
	60歳代	(81)	28.4%	29.6%	14.8%	13.6%	4.9%	4.9%	3.7%
	70歳以上	(50)	28.0%	38.0%	18.0%	8.0%	4.0%	4.0%	0.0%
世帯構成	単身世帯	(76)	23.7%	36.8%	15.8%	10.5%	3.9%	5.3%	3.9%
	一世代世帯	(88)	26.1%	28.4%	17.0%	11.4%	4.5%	5.7%	6.8%
	二世代世帯	(143)	34.3%	24.5%	7.7%	14.7%	9.8%	4.9%	4.2%
	三世代世帯	(16)	37.5%	12.5%	18.8%	12.5%	12.5%	6.3%	0.0%

スポーツを実施した理由（過去1年間で週1以上）

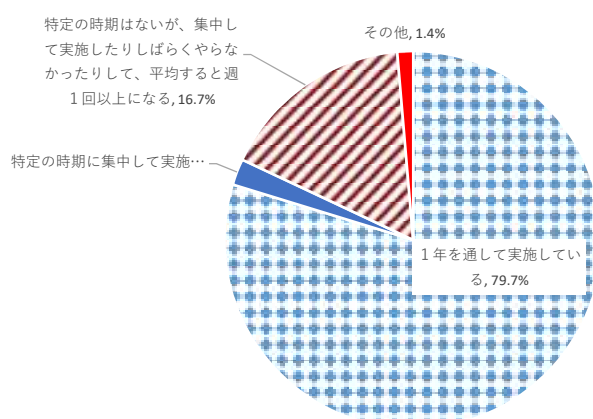
Q10 一年間に週一以上スポーツした人 実施した理由（複数回答）（n=231）



		n=	健康づくり・体力維持（増進）	楽しみ・ストレス解消	友人・仲間とのコミュニケーション	美容のため	以前からやっていたので情性でやっている	記録への挑戦・自身の能力向上	家族のふれあいのため	新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツの必要性を感じたから	テレビやインターネット等の情報でやりたくなったため
性別	全体	(231)	42.3%	24.6%	11.3%	7.3%	5.8%	3.8%	3.1%	1.1%	0.9%
	男性	(106)	18.1%	10.6%	4.0%	1.1%	2.9%	3.1%	0.9%	0.2%	0.4%
	女性	(125)	24.1%	13.9%	7.3%	6.2%	2.9%	0.7%	2.2%	0.9%	0.4%
年齢	10歳代	(5)	0.4%	0.7%	0.4%	0.0%	0.4%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%
	20歳代	(17)	2.7%	2.7%	1.3%	0.9%	0.4%	0.4%	0.2%	0.0%	0.2%
	30歳代	(36)	6.2%	3.8%	1.1%	2.2%	0.9%	0.9%	0.9%	0.2%	0.2%
	40歳代	(30)	5.5%	3.3%	1.5%	1.8%	0.9%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%
	50歳代	(43)	8.0%	3.3%	1.5%	1.5%	1.1%	0.7%	0.7%	0.2%	0.0%
	60歳代	(58)	11.3%	5.3%	1.3%	0.9%	1.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%
	70歳以上	(42)	8.2%	5.5%	4.0%	0.0%	0.9%	0.4%	0.4%	0.2%	0.2%
世帯構成	単身世帯	(58)	10.8%	4.9%	2.4%	1.5%	1.5%	2.0%	0.0%	0.2%	0.2%
	一世代世帯	(63)	12.6%	7.7%	3.5%	1.3%	0.7%	0.9%	0.7%	0.4%	0.4%
	二世代世帯	(96)	16.4%	10.0%	4.4%	4.4%	3.5%	0.7%	2.0%	0.2%	0.2%
	三世代世帯	(10)	1.8%	1.8%	0.9%	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%

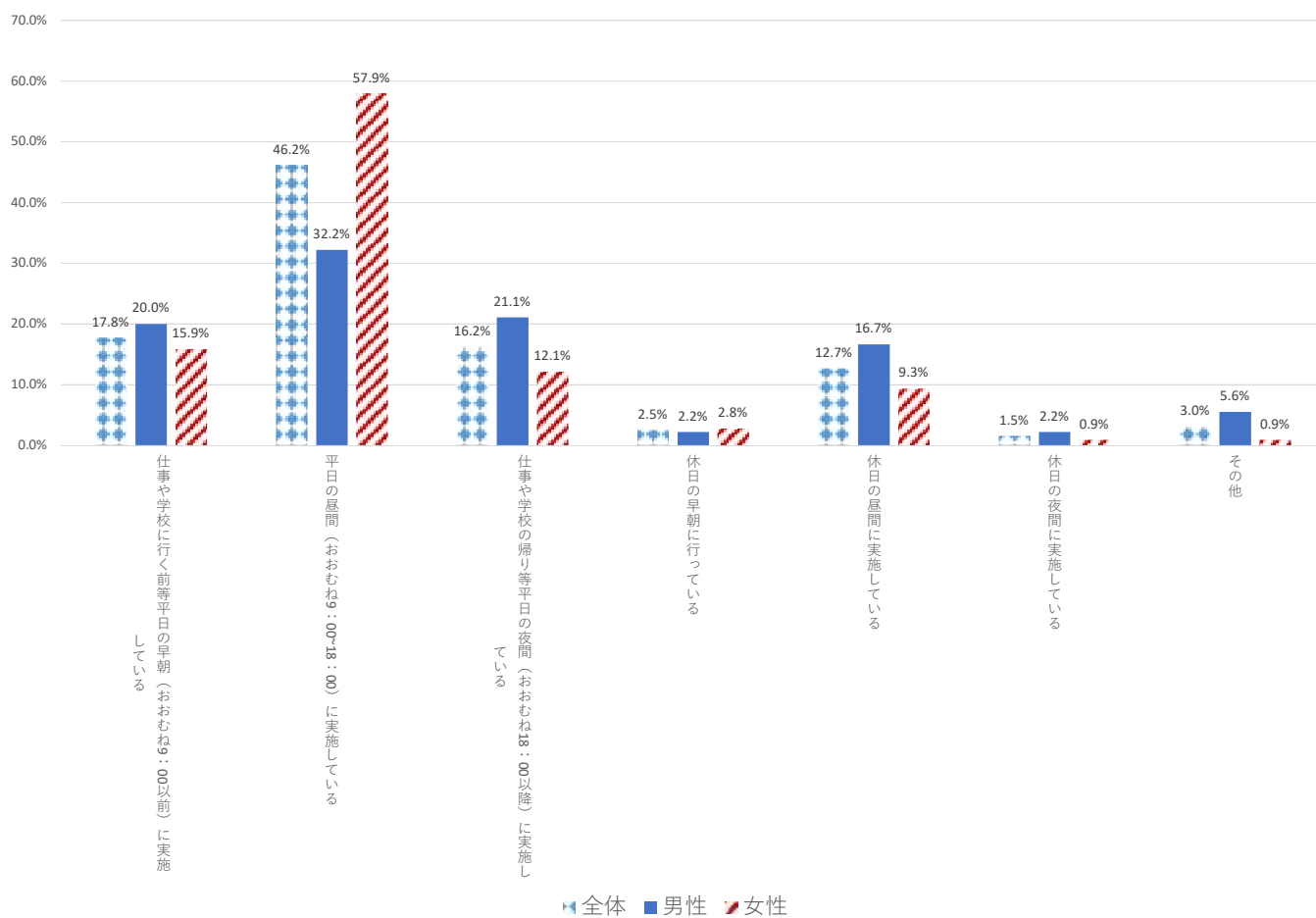
スポーツ実施時期（過去1年間で週1以上）

Q11 週一以上スポーツ スポーツ実施時期（n=231）



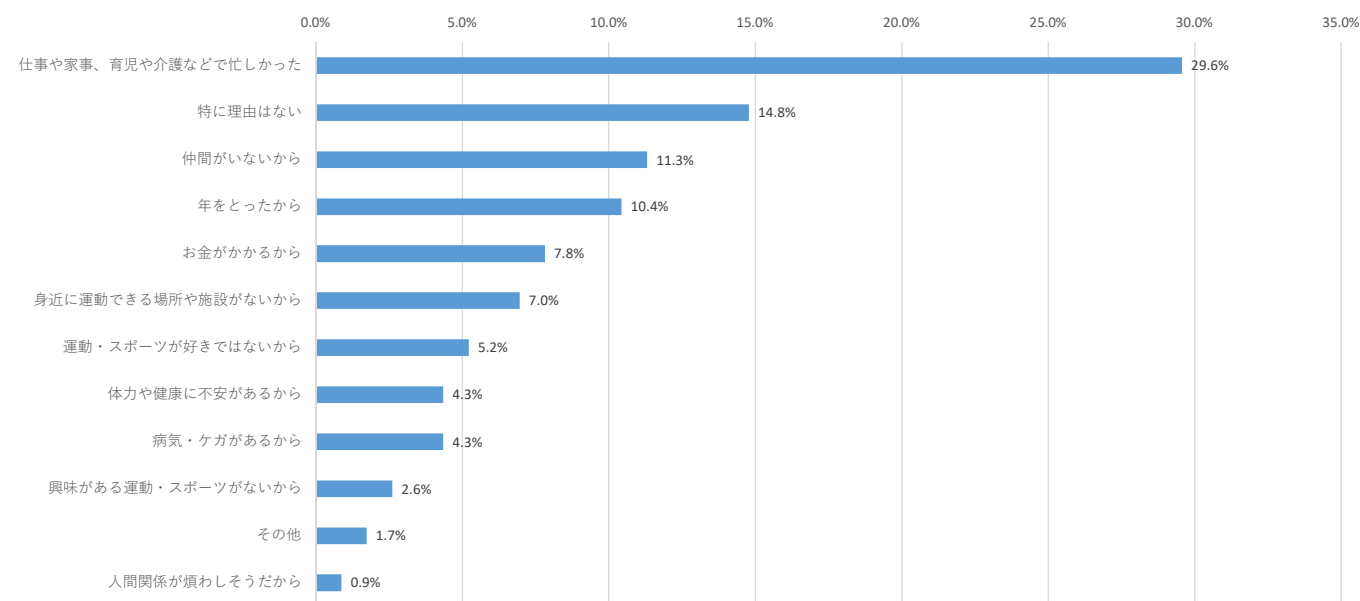
スポーツ実施時間帯（過去1年間で週1以上）

Q12 週一以上スポーツした人 スポーツ実施時間帯（n=231）



スポーツをしない理由（過去1年で月1回未満）

Q13 Q8スポーツしない人、Q9月1回程度未満 スポーツしない理由（n=77）（複数回答）

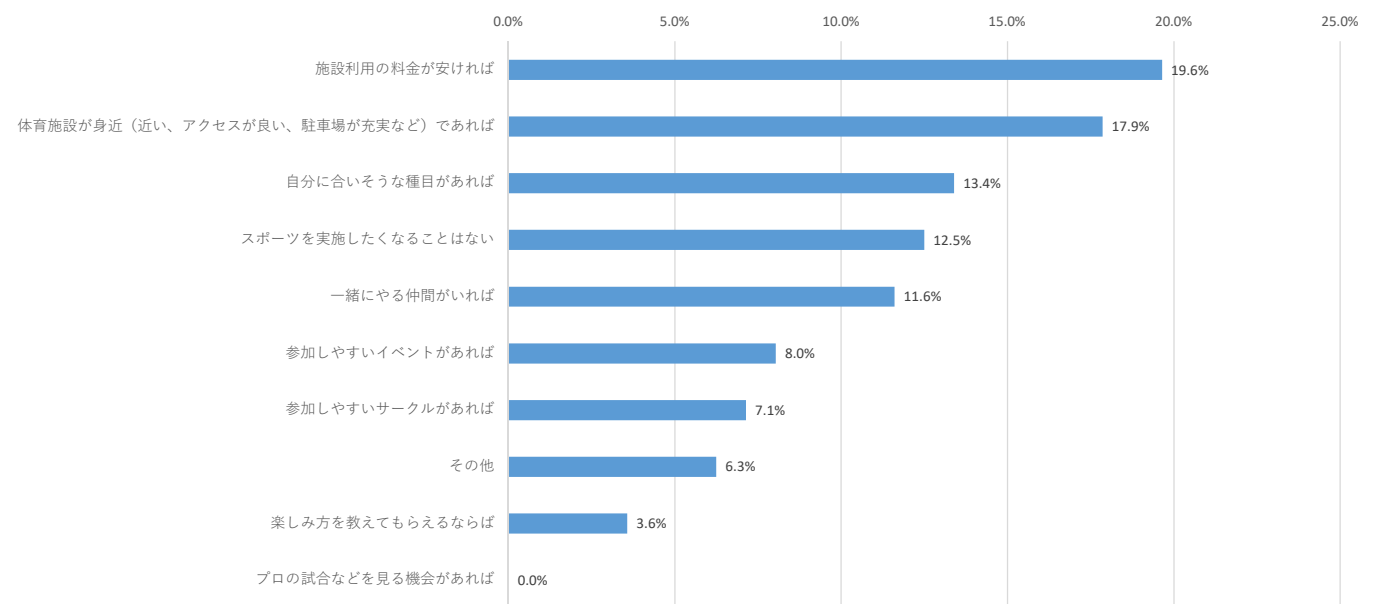


	全体	男性	女性	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	単身世帯	一世帯世帯	二世帯世帯	三世帯世帯
n=	(77)	(30)	(47)	0	(8)	(9)	(12)	(13)	(16)	(19)	(14)	(22)	(34)	(4)
仕事や家事、育児や介護などで忙しかった	29.6%	26.7%	31.4%	0.0%	36.4%	53.3%	40.0%	35.0%	25.0%	9.1%	24.1%	30.0%	33.3%	40.0%
特に理由はない	14.8%	15.6%	14.3%	0.0%	9.1%	6.7%	10.0%	10.0%	43.8%	12.1%	3.4%	20.0%	14.6%	0.0%
仲間がいないから	11.3%	13.3%	10.0%	0.0%	18.2%	13.3%	5.0%	10.0%	6.3%	15.2%	17.2%	6.7%	12.5%	0.0%
年をとったから	10.4%	15.6%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	6.3%	27.3%	24.1%	3.3%	4.2%	40.0%
お金がかかるから	7.8%	2.2%	11.4%	0.0%	0.0%	13.3%	15.0%	15.0%	0.0%	3.0%	6.9%	6.7%	10.4%	0.0%
身近に運動できる場所や施設がないから	7.0%	8.9%	5.7%	0.0%	9.1%	6.7%	10.0%	5.0%	6.3%	6.1%	6.9%	6.7%	8.3%	0.0%
運動・スポーツが好きではないから	5.2%	2.2%	7.1%	0.0%	27.3%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	3.0%	3.4%	10.0%	4.2%	0.0%
体力や健康に不安があるから	4.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	12.1%	10.3%	3.3%	2.1%	0.0%
病気・ケガがあるから	4.3%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	9.1%	3.4%	3.3%	4.2%	20.0%
興味がある運動・スポーツがないから	2.6%	2.2%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	4.2%	0.0%
その他	1.7%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%
人間関係が煩わしそうだから	0.9%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%

スポーツをしなかった理由その他	属性（性別・年代）
ひざ、かたが痛いから	(女性、70歳以上)
健康体力を維持するのに、スポーツは必ずしも必要とは思えないから。精神面の健康においては、スポーツは多くの選択肢の一つにすぎないから	(男性、60歳代)
時間がない	(女性、30歳代)

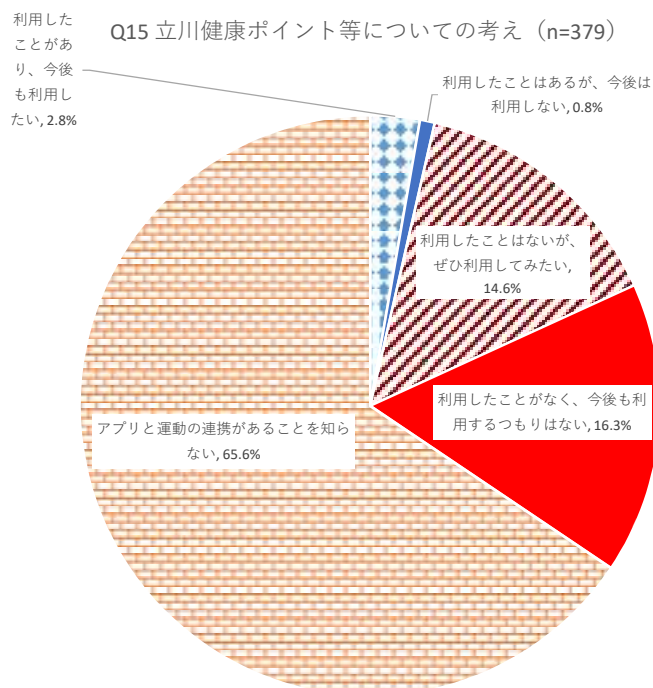
スポーツを実施したくなる理由（過去1年で月1回未満）

Q14 Q8スポーツしていない人、Q9月一回程度未満 どうすれば実施したくなるか（n=77）



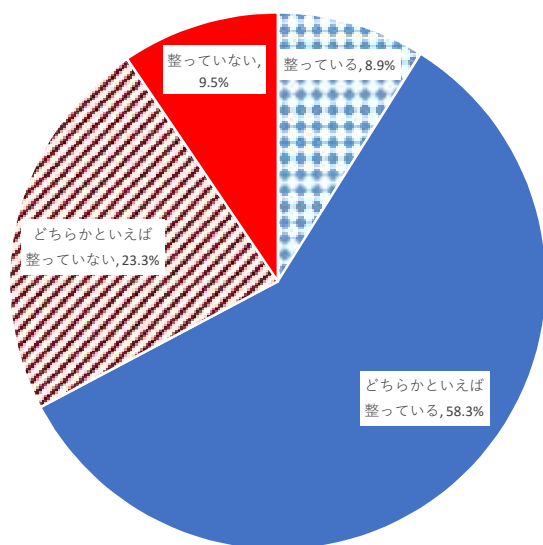
	全体	男性	女性	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	単身世帯	一世代世帯	二世代世帯	三世代世帯
n=	(77)	(30)	(47)	0	(8)	(9)	(12)	(13)	(16)	(19)	(14)	(22)	(34)	(4)
施設利用の料金が安ければ	19.6%	19.1%	20.0%	0.0%	14.3%	27.8%	35.3%	19.2%	11.8%	10.0%	18.2%	11.5%	23.6%	40.0%
体育施設が身近（近い、アクセスが良い、駐車場が充実など）であれば	17.9%	17.0%	18.5%	0.0%	21.4%	22.2%	17.6%	23.1%	17.6%	5.0%	13.6%	11.5%	20.0%	40.0%
自分に合いそうな種目があれば	13.4%	10.6%	15.4%	0.0%	7.1%	5.6%	11.8%	19.2%	17.6%	15.0%	9.1%	23.1%	12.7%	0.0%
スポーツを実施したくなることはない	12.5%	14.9%	10.8%	0.0%	14.3%	0.0%	11.8%	3.8%	11.8%	35.0%	13.6%	19.2%	9.1%	0.0%
一緒にやる仲間がいれば	11.6%	10.6%	12.3%	0.0%	28.6%	5.6%	11.8%	7.7%	11.8%	10.0%	27.3%	7.7%	7.3%	0.0%
参加しやすいイベントがあれば	8.0%	8.5%	7.7%	0.0%	0.0%	11.1%	5.9%	11.5%	5.9%	10.0%	9.1%	11.5%	7.3%	0.0%
参加しやすいサークルがあれば	7.1%	8.5%	6.2%	0.0%	7.1%	5.6%	5.9%	11.5%	5.9%	5.0%	4.5%	7.7%	9.1%	0.0%
その他	6.3%	6.4%	6.2%	0.0%	7.1%	16.7%	0.0%	3.8%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	20.0%
楽しみ方を教えてもらえるならば	3.6%	4.3%	3.1%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	5.9%	10.0%	4.5%	7.7%	1.8%	0.0%
プロの試合などを見る機会があれば	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

立川健康ポイントの利用意向



スポーツ環境の地区別評価

Q16 環境が整っているか (n=379)

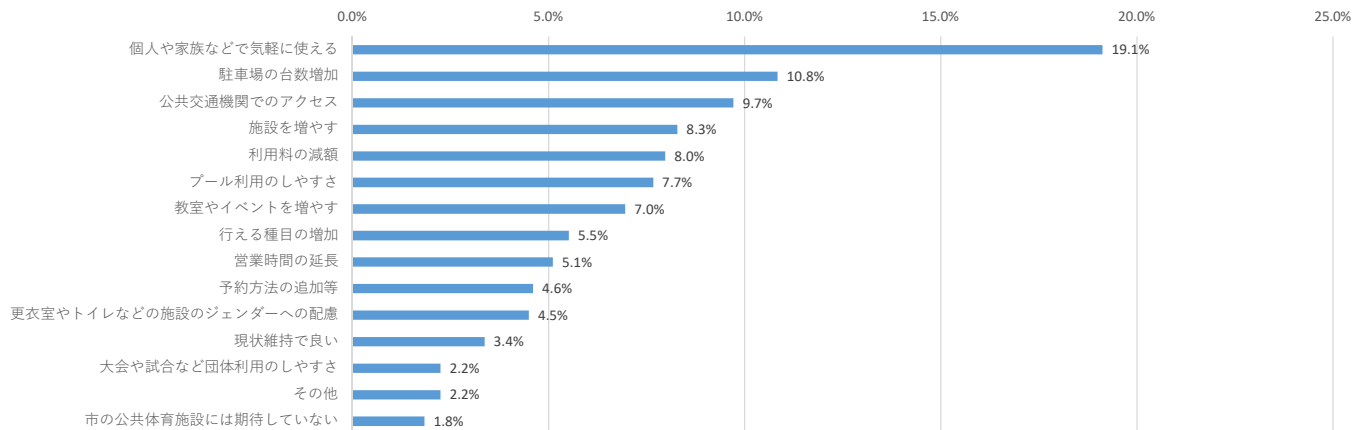


居住地区別 スポーツ環境評価

	整っている	どちらかといえば整っている	どちらかといえば整っていない	整っていない
富士見町	19.4%	9.4%	12.3%	15.2%
柴崎町	9.7%	9.4%	6.2%	6.1%
錦町	12.9%	7.9%	7.4%	9.1%
羽衣町	0.0%	5.4%	1.2%	3.0%
曙町	0.0%	5.4%	6.2%	9.1%
高松町	3.2%	3.9%	6.2%	6.1%
緑町	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
泉町	0.0%	1.0%	1.2%	0.0%
栄町	3.2%	11.8%	6.2%	9.1%
若葉町	6.5%	2.5%	4.9%	6.1%
幸町	12.9%	5.4%	8.6%	0.0%
柏町	16.1%	8.9%	7.4%	3.0%
砂川町	3.2%	8.4%	12.3%	6.1%
上砂町	9.7%	5.9%	8.6%	6.1%
一番町	3.2%	8.4%	7.4%	0.0%
西砂町	0.0%	5.4%	3.7%	21.2%

公共体育施設に求めるもの

Q17 公共体育施設に求めるもの（複数回答）（n=379）

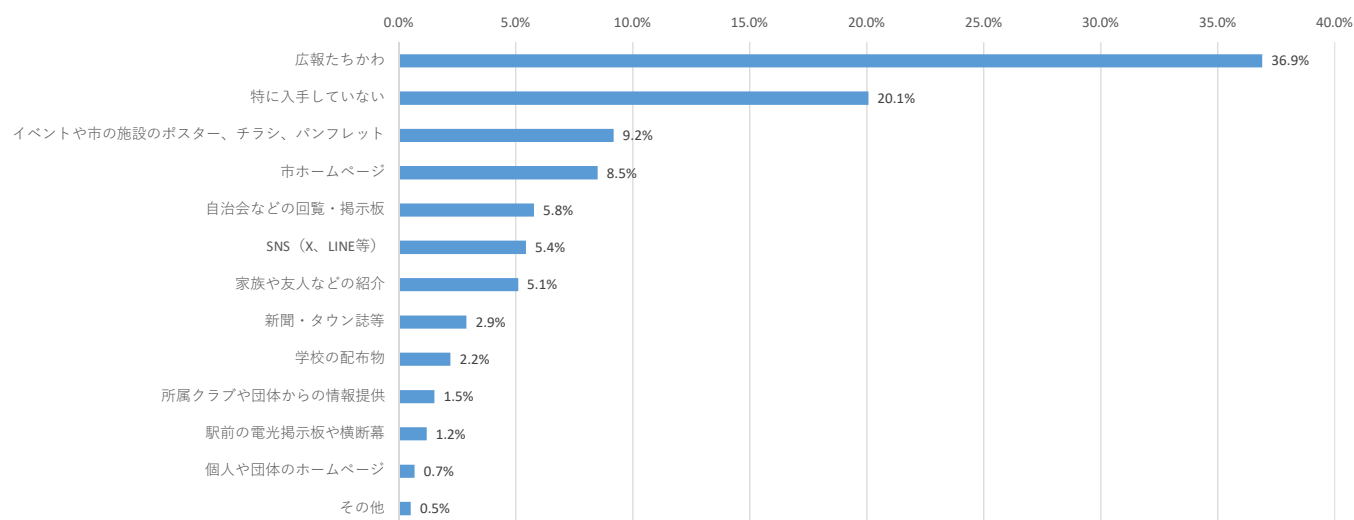


公共体育施設に求めるものその他

- ・プロの試合等見るチャンスを増やしてスポーツに対する興味を持たせる
- ・施設の清潔さ
- ・年齢を問わないでくれる
- ・自宅の近くに施設が欲しい
- ・高齢者用の運動スペースや器具、種目を増やす
- ・障害者と介助者が一緒に入れる更衣室
- ・施設の案内や利用方法の広報
- ・将来かかる医療費や介護費と、スポーツ施策を含む、市民の健康、体力維持、向上のための施策との相互関係の精査
- ・利用したことがないのでよくわからない。
- ・施設に何があるのかわからない
- ・ボルタリング施設の追加
- ・快適設備の拡充
- ・市民の最低人数及び居住要件等の制限緩和
- ・プールで刺青可能

スポーツ情報の入手先

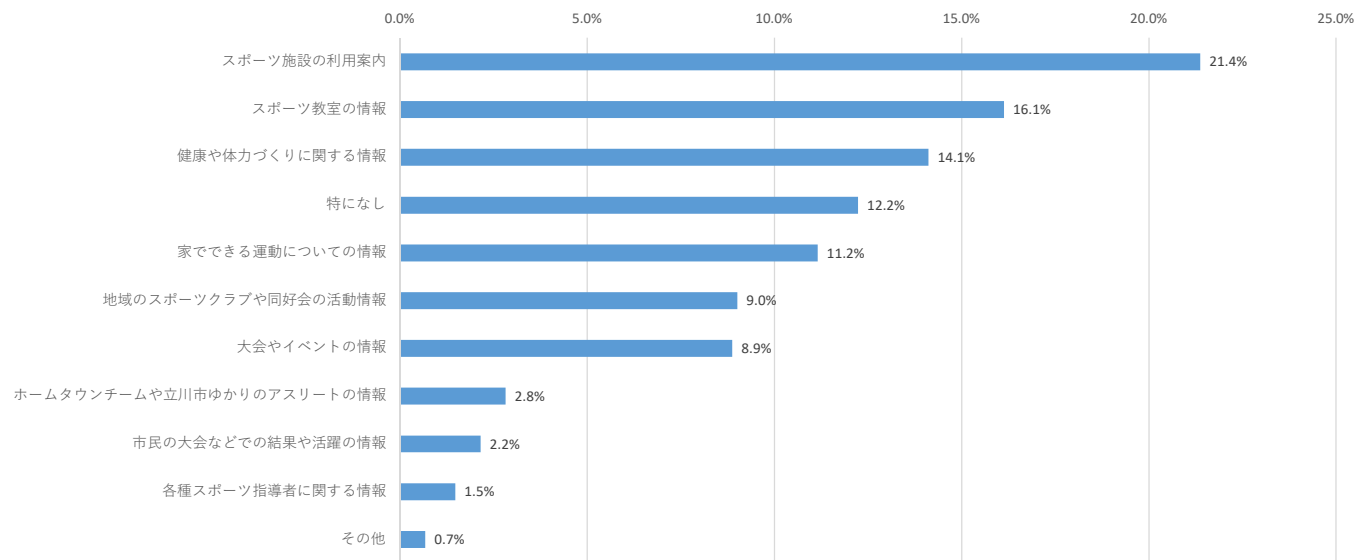
Q18 スポーツに関する情報の入手先（n=379）（複数回答）



	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n=	(379)	(8)	(33)	(50)	(53)	(71)	(92)	(72)
広報たちかわ	36.9%	10.0%	12.2%	31.9%	30.8%	36.2%	47.8%	44.7%
特に入手していない	20.1%	20.0%	36.7%	29.2%	17.6%	25.7%	14.7%	11.4%
イベントや市の施設のポスター、チラシ、パンフレット	9.2%	10.0%	10.2%	4.2%	8.8%	10.5%	11.0%	8.9%
市ホームページ	8.5%	0.0%	2.0%	11.1%	15.4%	7.6%	8.8%	5.7%
自治会などの回覧・掲示板	5.8%	0.0%	6.1%	1.4%	1.1%	3.8%	6.6%	13.0%
SNS (X、LINE等)	5.4%	40.0%	12.2%	6.9%	7.7%	4.8%	3.7%	0.0%
家族や友人などの紹介	5.1%	20.0%	8.2%	8.3%	4.4%	5.7%	0.7%	4.9%
新聞・タウン誌等	2.9%	0.0%	4.1%	1.4%	1.1%	2.9%	2.9%	4.9%
学校の配布物	2.2%	0.0%	0.0%	2.8%	8.8%	1.9%	0.0%	0.8%
所属クラブや団体からの情報提供	1.5%	0.0%	0.0%	1.4%	1.1%	1.0%	1.5%	3.3%
駅前の電光掲示板や横断幕	1.2%	0.0%	6.1%	0.0%	2.2%	0.0%	0.7%	0.8%
個人や団体のホームページ	0.7%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.7%	1.6%
その他	0.5%	0.0%	2.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.7%	0.0%

どのようなスポーツ情報を入手したいか

Q19 どのようなスポーツ情報が知りたいか（複数回答）（n=379）

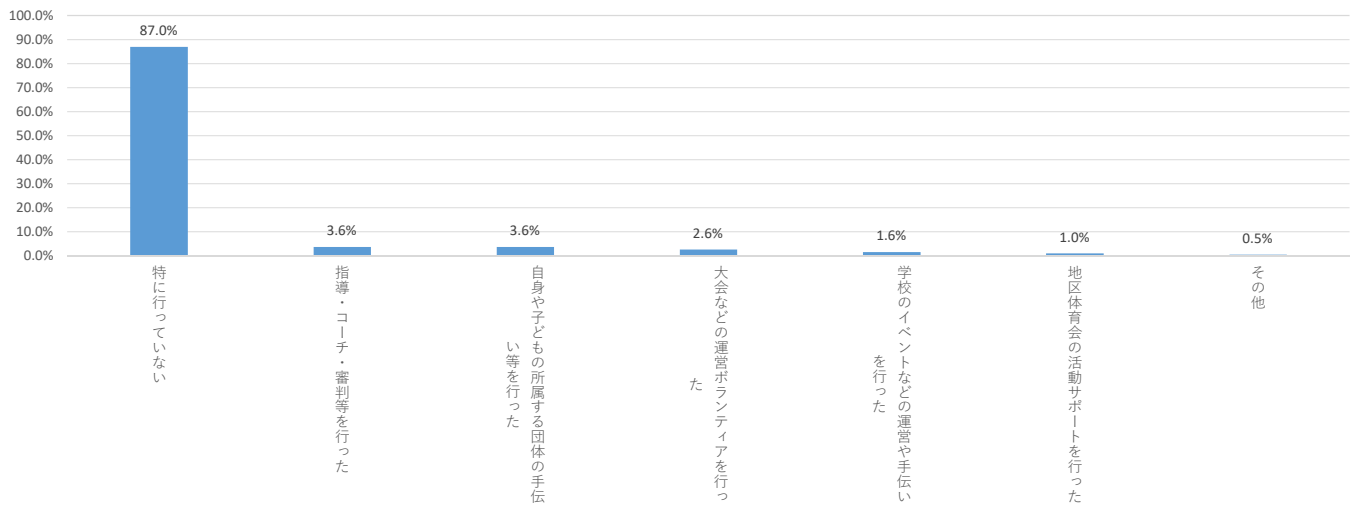


	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n=	(379)	(8)	(33)	(50)	(53)	(71)	(92)	(72)
スポーツ施設の利用案内	21.4%	21.4%	28.3%	27.2%	24.3%	20.3%	18.8%	16.3%
スポーツ教室の情報	16.1%	14.3%	9.4%	17.5%	20.7%	16.7%	16.1%	13.3%
健康や体力づくりに関する情報	14.1%	0.0%	7.5%	6.8%	9.9%	14.5%	20.4%	18.5%
特になし	12.2%	14.3%	26.4%	8.7%	11.7%	11.6%	8.6%	15.6%
家でできる運動についての情報	11.2%	14.3%	9.4%	4.9%	9.9%	10.1%	14.5%	13.3%
地域のスポーツクラブや同好会の活動情報	9.0%	7.1%	9.4%	10.7%	10.8%	6.5%	8.1%	9.6%
大会やイベントの情報	8.9%	21.4%	9.4%	9.7%	7.2%	12.3%	7.5%	6.7%
ホームタウンチームや立川市ゆかりのアスリートの情報	2.8%	0.0%	0.0%	4.9%	1.8%	6.5%	0.5%	3.0%
市民の大会などでの結果や活躍の情報	2.2%	7.1%	0.0%	4.9%	1.8%	0.0%	2.7%	2.2%
各種スポーツ指導者に関する情報	1.5%	0.0%	0.0%	1.9%	1.8%	1.4%	1.6%	1.5%
その他	0.7%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%

どのようなスポーツ情報を知りたいかその他
ランキング形式の市民個人記録
親子で楽しめるもの
老人向けだけではなく子供も一緒に遊べるような情報

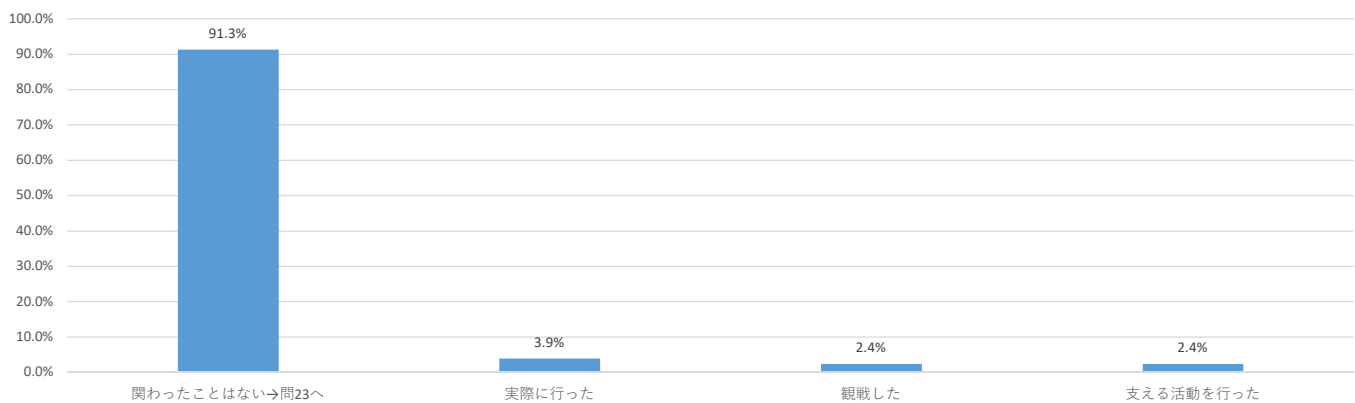
スポーツ活動の支援状況

Q20 この1年間スポーツを支える活動をおこなったか（複数回答）（n=379）



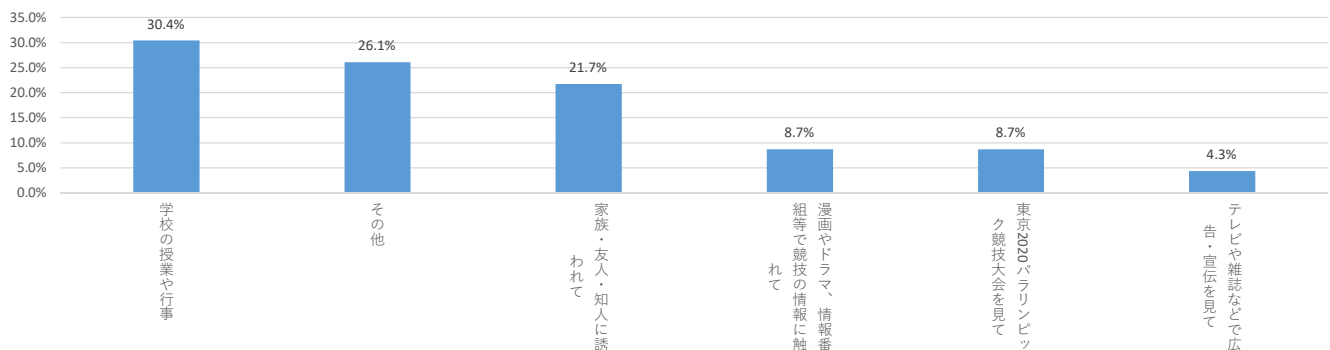
障害者スポーツやユニバーサルスポーツとの関わりについて

Q21 障害者スポーツやユニバーサルスポーツに関わったことがあるか（複数回答）（n=379）



障害者スポーツやユニバーサルスポーツに関わったきっかけ

Q22 Q21でかかわったことがある人 きっかけ（n=23）

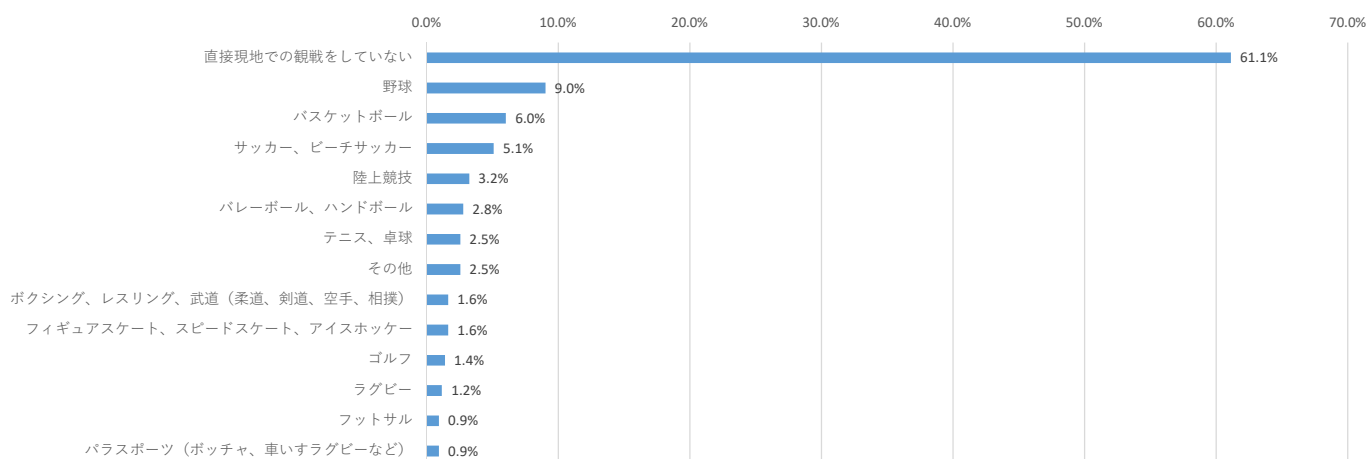


その他まとめ

- ・施設の行事として参加
- ・視覚障害者ランナーの併走
- ・障害団体に加入しているから
- ・仕事から
- ・息子に障害があるため
- ・盲学校に通っていた時

直接観戦したスポーツの種類

Q23 この一年間にどんなスポーツを直接現地で観戦したか（複数回答）（n=379）

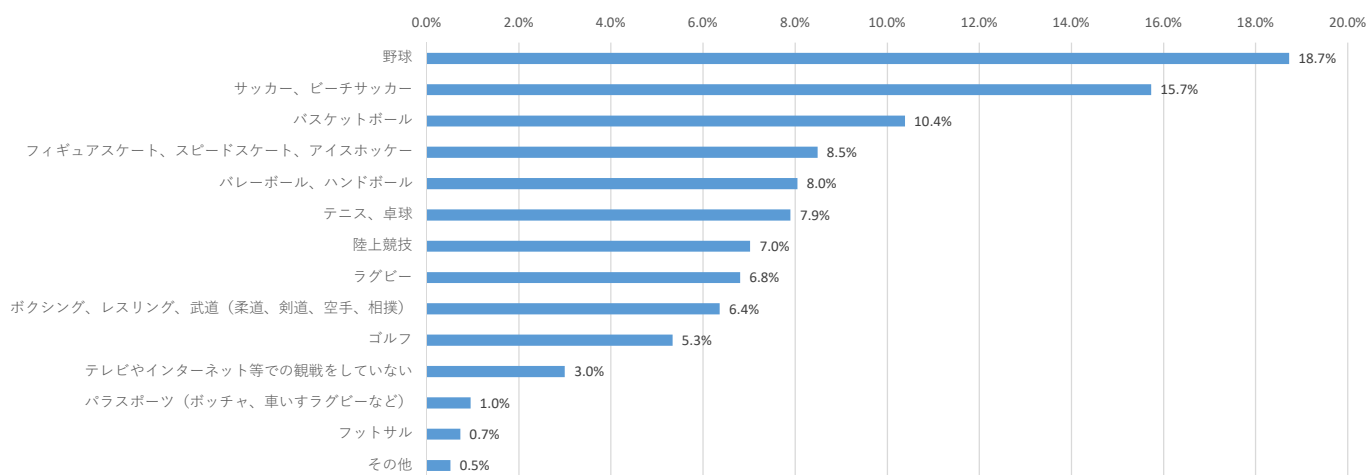


その他まとめ

- ・モトクロス
- ・eスポーツ
- ・アメリカンフットボール
- ・アーチェリー
- ・ボディビル
- ・セーリング
- ・自転車ロードレース
- ・モータースポーツ
- ・水泳
- ・ラクロス

テレビ等で観戦したスポーツの種類

Q24 この一年間でテレビ、インターネット等で観戦したか（複数回答）（n=379）

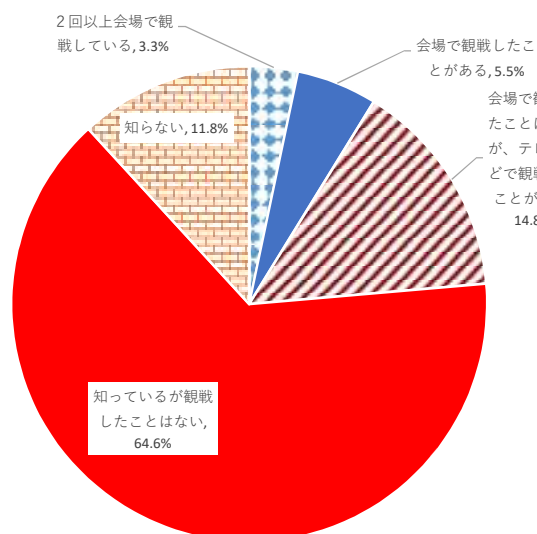


その他まとめ

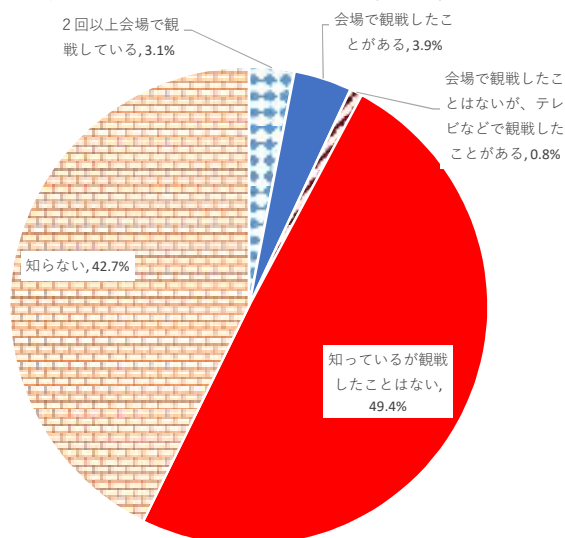
- ・ブレイキングダウン
- ・自転車ロードレース
- ・アメリカンフットボール
- ・モータースポーツ
- ・水泳
- ・ボウリング
- ・ラクロス
- ・総合格闘技
- ・キックボクシング

立川のプロスポーツチームの認知度について

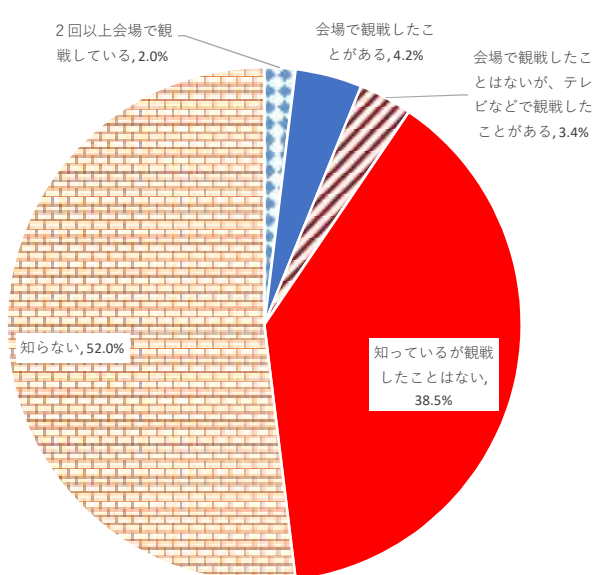
Q25 東京ヴェルディを知っているか (n=379)



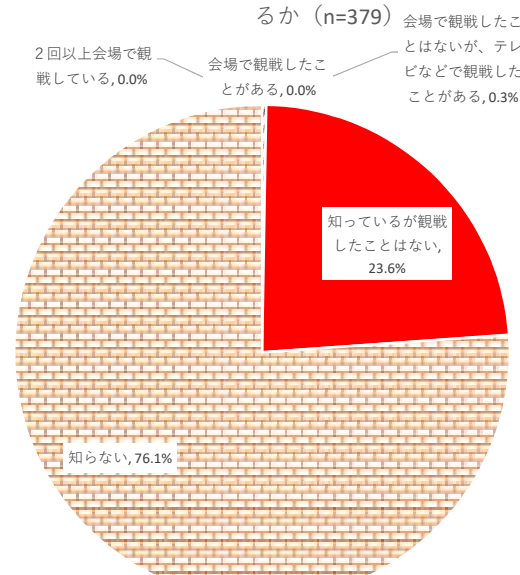
Q25 立川ダイスを知っているか (n=379)



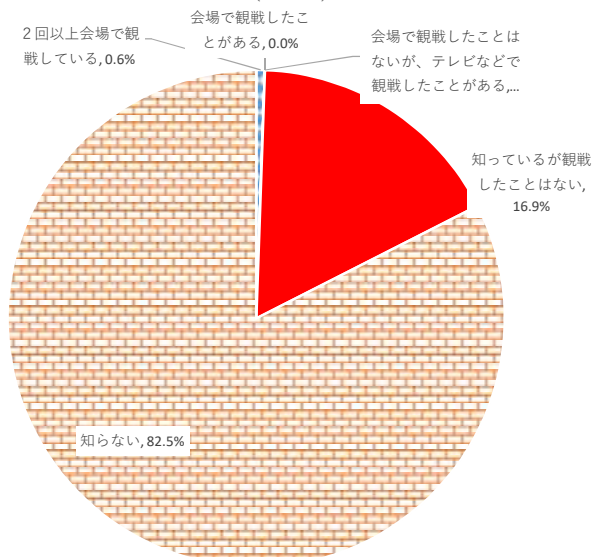
Q25 アルバルク東京を知っているか (n=379)



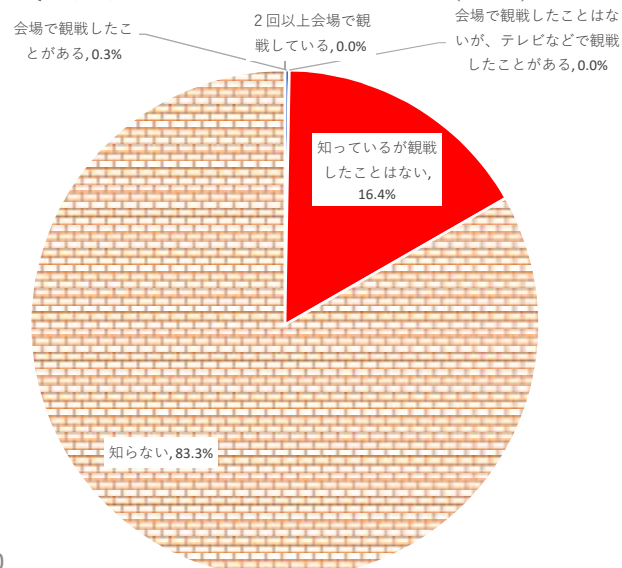
Q25 東京ヴェルディ（ビーチサッカー）を知っているか (n=379)



Q25 立川アスレティックFC（フットサル）を知っているか (n=379)

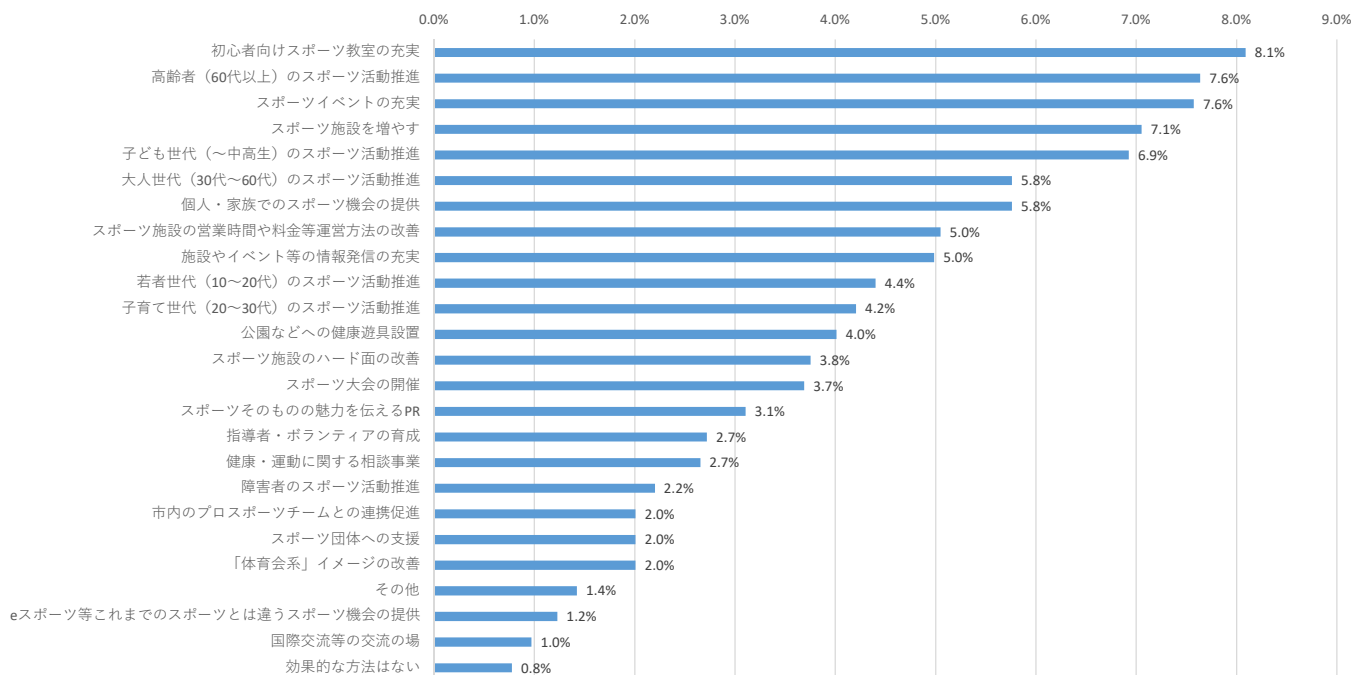


Q25 石川ボクシングジムを知っているか (n=379)



スポーツに親しむ市民増加のための方策について

Q26 スポーツに親しむ市民が増えるために何が必要か（複数回答）（n=379）



その他まとめ

- ・気楽に行える事が必要。体験コースを増やす、ウォーキングコース等の案指南善含めて紹介
- ・楽しくゲームみたいにスポーツできる施設
- ・体力測定大会を行い、上位の者はランキング形式で公表する
- ・禁止事項を最低限にした何もない広場
- ・親子で参加できるスポーツ
- ・各自の意識のものなので必要・不必要という問題ではない
- ・健康を維持しないと医療費で老後破綻するという恐怖
- ・学校の校庭一般開放日の周知
- ・町内への広場の造成
- ・スポーツ広場の拡充
- ・利用時間帯の調整
- ・安全安心な遊具等の設置
- ・サーキット
- ・通勤・通学の途中にちょっとしたアスレチック的なギャップの用意
- ・学校の部活動の充実
- ・深夜運動のできる場所
- ・個人参加における定員の拡充
- ・アーチェリー場
- ・ゆとりある生活と時間
- ・初心者でも入りやすい施設
- ・小さい頃からの反復教育と運動機会の提供
- ・上達を目的とした活動ではなく、楽しさに重点を置いたような、個人個人が自由にスポーツに関わるような場の用意

自由意見

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
前記の通り、体力測定一つとっても”この種目には自信がある”という人はたくさんいると思う。私は賃貸住宅に住んでいるが、自分が自信を持っているものが、立川市でどのくらいの位置なのかというのは、気になる。だから、是非、市民全員を対象とした握力と立ち幅跳び(垂直跳び)の測定大会をやって、(本名でなくても良いので)ランキングを発表して欲しい。ベスト100でも良い。(参加者が少なければベスト10とかでも良い)あとは平均値。男なんて、そんなしょうもない事で満足できる生き物だと思うし、少なくとも俺はそう。	(男性、30歳代、毎日)
運動施設等を予約してとりたいが、ある一定団体等が優先して施設を押さえているために利用が不可になっている。予約してキャンセル等した場合にペナルティー等があるようにして欲しい。個人で施設を利用できるようにして欲しい。	(女性、50歳代、週1~2回)
立川市はスポーツに力を入れている自治体だと感じています。最近だとアリーナ立川立飛をはじめ、多くの企業がスポーツ施設を立川市内で建築されているなど感じます。子育て世帯として、子どもにスポーツを見る、運動をする環境を提供しやすい町になっていると思います。今後も引き続きスポーツ施策の取組等頑張ってください。期待しています。	(男性、30歳代、週1~2回)
75才にもなると家に居ることが多く、スポーツにふれることはなく体力不足になりがちの為、近所まわりと散歩をしています。 体力保持に関してはいつも気にしています。	(男性、70歳以上、スポーツをしていない)
年寄り優遇はやめて欲しい。 現役世代は時間がなくスポーツもできない。 休日に無料でできる体力測定を導入して欲しい。	(女性、50歳代、スポーツをしていない)
よくテニスコートを利用させていただいています。予約がなかなか抽選でとれなくて思うように練習ができないのでぜひコートを増やしてほしいです。又気軽にやってバツと出来るバドミントンなどの施設があったらありがたいです(予約とかせずですぐ使える所があれば)	(女性、40歳代、週1~2回)
スポーツでもなんでも、人が何かを行えば必ず地球温暖化につながります。ちりもつもれば忘れずに地べた目線で行動(スポーツも含む)を...	(男性、70歳以上、スポーツをしていない)
ちらば一との近くに色々なスポーツ施設ができてワクワクする気持ちもありますが、どうやってイベント情報を手にいれるのかわかりません。スポーツ観戦をしてもっと身近に感じられるようになればいいなと思っています。市の体育館も利用したいと思いますが始めるのに色々手続きがややこしい。	(女性、60歳代、週3回以上)
立川にはゴルフ・モータースポーツを楽しむ場所がないため、ゴルフ場(ショートコース、打ちっぱなし)や、カート場ができたならうれしいです。サッカー場もあったらうれしいです。ホノルルマラソンみたいなイベントがあって広まれば良いとおもいます。(完走者にTシャツ)	(男性、50歳代、年1~2回程度未満)
アンケートの趣旨からはずれるかもしれませんが、体育館が近くにあるとイイなと思います。	(女性、70歳以上、週3回以上)
回答する意味(資格)があまり無いと思いますが、せっかく送っていただきましたので返送させていただきます。 600人以上が暮らす高齢者住宅に住んでいまして、プール、卓球室、体操用ホール、スポーツジム等揃っております。又、体操、ダンス等いろいろなクラブ(運動)もあり外に出かける必要が無いと思える現状です。又昭和記念公園にも接しているので(建物)がウォーキングも手軽です。という訳ですがこんな意識調査大事なことに思えます。ご苦労さまです。	(女性、70歳以上、毎日)
柴崎体育館や泉体育館、料金も安くてよいと思いますが、まだ行ったことがありません。シャワー室の様子などがどんなか気になります。市民が安く利用できるサウナなどあればよいなと思います。	(女性、40歳代、月に2~3回)
大人数ではなく、二人等の少人数でも参加・実施ができるイベント等があれば、参加へのハードルが低く楽しめるのかなと考えた。 また、私服(スポーツウェア以外)でも気軽に参加できるようなものがあったら良いのかなと考えた。	(男性、20歳代、週1~2回)
・スポーツ施設を増やす、ハード面の改善が財政的に可能であれば検討いただきたいところですが、「ふるさと納税」を含む収益の増収を検討が必要ではないでしょうか。 ・高齢者が集まることができる施設が少なく、遠くの施設まで出向かなければならない。負担軽減が理想です。(砂川支所 阿豆佐味天神社近くにゲートボール施設がありますが、他には少ない) ・市民大会の充実。レベルアップすることでスポーツへの興味が高まります。例えば近隣の市との対抗戦など ・市民講座の充実。安価な料金設定で、運動、健康維持へのきっかけ作りを提案する。ヨガ、ピラティス等。講師を招き指導、その後興味があれば自身で通う(お金を払って)。双方に有益となる。	(女性、50歳代、毎日)
立川市の各種スポーツ団体の幹部クラスの高齢化が進み、改革が期待出来ない状況になっているように感じられます。定年制(70才~75才)を導入し、定年後は新しい指導方法の教育を受けた上で現場指導に復帰する道を開ける事をお考えになってはいかがでしょうか。	(男性、70歳以上、毎日)
体力の維持・増進で仕事した後の肉体的疲労の解消のアスレチックスが知りたい。実施したい。肉体的疲労、精神的疲労、脳疲労の疲労の回復の為に栄養面、体操等の面、地域の活動等により回復の仕方の知識の講習会の開催を希望。	(男性、70歳以上、週3回以上)

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
自転車で行ける範囲で施設が有ると有難い。プール・ジム・シャワールーム等	(男性、60歳代、毎日)
立川市内にもスポーツクラブ、ジムが有りますけど気軽に行って安く立川市で運営する場所がありましたらいいと思います。 (市の体育館の中にもマシンとかありますけど少ない。わりには使用する方が多いと思います)	(女性、70歳以上、週1~2回)
スポーツ推進計画というものがあることを知りませんでした。そもそもどうしてこの計画がいるのか？何のためにあるのか？と思いました。そこからPRしてもらえたらと思いました。(反対しているのではありません)	(女性、50歳代、週3回以上)
年をとるとスポーツはTVで見るだけで健康・体力の維持に自らの体を少しでも動かすことが大事、いつでもどこでも一人でプラッと立ち寄ってみる場所があったら良いのには思う	(男性、70歳以上、月1回程度)
世界的なスポーツ観戦の出来る複合施設の充実をお願いします。 立川は中途半端な施設ばかりでスポーツに関心、興味の無い町のイメージです。 観る事もスポーツ向上に役立ち、健康的な町のアピールにも役立つと思います。	(女性、70歳以上、毎日)
泉体育館の機器を使った体力増進ができる施設・設備を立川市でも交通の不便なところに住んでいる人も手軽に利用できるような施設・設備を考えてほしい。 高齢者が少人数でもスポーツを楽しむ事ができるよう身近に少し広めの部屋、ホール等の施設がもっとあると良い。	(女性、70歳以上、週3回以上)
さんぽが好きなので緑道をふやしてほしい	(女性、30歳代、週1~2回)
立川健康ポイントの周知、このポイントの利用方法、交換方法等を周知してほしい。	(男性、70歳以上、毎日)
高齢者が気軽にしかけてできるような健康器具を設置した場所を数か所に作る。一か所にりっぱな施設つくるのではなく、 、かんたんなものでよいのであちこちに作る。 たちかわ健康ポイントに参加して意識してウォーキングができるようになりました。こんなイベントを増していいと思います。	(女性、60歳代、週3回以上)
年をとり、体も弱っているのスポーツには縁遠くなっている。	(男性、70歳以上、スポーツをしていない)
近くの会館で、ヨガ講座等あるといいなと思っています。	(女性、60歳代、年1~2回程度未満)
体力保持に効果的な、ひとりでできる運動メニューと持続時間(回数)の目安があれば、習慣的に行いたいと思います。(性格上、集団行動を好みません)	(女性、60歳代、毎日)
スポーツは美容、健康にあった方がよいので、利用しやすくなったら是非利用したいと思います。 今後の立川、たのしみにしています。	(女性、50歳代、週3回以上)
誰もが集える他世化での活動	(男性、50歳代、週1~2回)
(承前)少子化対策が成功するためには、子供を持つことは損、マイナスであるとか、実現できない夢であるとか考えている国民に、金銭的、時間的、労力的損得を超越した、楽しく、幸福な行為であり、人生をかけて取り組むべきことだと思い込ませなければならない。同様に、スポーツへの取り組みも、このような心理を市民にもたらすことを目指した施策でなければならないだろう。頭の悪い、この仕事に真剣に取り組んでいるみなさんなら、きっと、この隘路をすりぬける方策を思いつくことだろう(私は、むりです)。その時、初めて所期の目的は十全に(?)達成されるであろう(ひょっとすると)。(一つの方策として、カルト宗教が用いるといわれている、マインド・コントロールの手法が、唯一有効に思えるのだが、これを行政レベルで行うとしたらどんな方法があるのか、見えてこない。違法でもなく、反社会的でもなく、市民の心をうまくコントロールし、自ら望んでいるように思わせつつ積極的に、所期の目的の実現に沿った行動に向かうようにさせる、そんな方法である。この国の現状は、そこまでのスマートな方法を為政者、そして行政にかかわる者に求めているように思う。そのレベルで考えていかないと、私のようなグズは市民(国民)は動かない。でも、それは、市民自身の責任でもあるのだから、うまくいかなかったとしても、自業自得と納得する他ないのかもしれない。でも、みなさんは、それでいいのかな。)(私の立場)リベラル。(ゆるやかな)リバタリアン。小さな行政を支持(市民の健康など本来、市民各自が考えるべきことで、行政がコントロールできる問題ではないと考えます。いくら行政が、情熱とお金を投入しても、市民個々が、自分の問題としてとらえないかぎり、その効果は常に限定的であると思われます。「生権力」の拡大という方向性は、ある程度の効果はありますが、今後、日本がむかえる人口減の社会においては、この方向における施策は、だんだん実行がむずかしくなるのではないかと考えています。)	(男性、60歳代、スポーツをしていない)
現在はデイサービスに行っており、自分ではそれで良いと思っています。	(男性、70歳以上、スポーツをしていない)
なぜ地方公共団体がそのような取組をするのか、その目的を明示するべき。結局のところ、国や市町村のメリットのためだというのであれば、どんな施策も受け入れられないであろう。そうしたメリットを2次的、副次的なものと位置づけるにしても同様である。地方公共団体主導のスポーツ振興等の限界(不可能性)は、このような理由によるものであろう。	(男性、50歳代、月1回程度)
全てにおいて老化を感じる昨今、足腰筋肉をきたえて健康人生を送りたいと心がけていきます。(原文まま)	(女性、60歳代、週3回以上)

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
例・練成館の弓道場をアーチェリー30m練習場としても曜日分して使用する。日野市の南平体育館が良い例。 ・近隣の自治体ないスポーツを誘致する。エアピストル、ライフルとか？(原文ママ)	(男性、70歳以上、週3回以上)
健康アプリの存在自体は知っていますが、具体的中身は覚えていませんが設問内にあった健康遊具が各公演に設置され、それをコンプリートすると何かポイント的なものがある等あったらやってみたくないかと思いました。仲間と集まってやるスポーツはおっくうで面倒に感じます。思い立った時に1人、2人でやれる場所があればと思います。	(女性、60歳代、スポーツをしていない)
サッカー人口が多いのに野球グラウンドの量より少なすぎる。他の市から比してサッカー場が足りていない。	(男性、70歳以上、週3回以上)
幸い入居している施設(suncity)にプール、ジム 卓球 社交ダンス Golf同好会等が有り、公共施設はほとんど利用していない	(男性、70歳以上、週1~2回)
市民体育館の教室が、曜日固定で週一だと参加しづらい人多いと思うので、1回限りの教室や、行ける時に行く等の回数制などが今より増えたら嬉しいです。	(女性、30歳代、月に2~3回)
一人でも気軽に言って、見て、運動できる所があればいいと思います。 スポーツ見る事好きな人はたくさんいます。 立川市にがんばっていただきたいです。	(女性、60歳代、月に2~3回)
あまりスポーツマンではないのもっぱら自転車で昭和記念公園の中や周辺など散策して自然を楽しんでいる。 よくランニングをしている人を見かけるが感心するばかりです。 このアンケートについてはあまりお役に立てず申し訳ありません。	(男性、30歳代、週1~2回)
気軽に参加出来ないかと考えています。例えば昭和記念公園でウォーキングする等(4回/年)	(男性、70歳以上、毎日)
どんな施設がどこにあるのかわかりません。	(男性、60歳代、毎日)
スポーツをする場所を市内にもっと欲しいです。 体育館のまわりに活気が欲しいです。	(女性、50歳代、週3回以上)
私の場合は妻がママさんバレーボールをやっているのですが、他の人よりは運動できる場があります(自身もやっていたので手伝い程度に)。60才以上になると気楽にやれる(運動)場所がなく、やりたさも非常に難しいです。軽くできるビーチボールバレーなどができる場所があるといいですネ(孫なんかと一緒に)。定期的に家族友人と体育館でバドミントンをしています。	(男性、60歳代、2~3か月に1回程度)
夫が難病で60才(現在78才)から車椅子で、健康会館(高松町)で週2回機具を使ったトレーニングを2年程行い、その後は国立市の障害者スポーツセンターで、体操、機具を使った運動、プールでの歩行など2年程行い65才になって、やっと週1~週2のデイサービスに通いました。障害者スポーツセンターは、とても楽しく色々(卓球など)できましたがとても混んで、駐車がしづらかったことを記憶しています。そのような施設が立川市にもできたら、又は現在ある施設を障害者も利用しやすくなるなど考えていただけたらと思います。 夫は現在、日野市の療養型病院に入り4年半になります。	(女性、70歳以上、週1~2回)
テニスコートの増加(オムニコート)と駐車場を増やしてほしい	(男性、70歳以上、週3回以上)
これまでスポーツを経験したことのない人がスポーツを始められる環境が整ってほしいと思う。スポーツ用品の購入補助等があるとスポーツを始めるハードルが下がると思う	(男性、20歳代、月1回程度)
何もしたくない 主人の障害者のお金がなんで出ないの それで、でも切りつめているのにどうしてですか	(女性、70歳以上、スポーツをしていない)
マラソンコースを作る 5km/10km/20km スポーツ公園の充実(キャッチボールができる)	(女性、60歳代、週3回以上)
三世代が楽しめるスポーツの実施 例としてパークゴルフ等 年齢に関係なく参加して楽しいスポーツがあれば参加したい！	(男性、60歳代、スポーツをしていない)
・大山小のそばに足湯やドッグランが出来るの事。シルバーにとっては早く作ってほしいです。 ・自由に入出入りできる場所 (原文ママ)	(女性、70歳以上、週3回以上)
オリ・パラのみならず、デフリンピックやスペシャルオリンピックスなどの理解促進活動にもっと力を入れてほしい。 特に第100回を迎える「デフリンピック」は、2025年11月にアジア初である東京にて開催が決定しているにもかかわらず、あまり周知されていないようで残念に思う。	(男性、40歳代、2~3か月に1回程度)
運動不足解消目的で、柴崎体育館で時々筋トレをしています。料金や設備の充実度がちょうどいいので、現状維持で運営してもらえると助かります。	(男性、40歳代、月に2~3回)
特に市民体育館の体育館は卓球など種目が決まっておリスペースを使いたいように使いにくいと感じています。 このような意見、要望を気軽に連絡できるサイト(?)などがあると、それが叶う叶わないは別としてもっと多くの人が抱いてる使用しにくさなどが改善しやすくなると思いました。	(女性、20歳代、週1~2回)

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
市の予算や労働力は限られているから、市の支援は健康増進に集中して欲しい。特定の種目や得意な人を伸ばすよりも、市民全員が健康になることを目標に、体育・運動に特化して取り組んで欲しい。 競技、演技、レジャー、ゲームのような活動は、民間や個人に任せればよい。	(男性、60歳代、週3回以上)
広報をよく読んでおりますが、立川市のスポーツ事情など知らないことが多いので、イベントを増やすなどして周知を行うのが良いと思いました。	(女性、30歳代、週3回以上)
もっと、市で色々なスポーツ団体が広く会員募集してくれたらいいと思います。	(女性、40歳代、月に2~3回)
施設が砂川町あたりにできると嬉しいです。	(男性、30歳代、月1回程度)
体力の保持・増進は、健康的な社会生活を送る上で大事ではあるものの、これに予算を投入するのではなく、国家として危機的状況にある少子化対策に予算を充てるべきと考える。 現在でも超高齢化社会である中、国家としてさらに平均寿命を伸ばすような施策を打つことは、国家の破綻を早めるようなものであると考える。	(男性、50歳代、週3回以上)
このアンケートで「運動と連携できるアプリ」が有るらしいことを知ったので、アプリ利用で特典がいっぱい有るなら使ってみたくので広報等で詳しく紹介して欲しい。もう年齢的に激しいスポーツはやる気が無いが、徒歩通勤と仕事でかなり歩き回るのでウォーキング代わりになってと思う。それでどれくらい健康増進になっているのか確認したいので、昔学校でやったような「前屈」「上体そらし」「反復横跳び」「握力測定」「遠投」等を測定するイベントが有ったら参加してみたいです。「身長」「骨密度」も計ってみたい。普段着で、予約無しで、気軽に参加出来るなら嬉しいです。	(女性、50歳代、週3回以上)
昭和記念公園外周を皇居のようなランニングスポットにして欲しい！とにかく特に夏場、夜間に屋外で安心して走れる場所が欲しいです。	(男性、40歳代、週3回以上)
医師からの食事面、良質の睡眠をとるには等の健康講座、そして複数人のインストラクター付きの運動講座(ヨガ等)をセットにして、定期的開催をのぞみます	(男性、50歳代、年1~2回程度未満)
柴崎体育館が老朽化しています。改修をお願いします。	(男性、20歳代、月に2~3回)
定期的に活動できないが、空いている時間だけ運動できる機会や場所がほしい。 高齢により走れなくなった等の理由でスポーツを継続できなくなった人が参加できる機会があると良い。	(女性、40歳代、週1~2回)
陸上競技場を個人にも気軽に使える様に出来たらと思います。	(男性、60歳代、月に2~3回)
公共のスポーツ施設だけでなく民間施設の利用補助などご検討いただきたい。	(男性、60歳代、2~3か月に1回程度)
今もやっているけど、小学生、中学生にプロの方が学校に来るふれあいの場をもう少し増やす。 中学校の運動の部活を充実させるための指導者をつけてスポーツを活発にする。練習試合なども増えると良い。 イベントで他のスポーツ体験出来る場を企画して欲しい。	(女性、40歳代、月に2~3回)
今あるものを活かして誰もがいつでも参加できる環境を整備(例えば玉川上水や記念公園周辺のウォーキング、ランニング等)そして誰もが入手できるPRを。(公の書類を配布するときの封筒にPR広告をのせる等) 難しいスポーツを普及するのではなく外出したついでや通勤通学時に健康につながる支援を市にして欲しい。 高齢者がもっと安全に歩き回れる様に歩道の整備(天王橋周辺は危なすぎる) 商業施設と連携して高齢者が健康のために歩く環境を整える等、歩行者に優しい道路整備をお願いします。	(女性、50歳代、週3回以上)
転勤の都合で、立川に住んでいます。親戚がいるわけでもなく、特段立川の愛着があるわけではないのが実態です。 柴崎体育館が家の近くにあるのは知っていますがあまり使ったことがないです。昭和記念公園は無料エリアでも十分に走ったり、体を動かしたりできる広さがあるのはいいことだと思います。	(男性、20歳代、月に2~3回)
ジム、プールなどの施設はしっかりしていて良いと思いますが、体育館、テニスコートは他の市より圧倒的に足りない、確保しづらいです。 立飛のビーチコート(ビーチバレー)一般が使用できるようになったら市外から人集まりますよ。わざわざ杉並やお台場などに行ってるので。是非働きかけをお願いします。	(男性、40歳代、月に2~3回)
ヨガやピラティスの初心者向け教室に興味があります。	(女性、30歳代、週1~2回)
遊歩道の充実。 公園で手軽にできる運動器具の設置や環境整備。 公共の体育館を増やして球技とか気軽に遊べるようにする。	(女性、60歳代、月に2~3回)
バスケットリングなどが公園に欲しい	(男性、10歳代、週3回以上)

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
数年前に家族で卓球をしようということになり、柴崎体育館に出かけたことがあります。利用料金を支払い館内に入ると、すでに卓球クラブの方たち(大人)が8台ある全ての卓球台を使って練習をしていました。しばらく眺めていましたが、どなたも譲ってくれることはありませんでした。目も合わさらないような状況でしたので、スタッフの方をお願いして1台を空けていただきましたが、明らかに不満そうなお様子でした。 私は中学高校と卓球部に所属していて、こうした市民の施設で練習させていただいたこともあり。そのときは大人数で複数の台を専有することのないよう、例えば我々のほうが先に入場していたとしても必ずお譲りしたものでした。それがスポーツマンシップだと考えていたからです。 市民体育館はみんなの施設です。もちろん、卓球クラブにも使用する権利はあります。ただそうした一部の方たちだけの物にならぬよう、節度をもった利用を促す施策をお願いしたいです。	(男性、50歳代、月に2~3回)
公共体育館の運動器具の種類を詳しく知りたい。またその器具の写真、室内の雰囲気。混雑具合。 器具の利用でおおよそのカロリー消費量を知れたら、更に意欲が湧きそうです。	(女性、40歳代、週1~2回)
私、40代世代になると老後に自分の足で歩いて過ごしたいと思う方が周りに沢山居ますが、きつかけがないと動かない傾向があり、何かきつかけがあればスポーツに取り組むと思います。 自分の身体が今平均と比べてどんなものなのか健康診断ではなく、ちょっと脅迫観念とまでは言いませんが今の状態で過ごすに寝たきりになっちゃいますとか現実を把握させる体力診断的な検診があって、その結果で以後、このような取り組みで動いて下さいみたいな事をスポーツ施設に行き指導してもらえ、尚且つ真面目に参加したら褒美的な物があったら参加する人が増えるかと。 生活習慣病になって医療機関にかかり税金を沢山使われるより、予防で対策する事の方がコストも抑えられるかと思うので個人で健康に取り組める何かあったら良いのかと。 私が動けないのは自分で予約して動いたりとかが苦手なので、リスクがあるのかもしれませんが強制で検診に参加させるようにしないととかじゃないと私と同じ考え方の人は多いのかと。 強制なら嫌でも動きますからね。 強制でも、やったら、やって良かったと思う人の方が増えると思うし、健康になる市民も増えるし、私自身そうして貰えれば動くのかなと。 歳を取ると面倒くさいが先行してしまうので、どんなに行政の方が頑張って取り組んでも動いてくれない、響いてくれない人の方が多いと思うのできつかけ作りが一番大変な事だと思います。 偶然にもアンケートに選ばれた私ですが、私も体力作りに少し前向きに考えたいと思います。	(女性、40歳代、月に2~3回)
高齢者に対する体力増進の施策をどんどん発信してもらいたいです。	(男性、60歳代、月に2~3回)
ウォーキング教室を実施してほしい。	(男性、60歳代、毎日)
金のかからないスポーツ	(男性、60歳代、週1~2回)

4 小中学生向けスポーツに関する意識調査結果

調査目的と実施概要**(1) 調査の目的**

スポーツ基本法第10条の規定に基づく「第3次スポーツ推進計画」を策定するにあたり、市内在学の対象者に対してアンケート調査を行うことにより、スポーツの実施状況やスポーツの環境整備などへの要望・意見を把握し、計画策定の基礎資料とする。

(2) 調査方法

インターネット回答(交換便により調査票を送付し、各校で全児童・生徒に配布されているタブレットPCにて回答)

(3) 調査期間

令和6年6月6日～6月14日

(4) 調査対象・抽出方法

立川市立小・中学校から、以下の学年で児童・生徒を抽出

	対象者	人数
①	小学校5年生	166
②	中学校2年生	164
	合 計	330

(5) 回収率

	対象者	回答人数	回答率
①	立川市立小中学校 小学5年生、中学2年生	241	73.0%

(6) 主な調査内容

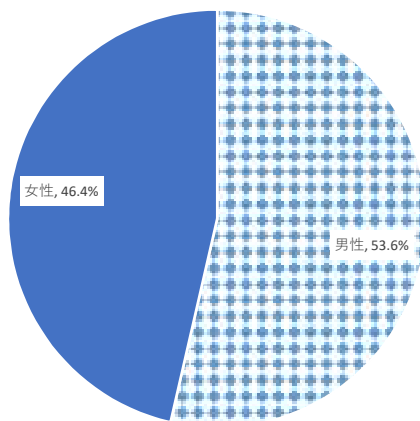
調査項目
■ 回答者の基本属性
■ 運動についての意識
■ スポーツ実施状況
■ 障害者スポーツについて
■ スポーツの観戦状況
■ プロスポーツチームについて

小中学生向け スポーツに関する意識 調査結果

1 回答者の基本属性

性別

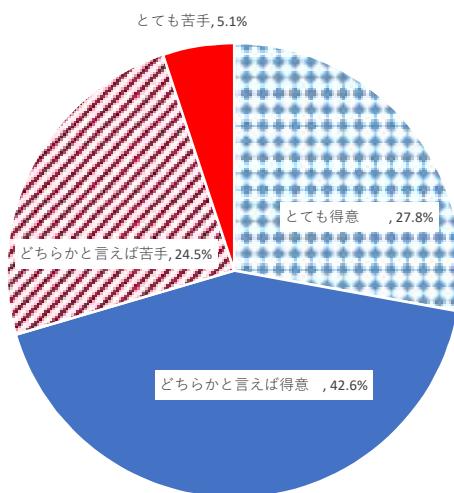
Q1 性別（n=237）（外回答しない4件 以降除く）



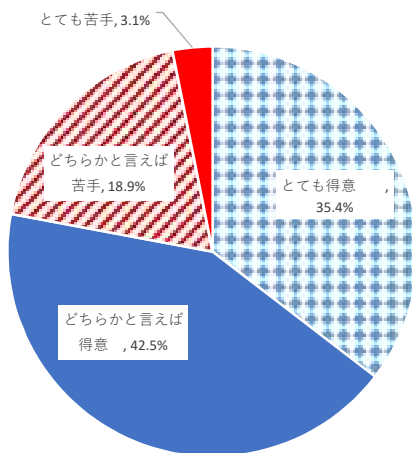
2 運動についての意識

運動は得意か

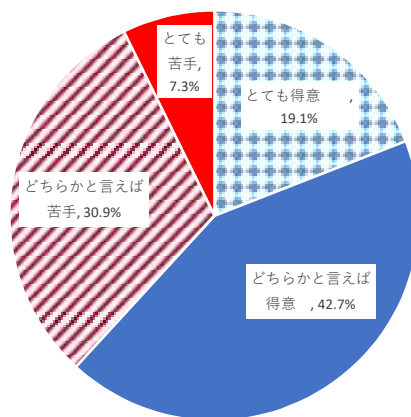
Q2 体を動かすのは得意か（n=237）



Q2 男子（n=127）

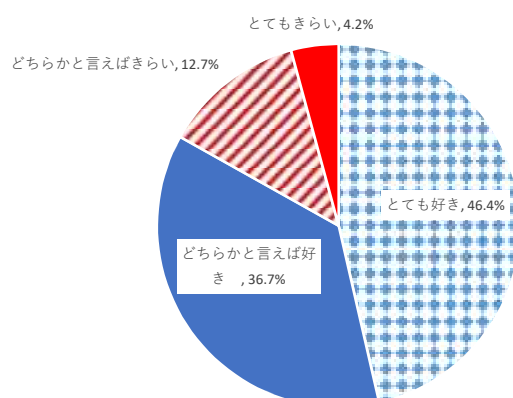


Q2 女子（n=110）

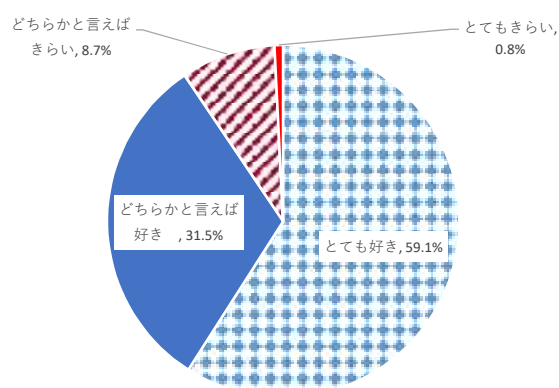


運動は好きか

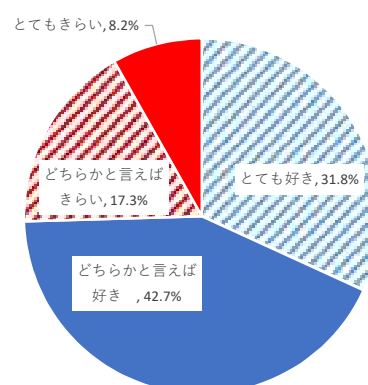
Q3 体を動かすのは好きですか (n=237)



Q3 男子 (n=127)



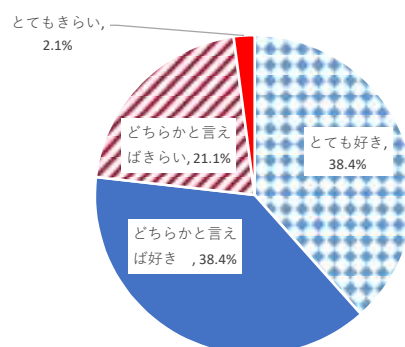
Q3 女子 (n=110)



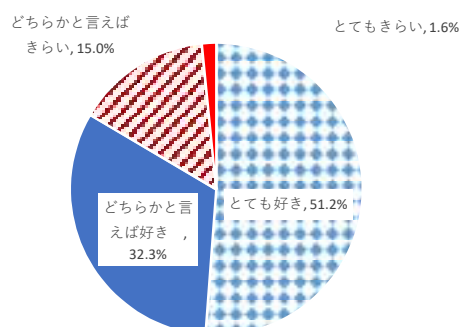
3 スポーツに対する意識や実施状況について

スポーツを見るのは好きか

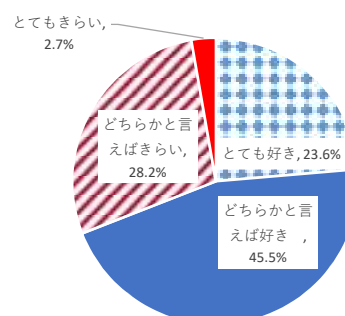
Q4 スポーツを見るのは好きか (n=237)



Q4 男子 (n=127)

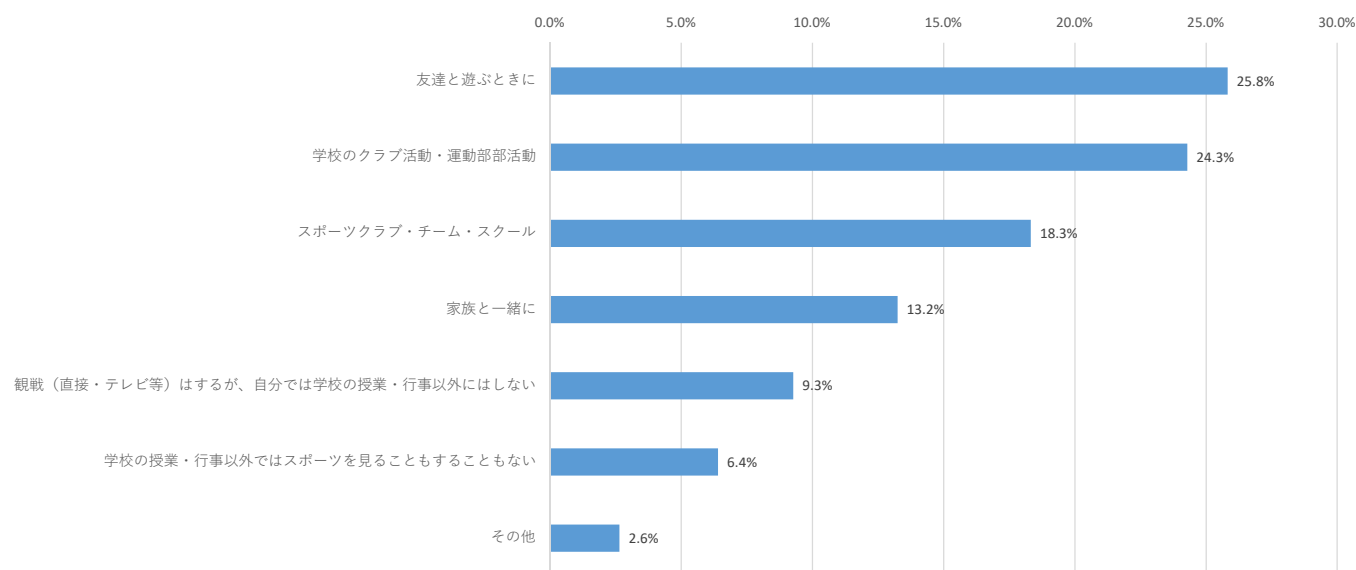


Q4 女子 (n=110)



学校以外でのスポーツ実施状況

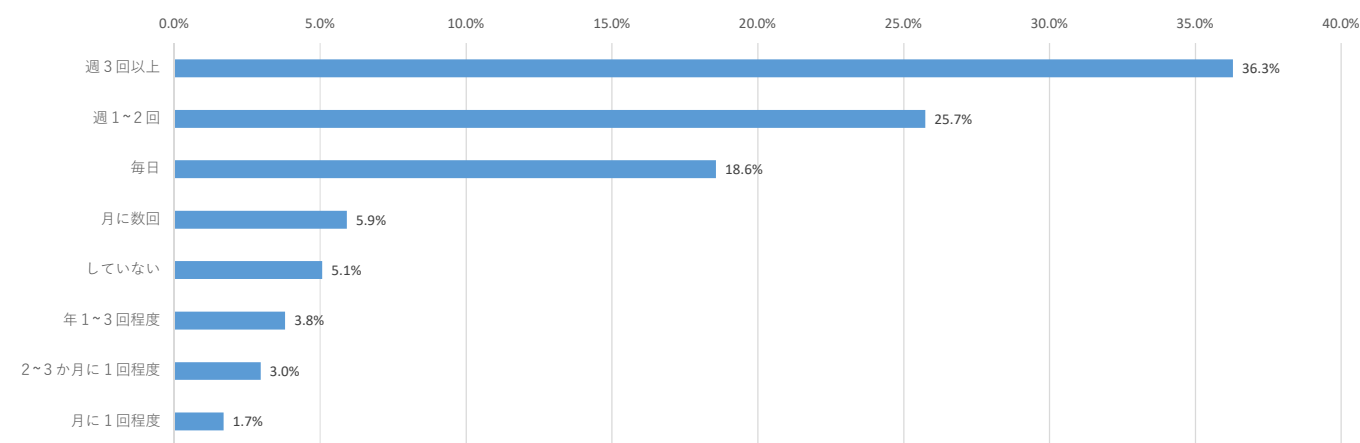
Q5 学校の授業や行事以外でどのようにスポーツを行っているか(n=237) (複数回答)



	男子 (n=127)	女子 (n=110)
友達と遊ぶときに	25.7%	25.9%
学校のクラブ活動・運動部活動	27.6%	19.5%
スポーツクラブ・チーム・スクール	19.8%	16.2%
家族と一緒に	12.3%	14.6%
観戦(直接・テレビ等)はするが、自分では学校の授業・行事以外にはしない	8.6%	10.3%
学校の授業・行事以外ではスポーツを見ることもすることもない	4.5%	9.2%
その他	1.5%	4.3%

スポーツの実施頻度

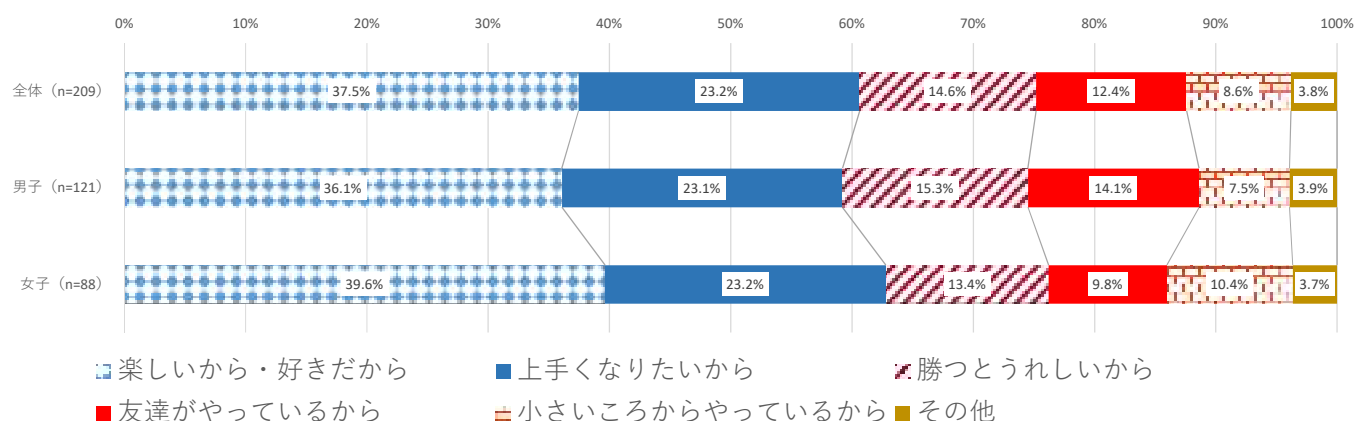
Q6 あなたは昨年、学校の授業や行事以外でどれくらいスポーツをしたか (n=237)



	男子 (n=127)	女子 (n=110)
週3回以上	42.5%	29.1%
週1~2回	22.8%	29.1%
毎日	26.0%	10.0%
月に数回	3.9%	8.2%
していない	2.4%	8.2%
年1~3回程度	2.4%	5.5%
2~3か月に1回程度	0.0%	6.4%
月に1回程度	0.0%	3.6%

月1回程度以上スポーツした人の実施した理由

Q7 Q6で月1回程度以上スポーツをした人にお聞きします。あなたがスポーツをした理由はなんですか
(複数選択可)

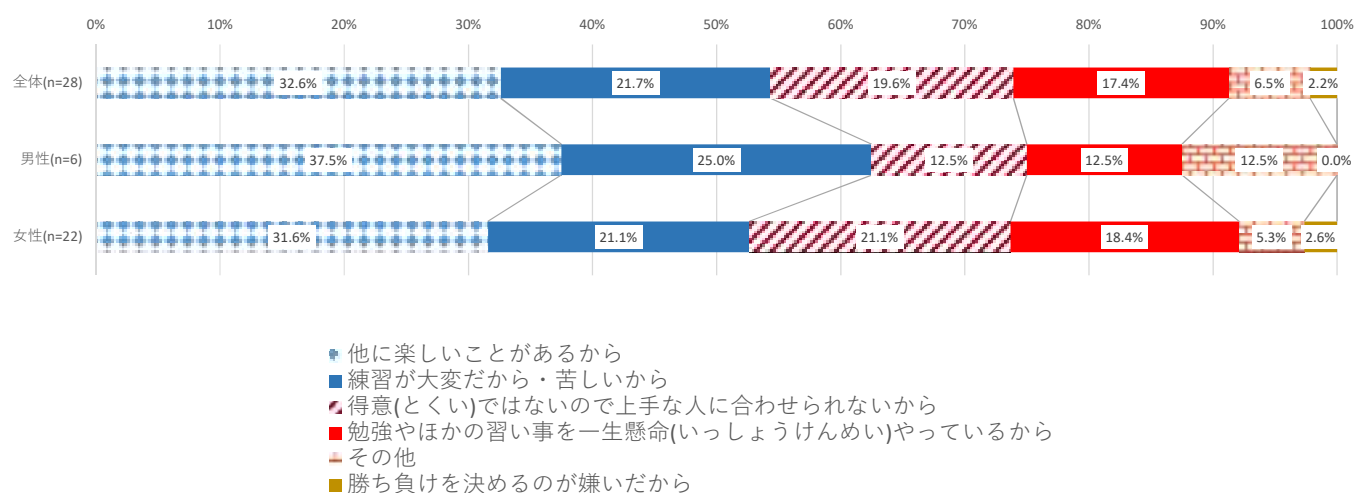


スポーツをした理由その他

友達に誘われた
 部活動だから
 将来に関わるから
 たまにはやらないと感じたから
 親が私を外に連れて行ったから。
 苦手だから
 父母兄弟姉妹がやっていたから
 なんとなく
 親に勧められた
 習い事
 興味を持って親に教えてもらったから。
 暇だから
 痩せるため

月1回程度未満でスポーツしなかった人の理由

Q8 Q6で月1回程度より少なかった人にお聞きします。あなたがスポーツをあまりしなかった理由はなんですか (複数選択可)



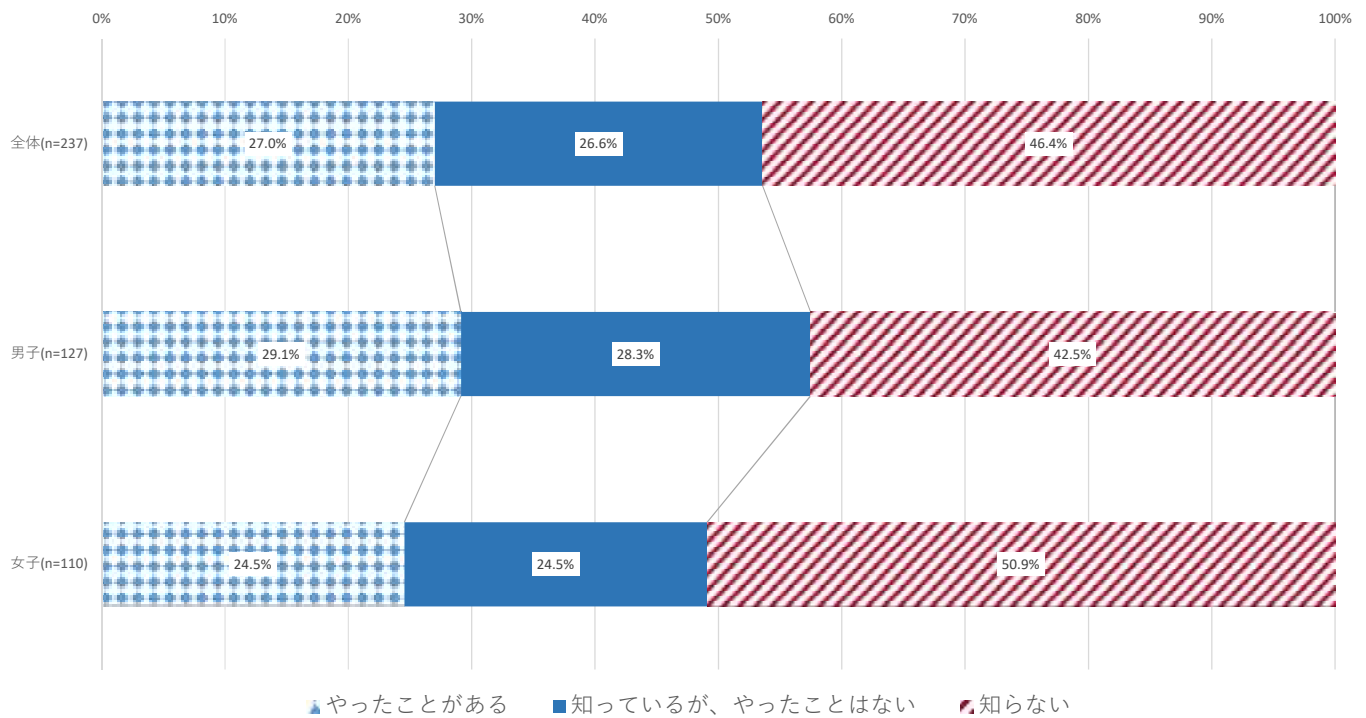
スポーツをあまりしなかった理由その他

いじめによって学校に登校することが難しかったから。
 やる時間がなかったから

4 ニューススポーツや障害者スポーツの認知度について

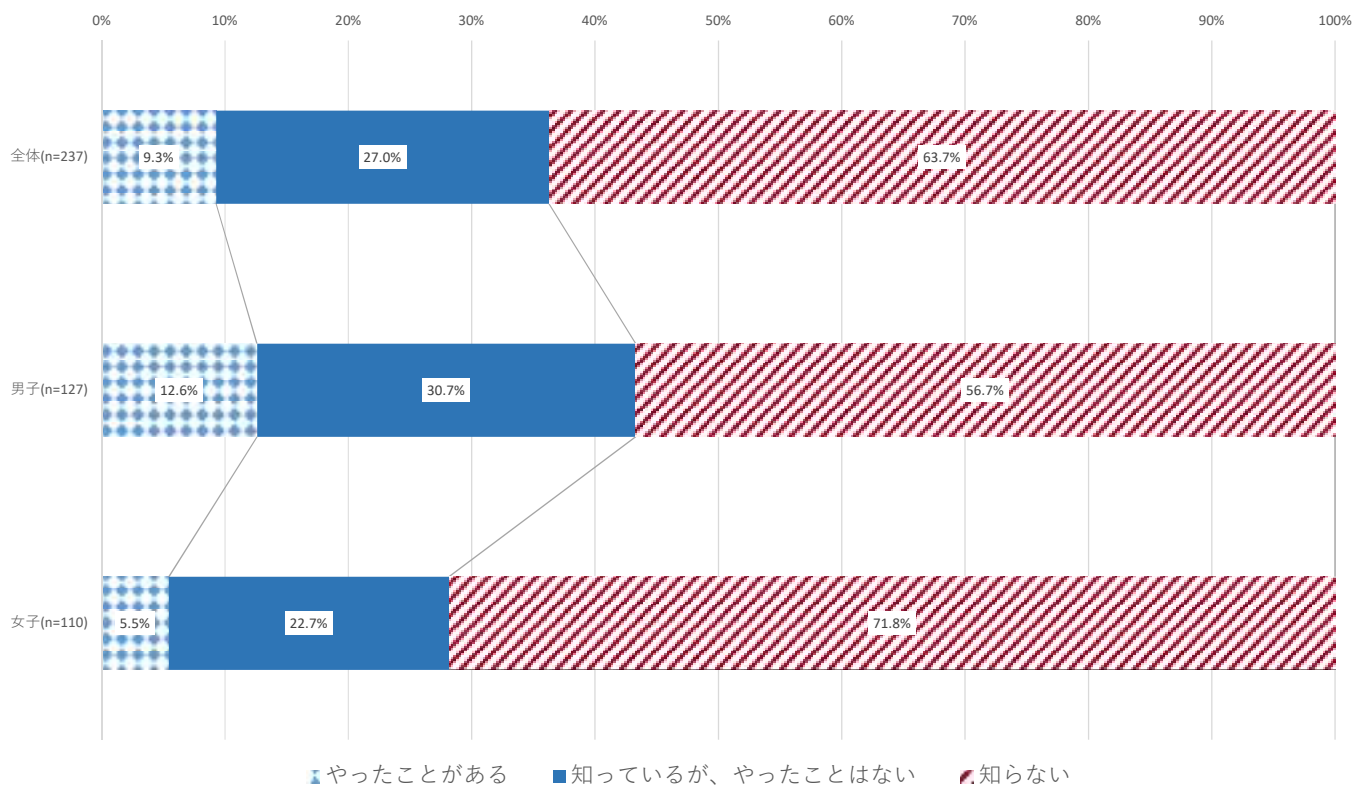
ボッチャについて

Q9 ボッチャをやったことがあるか



モルックについて

Q9 モルックをやったことがあるか

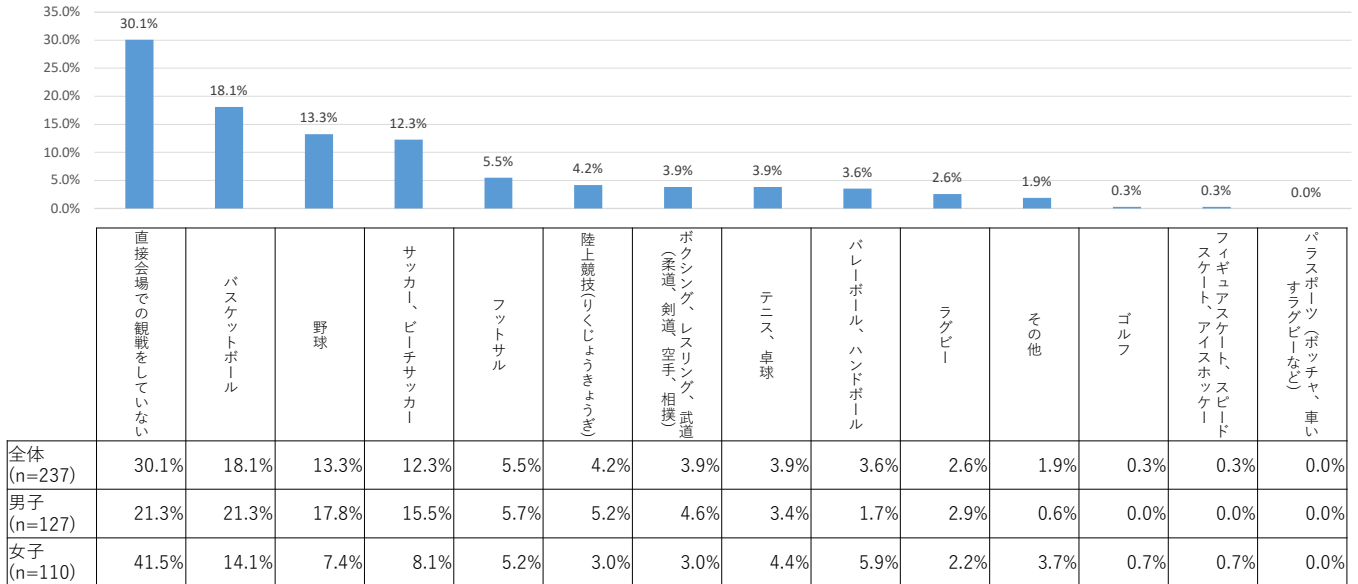


5 スポーツの観戦について

どのスポーツを直接観戦したか

Q10 あなたは昨年、どんなスポーツを直接会場で観戦しましたか

(n=237) (複数選択可)



どんなスポーツを直接会場で観戦したかその他

バドミントン

水泳

体操

新体操

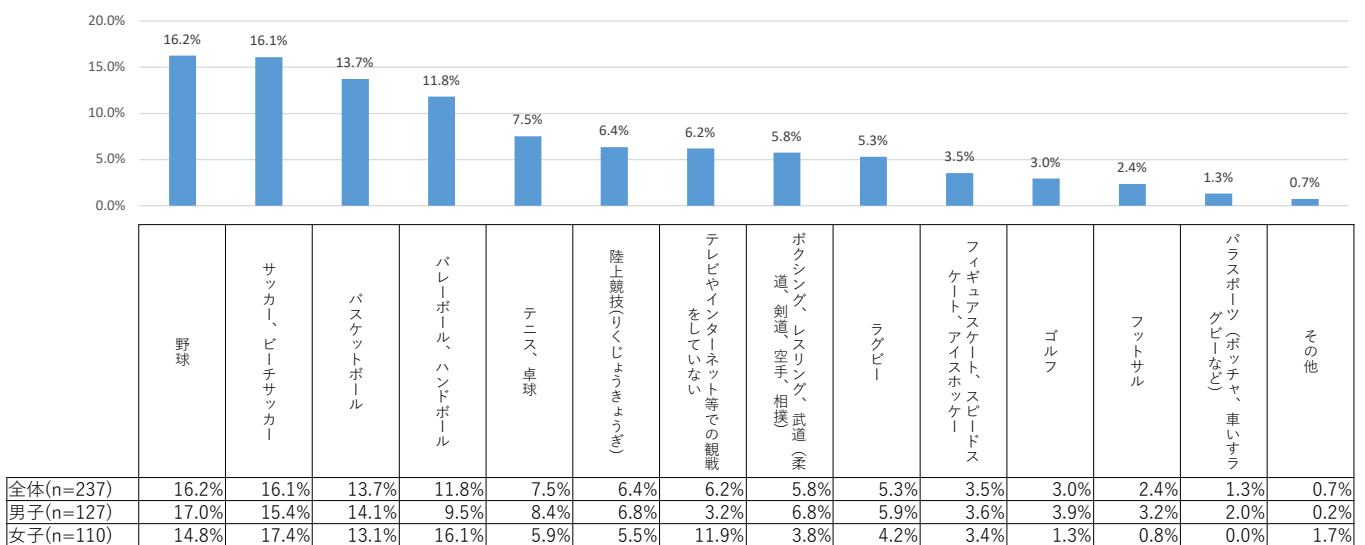
BMX

スケボー

どのスポーツをテレビ等で観戦したか

Q11 あなたは昨年、どんなスポーツをテレビやインターネット等で観戦しましたか(n=237) (複数

選択可)



どんなスポーツをテレビやインターネット等で観戦したかその他

水泳

スケートボード

sasuke

バドミントン

競馬

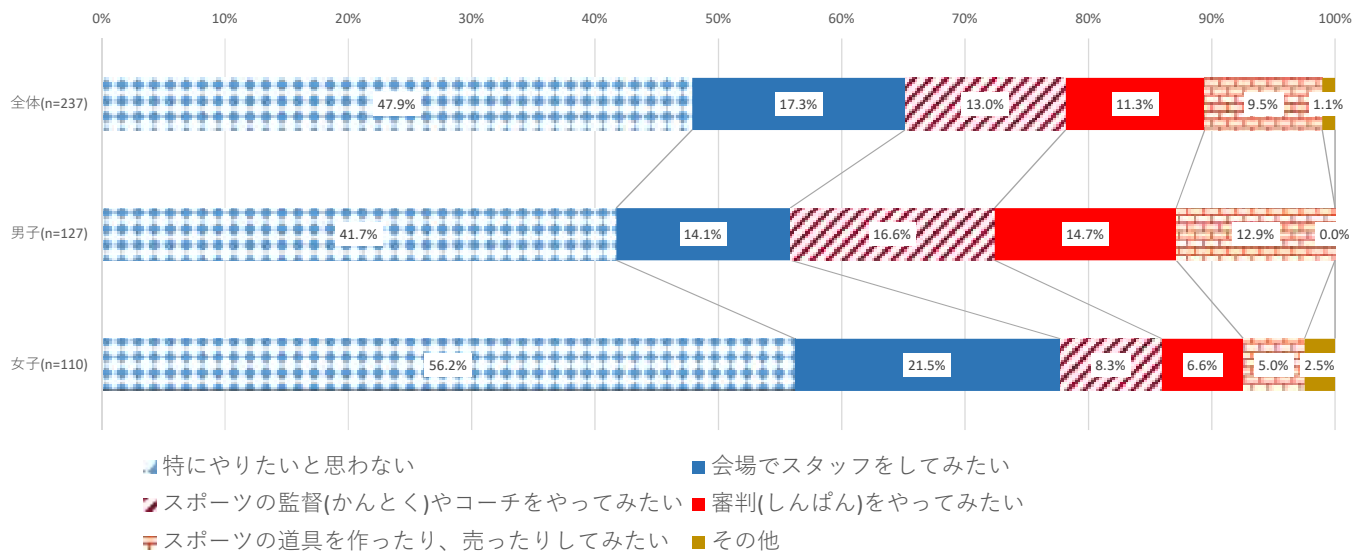
体操

新体操

6 スポーツとの関わりについての意識について

プレイヤー以外でどのように関わりたいか

Q12 あなたはプレイヤー以外でもスポーツに関わってみたいと思いますか（複数選択可）



プレイヤー以外でもスポーツに関わってみたいと思いますかその他

応援したい

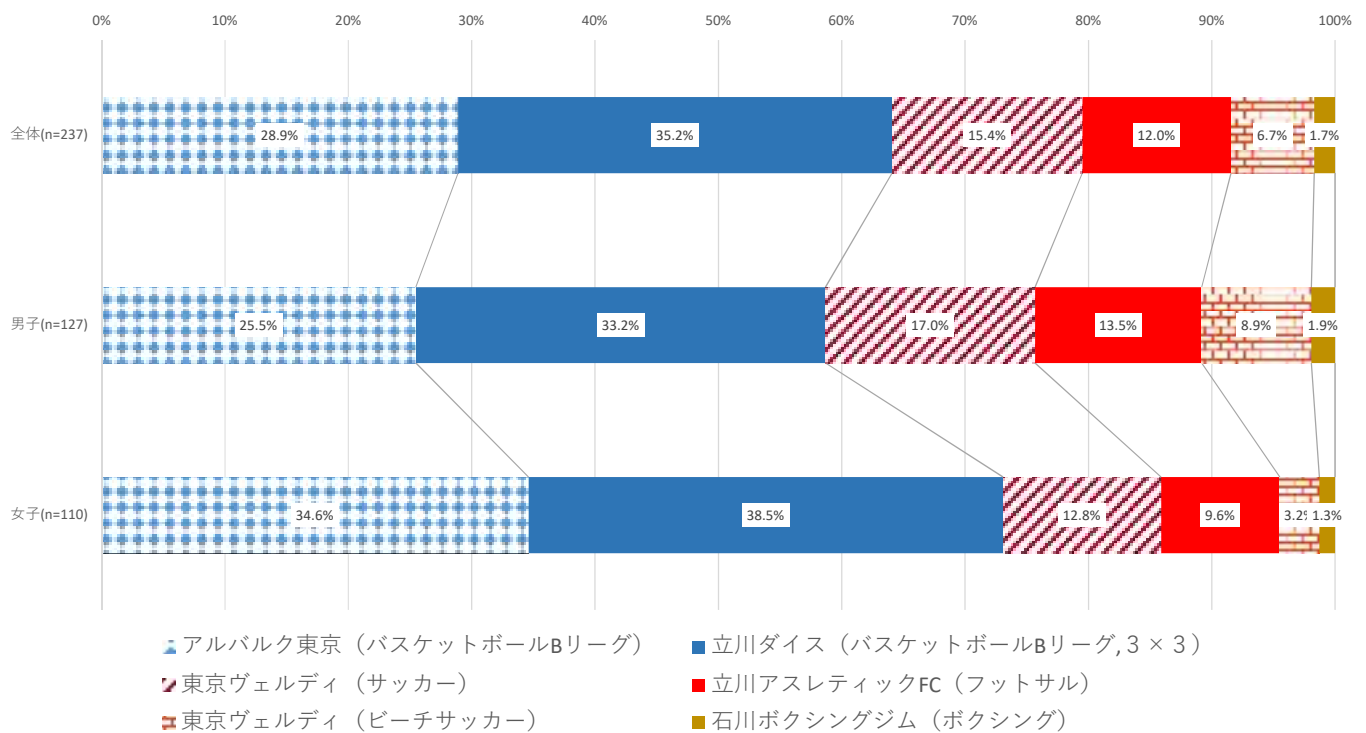
セキュリティカメラの監視役をしたい

スケボーの先生になりたい

7 プロスポーツチームの認知度について

立川市を中心に活動しているプロスポーツを知っているか

Q13 立川市を中心に活動しているプロスポーツチームを知っていますか（複数選択可）



令和7年4月1日現在

市民体育館

施設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
泉	第1体育室	40,610	92,681	120,712
	第2体育室	17,177	34,734	44,957
	トレーニング室	15,080	29,144	38,233
	室内水泳場	14,893	42,171	45,763
	研修室・会議室	1,945	4,980	5,368
	スタジオ	5,481	11,451	14,090
	ボルダリング	0	1,205	1,560
小計		95,186	216,366	270,683
柴崎	第1体育室	32,594	55,132	63,331
	第2体育室	9,506	12,635	13,212
	トレーニング室	15,608	24,645	31,203
	室内水泳場	38,446	49,114	54,631
	研修室・会議室	418	423	716
	スタジオ・ダンススペース	96	4,723	9,078
小計		96,668	146,672	172,171

陸上競技場

施設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
立川公園	400mトラック	6,469	8,149	2,788
見影橋		5,309	5,041	5,478
小計		11,778	13,190	8,266

野球場

施設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
コトブキヤスタジアム	1面 ナイター	8,286	6,146	21,327
見影橋公園	1面 ナイター	16,246	13,448	13,101
多摩川緑地	4面	36,325	32,872	32,393
新堤防	1面	7,414	9,414	6,945
中里	2面	16,497	13,351	15,884
泉町	1面 ナイター	12,497	14,062	13,664
一番町	1面	7,843	9,053	8,502
砂川中央北	1面	19,910	21,709	23,937
砂川中央東	2面	26,156	26,867	25,982
小計		151,174	146,922	161,735

庭球場

施設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
明治安田TACHIKAWAフィールド	全天候型4面 ナター	23,566	25,526	26,637
西砂	クレ－(土)2面	5,152	4,763	4,080
泉町	全天候型4面 ナター	30,267	27,680	33,923
砂川中央	クレ－(土)4面	16,536	14,952	12,504
自治大学校	全天候型4面	1,966	1,741	1,884
小計		77,487	74,662	79,028

ゲートボール場

施設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
泉町	2面	5,811	4,690	3,633
砂川中央	2面	6,154	4,160	4,133
砂川中央東	2面	0	0	210
小計		11,965	8,850	7,976

武道場

施設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
練成館	剣道・柔道・弓道・相撲	28,031	16,045	34,713

多目的運動場

施設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
中里		13,646	7,491	7,323
砂川中央北		21,105	25,205	24,315
砂川中央		11,772	10,656	10,441
多摩川緑地		5,410	5,955	16,990
新堤防		2,198	2,209	2,452
自治大学校		4,276	5,115	6,323
小計		58,407	56,631	67,844

フットサル場

施設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
明治安田TACHIKAWAフィールド	2面 ナター	7,730	6,717	9,187

立川市スポーツ施設連絡先一覧

令和7年4月1日現在

種別	施設名	施設の内容	住所	電話番号/FAX
体育館	泉市民体育館	通年開館 毎月第2・4木曜休館 第1・2体育室 トレーニング室 プール 午前9時～午後11時	泉町786-11	536-6711 537-8220
	柴崎市民体育館	通年開館 毎月第1・3月曜休館 第1・2体育室 トレーニング室 プール 午前9時～午後10時	柴崎町6-15-9	523-5770 525-7364
陸上競技場	立川公園陸上競技場	通年開場 1面 午前9時～午後5時	錦町6-29-62	522-7250 同上
野球場	多摩川緑地野球場	通年開場 3面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	柴崎町5-11先	527-6836 同上
	立川公園新堤防運動広場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	錦町5-20	527-9321 同上
	コトブキヤスタジアム（立川公園野球場）	4～12月・3月開場 1面 午前9時～午後9時 「11月・12月・3月は 午前10時～午後4時」	錦町6-29-62	523-0825 なし
	泉町野球場	通年開場 1面 午前9時～午後9時 「11月～2月は 午前9時～午後5時」	泉町786-13	535-7371 同上
	砂川中央地区北野球場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町5-25-1	534-3899 同上
	見影橋公園野球場（陸上競技場兼用）	通年開場 1面 午前9時～午後9時 「11月～2月は 午前9時～午後5時」	砂川町3-12-1	537-2695 同上
	一番町少年野球場	4～11月開場 1面 午前9時～午後5時 「11月は 午前10時～午後4時」	一番町6-17	531-5936 同上
	中里野球場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	西砂町3-47	531-5733 なし
	砂川中央地区東野球場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町1-27-1	534-3899 同上
多目的運動広場	中里多目的運動広場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	西砂町3-47	531-5733 なし
	砂川中央地区北多目的運動広場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町5-12-1	534-3899 同上
	砂川中央地区多目的運動広場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町1-54-1	536-6684 同上
	明治安田TACHIKAWAフィールド（フットサル場） （火・水・木夜間、第1・3・5土曜、第2・4日曜）	通年開場 2面 午前9時～午後9時 砂入人工芝	錦町5-20	527-9321 同上
	自治大学校多目的運動広場	3月～12月 日曜日のみ開場 1面 午前9時～午後5時 天然芝	緑町10-1	540-4500 なし
庭球場	泉町庭球場	通年開場 4面 午前9時～午後9時 砂入人工芝	泉町786-7	534-0264 同上
	西砂庭球場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	西砂町3-68	531-0878 同上
	砂川中央地区庭球場	通年開場 4面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町1-41-5	536-6684 同上
	明治安田TACHIKAWAフィールド（庭球場） （火・水・木昼間、月・金、第2・4土曜、第1・3・5日曜）	通年開場 4面 午前9時～午後9時 砂入人工芝	錦町5-20	527-9321 同上
	自治大学校庭球場(団体利用2区分)	土曜日のみ 通年開場 4面 午前9時～午後5時 砂入人工芝	緑町10-1	540-4500 なし
ゲートボール場	泉町ゲートボール場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	泉町786-7	534-0264 同上
	砂川中央地区ゲートボール場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」 1面人工芝	砂川町1-42-6	536-6684 同上
	砂川中央地区東ゲートボール場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町1-61-4	534-3899 同上
武道場	練成館	通年開館 剣道場2 柔道場 弓道場 相撲場 午前9時～午後9時30分	柴崎町1-5-7	526-2219 同上
スケートパーク	たちかわ中央公園スケートパーク	通年開場 午前9時～午後9時 ※中学生以下は 午後6時まで	緑町105-3	

5 スポーツ施設の利用状況(小・中学校)

スポーツ団体利用

施 設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
第一小学校	校 庭	5,964	4,615	5,167
	体育館	3,255	3,407	4,298
第二小学校	校 庭	6,206	6,517	8,637
	体育館	6,781	6,659	6,043
第三小学校	校 庭	7,731	8,449	9,108
	体育館	6,149	6,480	5,212
第四小学校	校 庭	3,101	5,621	7,524
	体育館	3,911	6,379	6,744
第五小学校	校 庭	5,162	4,866	4,765
	体育館	4,816	6,990	7,765
第六小学校	校 庭	6,691	9,553	11,028
	体育館	3,679	5,758	6,554
第七小学校	校 庭	4,625	3,930	2,965
	体育館	3,741	2,963	3,450
第八小学校	校 庭	7,898	10,162	11,460
	体育館	7,104	7,483	7,164
第九小学校	校 庭	7,630	8,058	10,444
	体育館	7,289	9,310	9,781
第十小学校	校 庭	1,928	3,098	4,985
	体育館	1,454	3,297	5,626
西砂小学校	校 庭	11,974	11,035	11,799
	体育館	4,707	6,151	6,334
南砂小学校	校 庭	4,298	3,543	2,781
	体育館	2,744	3,621	4,581
幸小学校	校 庭	6,615	7,403	8,301
	体育館	7,214	8,317	8,118
松中小学校	校 庭	4,019	5,481	7,987
	体育館	3,987	5,274	8,207
大山小学校	校 庭	10,340	11,743	1,762
	体育館	2,395	1,724	296
柏小学校	校 庭	5,026	4,787	8,214
	体育館	5,032	4,430	4,502
上砂川小学校	校 庭	1,887	2,239	3,214
	体育館	6,606	7,846	9,278
新生小学校	校 庭	1,034	1,169	1,346
	体育館	9,828	8,891	10,985
若葉台小学校	校 庭	5,693	5,058	5,852
	体育館	8,861	9,346	9,909

立川第一中学校	校 庭	1,179	1,115	2,396
	体育館	4,593	6,083	7,447
立川第二中学校	校 庭	2,851	2,884	4,562
	体育館	2,543	2,451	3,482
立川第三中学校	校 庭	3,666	3,946	3,566
	体育館	3,413	3,635	3,949
立川第四中学校	校 庭	10,987	12,033	13,251
	体育館	4,085	4,511	5,979
立川第五中学校	校 庭	2,494	2,797	3,678
	体育館	2,387	1,803	4,218
立川第六中学校	校 庭	4,028	5,775	6,186
	体育館	2,475	2,532	2,836
立川第七中学校	校 庭	609	116	0
	体育館	3,271	2,088	427
立川第八中学校	校 庭	3,248	2,207	2,567
	体育館	4,804	5,451	5,988
立川第九中学校	校 庭	1,554	1,747	3,546
	体育館	3,876	4,662	5,965
小計	校 庭	138,438	149,947	167,091
	体育館	131,000	147,542	165,138

※若葉台小学校は、新校舎移転作業等のため、令和3年5月まで校庭・体育館ともに利用を休止

※第四小学校は、中規模改修工事のため、令和3年9月まで校庭・体育館ともに利用を休止

※第十小学校は、中規模改修工事のため、令和3年8月から令和4年2月まで校庭・体育館ともに利用を休止

※立川第七中学校は、体育館火災のため、令和4年7月から令和5年12月まで校庭・体育館ともに利用を休止

※大山小学校は、中規模改修工事のため、令和5年6月から令和6年3月まで校庭・体育館ともに利用を休止

小学校遊び場開放利用

施 設	施設内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人数	人数	人数
第一小学校	校 庭	5,311	5,839	6,009
	体育館	0	0	0
第二小学校	校 庭	1,023	1,751	2,275
	体育館	0	0	32
第三小学校	校 庭	1,260	1,873	2,003
	体育館	35	94	103
第四小学校	校 庭	583	944	1,428
	体育館	0	9	61
第五小学校	校 庭	2,893	1,651	1,793
	体育館	0	0	0
第六小学校	校 庭	755	1,124	1,232
	体育館	26	2	25
第七小学校	校 庭	1,483	844	1,158
	体育館	30	60	188
第八小学校	校 庭	5,421	7,419	5,693
	体育館	0	0	0
第九小学校	校 庭	4,639	3,868	5,354
	体育館	0	0	0
第十小学校	校 庭	1,217	2,083	2,106
	体育館	18	141	304
西砂小学校	校 庭	1,081	1,107	852
	体育館	3	0	0
南砂小学校	校 庭	2,023	3,988	4,419
	体育館	0	0	0
幸小学校	校 庭	1,947	1,822	4,607
	体育館	25	297	174
松中小学校	校 庭	127	66	85
	体育館	0	0	0
大山小学校	校 庭	3,792	4,797	1,002
	体育館	169	102	0
柏小学校	校 庭	502	924	757
	体育館	10	0	6
上砂川小学校	校 庭	4,845	1,516	1,208
	体育館	9	0	0
新生小学校	校 庭	982	1,155	1,160
	体育館	52	4	16
若葉台小学校	校 庭	1,917	1,453	1,842
	体育館	0	0	0
小計	校 庭	36,380	36,805	39,290
	体育館	5,798	8,128	6,602

※若葉台小学校は、新校舎移転作業等のため、令和3年5月まで校庭の利用を休止

※第四小学校は、中規模改修工事のため、令和3年9月まで校庭の利用を休止

※第十小学校は、中規模改修工事のため、令和3年8月から令和4年2月まで校庭の利用を休止

※立川第七中学校は、体育館火災のため、令和4年7月から令和5年12月まで校庭の利用を休止

※大山小学校は、中規模改修工事のため、令和5年6月から令和6年3月まで校庭の利用を休止

6 スポーツ事業の実績

子どものスポーツの推進

子ども対象のスポーツ事業の開催

(延べ参加者数)

事業名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市民体育館における各種教室	4,562	11,532	13,912
ソフトテニス教室	141	130	95
ジュニア体力競技力向上事業	2,153	-	-
小学生クラブ交流大会	358	681	902
なわとび検定会	21	665	602
小学生姿勢教室	33組71名	37組80名	48組102名
泉市民体育館まつり	672	1,447	1,572
なわとびチャンピオン大会	中止	175	141
立川シティハーフマラソン(立川市民小中学生) ファンラン3kmの部/親子ペアの部/1マイル	611	703	1,132
合 計	8,589	15,413	18,458

※立川シティハーフマラソン1マイルレースは、令和5年度からの新規種目

成人や子育て世代のスポーツの推進

各種スポーツ関連教室、イベントの開催

(延べ参加者数)

事業名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
体力年齢測定会	中止	36	36
市民あるけあるけ運動	106	244	91
ラジオ体操・みんなの体操会	60	-	-
ラジオ体操講習会	27	27	26
成人対象事業「ママビクス&ベビーマッサージ」	90人(6日間)	46人(6日間)	66人(6日間)
合 計	283	353	219

※ラジオ体操・みんなの体操会は令和3年度で終了

高齢者のスポーツの推進

高齢者対象スポーツ事業の開催

(延べ参加者数)

事業名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市民あるけあるけ運動(再掲)	106	244	91
体力アップ体操教室	192	121	91
体力年齢測定会(再掲)	中止	36	36
ラジオ体操・みんなの体操会(再掲)	60	-	-
ラジオ体操講習会(再掲)	27	27	26
スポレクフェスタ	1,149	1,347	1,386
保健講座「やさしいヨガ教室」	112	100	158
保健講座「いきいき体操！」	32	24	-
保健講座「やさしい太極拳」	41	62	-
一般介護予防事業「地域体操クラブ」	6クラス28名	6クラス28名	6クラス39名
一般介護予防事業「健康体操応援リーダー等派遣事業	7団体280名	7団体280名	8団体246名

高齢者対象事業「寿教室」	9教室6,595名	9教室8,361名	9教室7,642名
シルバー大学「社交ダンス」	978	838	513
シルバー大学「ターゲットバードゴルフ」	127	202	187
シルバー大学「健康吹矢」	190	259	197
シルバー大学「ゲートボール」	213	62	-
シルバー大学「モルック」	-	272	321
シルバー大学「ストレッチ」	-	-	213
保健講座「東京大会を終えて ～これからのスポーツイベントの楽しみ方～」	17	-	-
保健講座「リズム気功」	26	-	-
保健講座「北欧生まれのニュースポーツ モルック」	34	67	-
保健講座「きれいに歩くストレッチ」	-	31	-
保健講座「はじめての椅子タップダンス」	-	-	63
保健講座「無理なく楽しむ！はじめての椅子ヨガ」	-	-	60
保健講座「はじめてのフラダンス」	-	-	89
保健講座「体をほぐそう」	-	-	46
保健講座「ポール de ウォーク」	-	-	18
合 計	10,207	12,361	11,422

障害者のスポーツの推進

障害者スポーツ教室、イベントの開催

(延べ参加者数)

事業名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ブラインドサッカー体験会	中止	-	-
障害者スポーツ研修会(スポーツ推進委員主催)	中止	2	13
ハンディ水泳教室	中止	3	6
チャレンジスポーツ教室(シンコー指定管理+ヴェルディ)	225	156	177
障害者スポーツイベント (アクアフェスティバル、ボッチャ(体協)、シンコーブラインドサッカー)	103	94	108
障害者スポーツ大会	中止	中止	中止
合 計	328	255	304

ボッチャ用具の貸出

内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ボールセット	26	66	62
ランプ	1	0	0

地域スポーツクラブの支援

地域スポーツ教室の開催

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延べ参加者数	5,636	5,791	4,806

地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進

競技スポーツの振興事業

(延べ参加者数)

事業名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市民体育大会	5,936	10,513	13,422
アスリートスポーツ教室	121	-	-
泉市民体育館まつり(再掲)	672	1,447	1,572
都民体育大会	5	260	358
スポーツフェスティバル東京(旧:都民生涯スポーツ大会)	41	155	195
合 計	6,775	12,375	15,547

競技団体補助金

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
補助対象の団体数	6	17	20

ニュースポーツによるスポーツの推進

ニュースポーツ振興事業

(延べ参加者数)

事業名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ニュースポーツ体験会	中止	46	38
合 計	0	46	38

立川シティハーフマラソンの推進

立川シティハーフマラソン

(参加者数)

種目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ハーフマラソン(一般)	4,159	4,560	4,671
ハーフマラソン(学生)	499	929	865
3kmの部	854	907	313
親子ペアの部	490	514	734
10kmの部	393	776	841
1マイルの部	-	-	637
車いすレース	6	-	-
合 計	6,401	7,686	8,061

※立川シティハーフマラソン1マイルレースは、令和5年度からの新規種目

※立川シティハーフマラソン車いすレースは、令和3年度で終了

健康づくり事業の推進

健康づくり事業の開催

(延べ参加者数)

事業名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
体力年齢測定会(再掲)	中止	36	36
体力アップ体操教室(再掲)	192	121	91
小学生姿勢教室(再掲)	33組71名	37組80名	48組102名
地域参加型機能訓練「ラフ&タフ体操教室」	561	680	876
合 計	824	917	1,105

オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進

オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする事業やイベント

(延べ参加者数)

事業名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
アスリートスポーツ教室(再掲)	121	-	-
泉市民体育館まつり(再掲)	672	1,447	1,572
ニュースポーツ体験会(再掲)	中止	46	38
ブラインドサッカー体験会(再掲)	中止	-	-
障害者スポーツ研修会(再掲)	中止	2	13
チャレンジスポーツ教室(再掲)	225	156	177
障害者スポーツイベント(再掲)	103	94	108
ジャパン近代3種シリーズ立川大会 (近代2種・市民枠参加)	44	14	-
第10回近代3種日本選手権大会兼 第17回JOCジュニアオリンピックカップ (近代3種・市民枠参加)	4	2	-
レーザーラン大会in立川(R5のみ) (近代2種・市民枠参加)	-	-	19
合 計	1,169	1,761	1,927

※ジャパン近代3種シリーズ立川大会は、令和4年度で終了

7 立川市スポーツ推進審議会条例

○立川市スポーツ推進審議会条例

昭和 54 年 3 月 31 日条例第 7 号

改正

平成 23 年 10 月 7 日条例第 10 号

平成 27 年 3 月 20 日条例第 8 号

立川市スポーツ推進審議会条例

(設置)

第 1 条 スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 31 条の規定に基づき、立川市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(組織)

第 2 条 審議会は、市長が任命する委員 15 人以内をもって組織する。

(委員の任期)

第 3 条 委員の任期は、2 年とし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第 4 条 審議会に会長及び副会長各 1 人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、審議회를代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、当該職務を代理する。

(会議)

第 5 条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の定数の過半数の者が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第 6 条 審議会に部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、委員の互選によって定める。

3 部会に部会長を置き、部会の委員のうちから互選によって定める。

(委任)

第 7 条 この条例の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成 23 年 10 月 7 日条例第 10 号）

1 この条例は、公布の日から施行する。

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の立川市スポーツ振興審議会条例に基づき任命されている立川市スポーツ振興審議会の委員は、その任期が終了するまでの間は、改正後の立川市スポーツ推進審議会条例第 2 条の規定により任命された立川市スポーツ推進審議会の委員とみなす。

附 則（平成 27 年 3 月 20 日条例第 8 号）

この条例は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

令和6年度立川市スポーツ推進審議会委員名簿

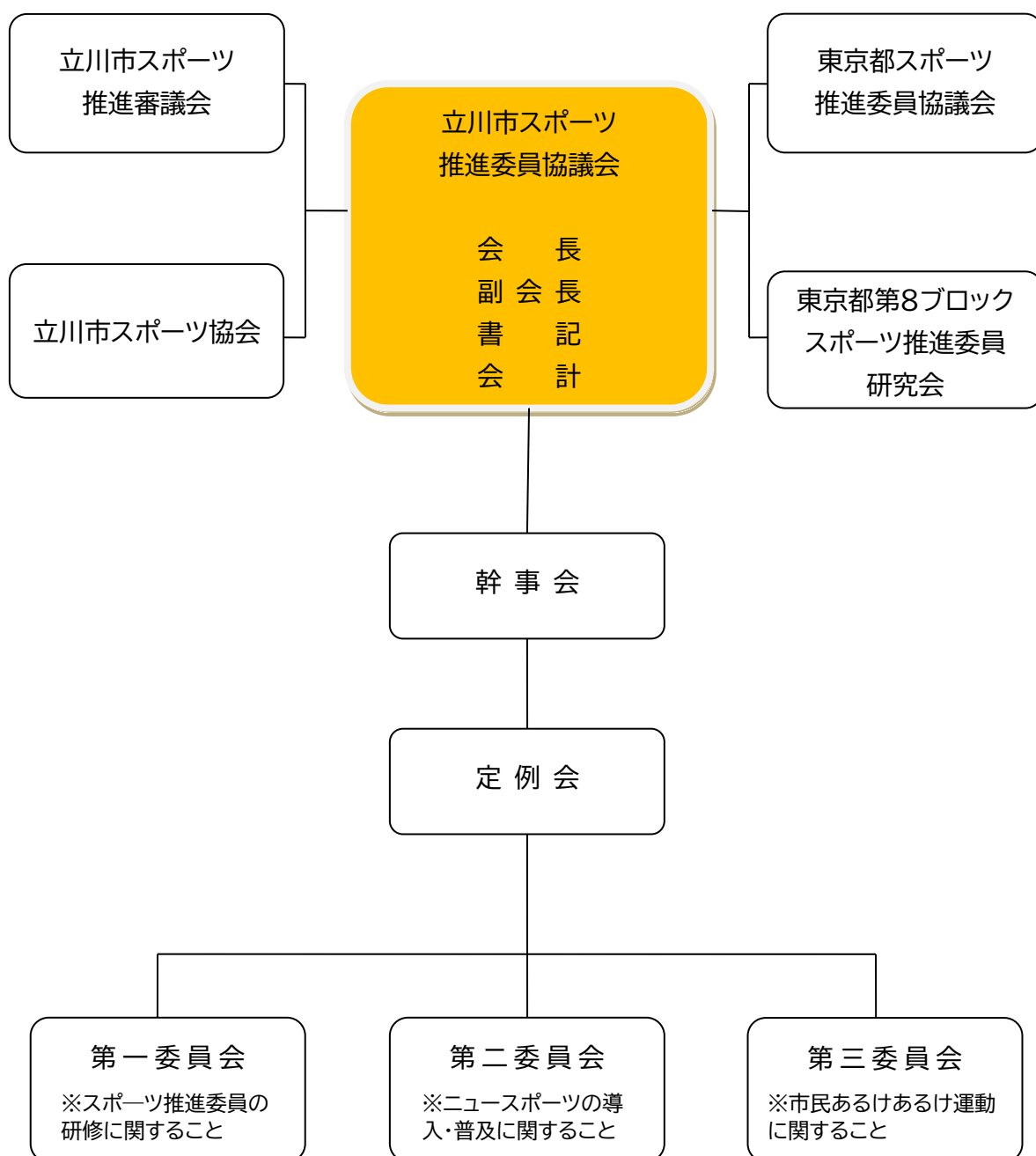
(任期：令和5年7月1日から令和7年6月30日まで)

	氏 名	推薦団体(役職)	委員歴
○	アシザワ セイハチ 芦澤 清八	特定非営利活動法人 立川市スポーツ協会(会長)	一期目
	マツハラ サチコ 松原 幸子	立川市スポーツ推進委員協議会(副会長)	二期目
	フクハラ ノリオ 福原 憲生	立川市立小学校長会 (立川市立上砂川小学校校長)	一期目
	ヤマグチ サトシ 山口 聡	立川市立中学校長会 (立川市立立川第二中学校校長)	一期目
◎	ハラダ ナオユキ 原田 尚幸	体育専門学者 (和光大学教授)	一期目
	ナガシマ ヤスオ 永島 康雄	立川市自治会連合会	三期目
	オガワ ユウタロウ 小川 祐太郎	立川市肢体不自由児・者父母の会 たつのこ	一期目 (令和6年4月～)
	ハラ ヒロキ 原 宏樹	立川商工会議所 (立川プロスポーツ連絡会)	二期目
	モリカワ ヨシユキ 森川 良行	一般社団法人立川市医師会	三期目
	ツノダ ヤスユキ 角田 康行	東京都多摩立川保健所(市町村連携課長)	一期目 (令和6年4月～)
	イデ クラ コウイチ 出倉 光一	市民委員	一期目
	タケウチ リョウコ 竹内 涼子	市民委員	一期目

※◎は会長
○は副会長

9 立川市スポーツ推進委員協議会組織図

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法第 32 条に基づき、市町村教育委員会（特定地方公共団体にあつては、その長）によって委嘱される非常勤の公務員です。立川市においては、現在 12 地区体育会より推薦された 24 名のスポーツ推進委員が、スポーツ団体や組織の育成、実技指導や助言、ニュースポーツの普及等を目的に活動しています。



10 立川市スポーツ推進委員規則

○立川市スポーツ推進委員規則

平成27年3月31日規則第13号

(目的)

第1条 この規則は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第32条第1項の規定に基づく立川市スポーツ推進委員（以下「委員」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(職務)

第2条 委員は、住民のスポーツの振興に関し、その分担する地域又は事項について、次の各号に掲げる職務を行うものとする。

- (1) 地域住民のスポーツ団体及び組織の育成に関すること。
- (2) 住民のスポーツの実技指導及び助言に関すること。
- (3) 学校等の教育機関その他の行政機関の行うスポーツの行事又は事業に関し協力すること。
- (4) 職場スポーツその他スポーツ団体等の相互連絡協力に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進のために必要な指導及び助言を行うこと。

(定数)

第3条 委員の定数は、36人以内とする。

(委嘱)

第4条 委員は、次の各号に掲げる条件を備えている者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 社会的信望を有し、スポーツの実技指導に熱意及び能力のある者
- (2) 学識経験のある者

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 特別の事由があるときは、その任期中においても委員を免職し、又は解職することができる。

(服務)

第6条 委員は、相互に密接に連絡し、協力しなければならない。

2 委員は、その職務を遂行するに当たって、法令、条例並びに規則及び規程に従わなければならない。

3 委員は、その職の信用を傷つけ、又はその職全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

(報酬)

第7条 委員の報酬は、立川市非常勤職員給与等支給条例（昭和36年立川市条例第2号）別表の規定により月額10,800円とする。

(研修)

第8条 委員は、常にその職務を行ううえで必要な知識及び技術の修得に努めなければならない。

(委任)

第9条 この規則の施行に関し必要な事項は、文化スポーツ部長が別に定める。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

1 1 立川市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

○立川市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

平成 27 年 3 月 30 日要綱第 48 号

(設置)

第 1 条 スポーツ振興に係る基本的な計画を策定するため、立川市スポーツ推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を処理する。

- (1) スポーツ推進計画の策定に関すること。
- (2) スポーツ振興に関し、特に調整を必要とする事項に関すること。
- (3) その他必要な事項に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

2 委員長は、文化スポーツ部長を充て、副委員長は、文化スポーツ部スポーツ振興課長(以下「スポーツ振興課長」という。)を充てる。

3 委員は、別表第 1 に定める者を充てる。

(職務)

第 4 条 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

3 委員は、委員会の命を受けて委員会の事務に従事する。

(会議)

第 5 条 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

2 委員会は、委員の定数の過半数の者が出席しなければ、会議を開くことができない。

(幹事会)

第 6 条 委員会に幹事会を置く。

2 幹事会は、委員会に係る事項について協議する。

3 幹事会は、幹事長及び幹事をもって組織する。

4 幹事長は、スポーツ振興課長を充て、幹事は、別表第 2 に定める職員を充てる。

5 幹事長に事故があるときは、委員長があらかじめ指定した者がその職務を代理する。

(関係職員の出席等)

第 7 条 委員会及び幹事会は、必要があると認めたときは、関係職員の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第 8 条 委員会及び幹事会の庶務は、文化スポーツ部スポーツ振興課において処理する。

(委任)

第 9 条 この要綱の施行について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

……略……

附 則

この要綱は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

別表第 1 (第 3 条関係)

市長公室広報プロモーション課長、市長公室公共施設マネジメント課長、政策財務部企画政策課長、政策財務部財政課長、子ども家庭部子ども育成課長、保健医療部健康推進課長、福祉部福祉総務課長、福祉部障害福祉課長、教育委員会事務局教育部指導課長及び教育委員会事務局教育部生涯学習推進センター長

別表第 2 (第 6 条関係)

市長公室広報プロモーション課シティプロモーション推進係長、市長公室公共施設マネジメント課計画推進係長、子ども家庭部子ども育成課青少年係長、保健医療部健康推進課保健事業係長、福祉部福祉総務課生きがいづくり係長、福祉部障害福祉課障害福祉第一係長、文化スポーツ部スポーツ振興課企画調整係長、文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興係長、文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ施設係長、教育委員会事務局教育部指導課指導係長及び教育委員会事務局教育部生涯学習推進センター管理係長

立川市第3次スポーツ推進計画

令和7（2025）年6月発行

発行 立川市
〒190-8666
東京都立川市泉町 1156 番地の9
電 話 042-523-2111（代表）
F A X 042-534-5169
ホームページ <https://www.city.tachikawa.lg.jp/>
編集 文化スポーツ部スポーツ振興課